

年報発刊に 寄せて



われわれの眼前にはしだいに、地域のなかの博物館のあらたな姿がくっきりとした像を結ぼうとしています。それはおそらく、博物館が立っている現場に眼を凝らすことによって、内発的に浮かびあがってくるものであり、外から、何か完成したイメージをもって与えられるものではありません。

たとえば、われわれは文化庁の支援のもとに、「漆のくに・会津」プロジェクトを立ち上げました。それは福島県立博物館を起点として、会津地域のいくつかの施設や組織が連携して繰り広げられることをめざす、ささやかにして実験的な試みです。会津は漆を文化資源として守り育ててきた、まさに「漆のくに」であるといえるでしょう。その地域のたいせつな文化資源である「漆」をテーマとして、われわれは何をなしうるのか。そんな問いがこうして、博物館という場から発せられることこそ、新しい時代の訪れを暗示的に物語りしているのです。

このプロジェクトにおいては、会津ブランドとしての「漆」の活性化を多様なかたちで仕掛けていきます。会津はたんなる伝統的な漆器の生産地ではありません。広大なブナの森では、木地師たちが木を伐りロクロを回し、漆の木から樹液がとられ、若松の城下では、塗師や作家たちがそれを工芸品へとしあげる、いわば会津は「漆のくに」そのものでありました。そこには、素材としての漆／暮らしの道具としての漆／美術・工芸品としての漆といった、「漆」の多彩な顔が、そのすべてが存在しています。だからこそ、われわれの「漆のくに・会津」プロジェクトは大きな可能性を孕んでいるのです。

博物館はいま、地域の文化の収集・研究・展示から、その保存・活用・継承へと重心を移しながら、まさに地域の文化的なアイデンティティの拠点へと成り上がることを、ひそかに求められています。先行する事例がないわけではありませんが、われわれ自身にとってはあくまで未知なるテーマです。そして、それを真っ向から引き受ける覚悟を固めることなしには、地域とともに、地域に暮らす人びととともに博物館を創ってゆくこともできません。いま・ここが、あらたな博物館が創られる現場であることを、何度でも再確認しなければなりません。

福島県立博物館はいま、生まれ変わるために足掻いているのです。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

トピックス

共同企画展「会津磐梯山」

1888年（明治21年）に磐梯山が噴火して120年目を記念し、当館と磐梯山噴火記念館そして野口英世記念館の3館が連携して共同企画展「会津磐梯山」を実施した。それぞれの館で磐梯山に関するテーマを設定して展示会を開催し、共同企画を含む多彩な行事を実施した。



シンポジウム
「磐梯山噴火から考える火山防災」



パネルディスカッション
「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る！」

館長サタデープロジェクト

本年は、「自然との共生 —博物館に求められるもの—」と題して、実際に自然科学系の博物館で研究や運営に携わっている人々、地域の自然を調査している人々などを博物館に迎え、当館館長との対談を通して、自然と共生する方法、そのために求められる博物館の役割などについて議論を深めた。計5回実施した。



「旭山動物園の奇跡を探る」
“奇跡の再生”として有名な北海道旭山動物園園長小菅正夫さんと、元飼育係のあべ弘士さんをお招きしての対談。



「シーラカンスは語る」
アクアマリンふくしまの安部義孝館長の講演に合わせてやってきた、アクアマリンふくしまの移動水族館「アクアラバン」。

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、平成18年に開館20周年を迎えました。博物館は、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動をしてきました。

近年、社会情勢の変化により、博物館の存在意義の見直しと博物館ニーズへの積極的対応が要請されております。このため、今回、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめました。ついては、社会に対する責務を明確にするとともに、博物館に対してみなさんのご理解を深めていただくため、その内容を公表いたします。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にす楽しい環境を整えます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出会いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人々が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主演 博物館

博物館を利用するみなさんも主演です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人々が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館 中期目標

目標年度：平成25年度

福島県立博物館では、「使命」に沿った10項目の「活動の指針」に基づき、それぞれの「活動の指針」に複数の「重点目標」を定め、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な実施計画（中期目標）を定めました。よりたくさんの方々にも博物館を利用していただくため、概ね年間9万人の利用者数を見込み、平成22年には開館以来の入館者数400万人を突破、25年度には430万人を超えることを目指し努力します。平成21年度はこの計画にそって事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実施結果を評価し、みなさんに公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者のみなさんには中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

	平成20年度(確定)	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入館者数	83,275	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
累計入館者数	3,861,281	3,951,281	4,041,281	4,131,281	4,221,281	4,311,281

※入館者数は、企画展開催回数などで大きく左右されるため、企画展開催数を、基準年である平成20年度同様年間2回とした場合の数値

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	21年度評価指標
専門	1. 地域の文化遺産の収集と継承	博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、具体的な資料整理の年次計画に基づき、整理・登録を進める。	5年間で収蔵資料約1万件の整理達成	コレクション等1850件の整理・登録
			作業効率を上げるために、機器類の定期的更新を行う。さらに資料データの入力・検索・管理をより効率化するとともに、コンピュータのOSに対応させるため、収蔵資料管理システムを一新する。	年次計画に沿った収蔵資料管理システムの一新	収蔵資料管理システムの整備に関する計画の策定
		二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究および外部からの図書利用に資するため、年次計画に沿って図書の整理・登録および既存データの修正を進める。また、増加する図書の収蔵スペースを確保する。	図書の既存データ約9000件の修正完了	図書の既存データの修正(2000件)
		博物館資料情報の公開	収蔵資料情報（データベース）の公開はIT化事業の最終目標のひとつ。公開の方法や仕様について検討を進め、収蔵資料管理システムの一新後、公開に向けた作業を進める。また、整理が終了したコレクション等資料情報の公開を随時実施する。	年次計画に沿ったコレクション等資料情報の公開	コレクション等資料情報の公開方法に関する検討
		資料の安全な保存	地球環境保全のため、有害ガスを排出する全館薫蒸を廃止している。それに代わる方法として、資料を害虫から防ぎ安全に保存するためのIPM(総合的害虫管理)を継続実施する。	年2回の文化財害虫調査を元にしたIPMの継続実施	文化財害虫調査の実施(2回)
機能	2. 最新の研究による新たな資料価値の発見	連携した研究活動の推進	研究の質の向上、さらに研究ネットワークを築くため、大学や文化施設あるいは民間の研究団体との共同研究を進める。	共同研究の継続実施(各年度1回以上)	共同研究の実施(1回以上)
			3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	リニューアルの推進	リニューアルの推進
	魅力ある常設展の展開	常設展のリピーター増加をめざし、常設展の小規模展示替え(テーマ展・ポイント展)を毎年実施する。	テーマ展・ポイント展の継続開催(各年度15件)	テーマ展・ポイント展の開催開始(15回)	
	オリジナル企画を中心とした企画展等の開催	館オリジナル企画を中心に、学芸員の研究成果、収蔵資料を活用した企画展や特集展を、集客を考慮しバランスよく実施する。	企画展・特集展を各年度4回のペースで開催	企画展・特集展を開催(4回)	
	きめ細かい解説システムの実施	利用者の様々な質問に対応でき、人的コミュニケーションを大切に展示解説を維持・発展させる。	展示解説員による解説を中心に、「やさしい展示解説会」(毎週土日)等の継続実施	展示解説員による土日の「やさしい展示解説会」の実施	
継続性のある講座の開催	講座の体系化と、ストーリー性をもたせたシリーズ化を進め、利用者の継続参加を促進する。企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	講座・講演会を各年度100回のペースで開催	講座・講演会の開催(100回)		

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	21年度評価指標
交	4. 楽しめて出会いのある空間の創出	エントランスホールの多目的利用	エントランスホールや屋外という開かれた空間を使用し、博物館の展示・資料などと関連をもたせた無料のイベントを開催する。市民団体による企画・運営も検討する。	四季のイベントを中心としたエントランス周りでのイベントの継続実施(各年度4回)	エントランス周りでのイベント開催(4回)
		利用者の快適性と利便性の促進	当館の常設の売店では、館発行の図書・絵葉書のみを販売しており、利用者の多様なニーズに対応していない。20年度秋から企画展開催時を中心に試行しているミュージアムショップの運営とオリジナルグッズの開発を軌道に乗せる。	企画展等に合わせたミュージアムショップの運営とグッズの開発	常設の売店に加え、企画展等展示会に合わせたショップの運営(3回)
		体験型の行事・講座の開催	来館者が参加できる体験型講座を増やす。また、それをイベント等と連結するよう試みる。	体験型の講座・プログラムの実施(各年度50回)	体験型講座の実施(50回)
流	5. 博物館事業への住民参加	ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進する。	自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月2回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	自然資料整理ボランティア2名(通年)、古文書整理ボランティア14名(月2回)の受け入れ
機	6. 博物館情報の発信と公開	効果的な広報の展開	マスコミを始め、外部の各種メディアへの情報提供を継続するとともに、博物館からの情報発信媒体の内容と体裁の見直しを図る。とりわけホームページによる広報に力を入れる。	ホームページアクセス件数各年度40万件	ホームページアクセス件数40万件
能	7. 地域ネットワークの拠点	市町村との連携促進	市町村の文化施設との共同企画展の実施や、博物館資料を提供し展示協力を行う。移動展用のパッケージ化した展示を用意し、要望があれば22年度から実施する。	パッケージ移動展の普及等による移動展の継続実施(各年度1回以上)	移動展開催(1回)
		各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体などからの展示会や講座の共催依頼には積極的に対応し、また、共同企画を立ち上げるなど事業の連携を進める。	共催行事の継続実施(各年度10件)	共催受入基準の作成 共催行事の実施(10件)
	8. 新しい観光ニーズへの対応	観光事業団体との連携	観光事業団体との連携を強め、会津地域への一層の集客を図ると共に、新しい観光ニーズに対応した企画を検討する。	観光事業団体との連携活動(PR・催事等)の実施(各年度1件以上)	観光事業団体との連携(1件)
運	9. 使命の明示と事業の点検	使命・目標の策定	使命に基づき、平成25年度を目標年度とした中期目標を作成し、それと連動した評価システムを作る。毎年評価・点検を行い、それをもとに計画に修正を加える。	中期目標に基づいた評価・点検の実施と計画の修正(各年度1回)	中期目標の策定と公表
			事業の結果を点検・評価し、それを年報やホームページで公表する。	事業の評価と改善点を毎年公表	
		利用者ニーズの把握と対応	入館者数など博物館利用に関する統計をとり、これらの分析を行う。 運営・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートの基本的様式と項目を、それぞれの目的に沿って定め実施する。	入館者統計の分析に基づいた事業の改善を毎年実施 アンケートによる利用者満足度8割以上の達成維持	入館者統計の取り方の変更と分析の方法の確立 展示、行事等のアンケート様式の確立 アンケートによる利用者満足度8割以上の達成
機	10. 人材の育成と機能的な組織	学芸員の専門性の重視	学会等研修会へ積極的に参加し、学芸員としての専門的能力を向上させる。	学芸員による学会等研修会への参加(各年度5件)	学芸員による学会等研修会への参加(5件)
能	11. 危機管理(追加指針)	来館者の生命の危機への対応	地震・火災に対する避難マニュアルを作成し、訓練を実施する。	地震・火災避難訓練の年1回実施	地震・火災の避難訓練実施(1回)
		資料の危機への対応	企画展示室や収蔵庫における安定した温湿度条件の確保(特に冬場)のための改善対策を図る。	収蔵庫・展示室の温湿度計測の月1回の継続実施	収蔵庫・展示室における温湿度の計測(月1回)
		個人情報保護	県のセキュリティ対策に基づき、個人情報情報は分散しないように一元的に管理し、必要なければ適切に廃棄する。また、コンピュータへのウイルス対策を常時実施する。	県のセキュリティ監査の継続実施(年1回)とチェックのクリア	県のセキュリティ監査によるチェックのクリア

目 次

I	沿 革	1
II	事業の概要	2
	1. 資料収集事業	2
	(1) 収集展示委員会	2
	(2) 受贈・受託	2
	(3) 購 入	3
	2. 保存管理事業	3
	(1) 資料の収蔵	3
	(2) 登録・整理	4
	(3) 貸 出	5
	(4) 保 存	6
	3. 展示企画事業	6
	(1) 常設展示	6
	(2) 企画展示	9
	(3) その他の展示	12
	(4) 移動展	25
	(5) 展示解説	31
	4. 調査研究事業	31
	(1) 展示資料調査研究	31
	(2) その他の調査研究事業	33
	(3) 職員の研究活動	33
	5. 教育普及事業	36
	(1) 講座・講演会	36
	(2) ミュージアムイベント	42
	(3) 体験学習室	47
	(4) 学校・文化施設との連携	50
	(5) 生涯学習・研究支援	53
	6. 広報公聴活動および出版事業	54
	(1) 広報活動	54
	(2) 公聴活動	56
	(3) 出版事業	56
	7. 博物館友の会活動への支援	57
	(1) 友の会活動への支援	57
	(2) 友の会の活動状況	57
III	管理運営	60
	1. 組織・職員	60
	2. 予 算	61
	3. 委員会の開催	62
	(1) 運営協議会	62
IV	利用状況	63
	1. 入館者統計	63
	(1) 平成20年度入館者統計	63
	(2) 入館者の推移	64
	(3) 企画展入館者統計	66
	2. 出版物販売	68
V	法 規	70
	福島県立博物館条例	70
	福島県立博物館運営協議会条例	71
	福島県立博物館条例施行規則	71
	福島県立博物館組織規則	74
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	75
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	75
	福島県立博物館資料所在調査要領	75
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	76
	福島県立博物館友の会規約	76
VI	施設の概要	78
	1. 建築概要	78
	2. 設 備	78
	3. 平面図・各室一覧	79
	4. 施設の修理・改築	81
VII	利用案内	82

I 沿 革

《開館にいたるまで》

昭和52年 5月13日	文化を考える県民会議の設置
6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年 1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年 2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日	文化施設等整備基金条例制定
4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年 4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年 1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年 2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年 7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年 6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工芸社・株丹青社による共同企業体）
7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年 3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月1日	展示解説員19名採用
10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年 8月21日	入館者50万人達成
平成元年 3月10日	友の会設立
平成2年10月7日	入館者100万人達成
平成4年 3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年 4月1日	展示解説員22名となる
平成7年 5月5日	入館者200万人達成
平成8年10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年10月15日	入館者300万人達成
平成13年 1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年 3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年 3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
3月31日	高橋富雄館長退任
4月1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年 4月8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年 5月6日	入館者350万人達成
平成18年 9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹一列島の文化北から南から一」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催

II 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

(ア) 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

収集展示委員会委員名簿

氏名	役職名	専門	備考
岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古	委員長
有賀 祥隆	元東北大学文学部教授	仏教絵画	委員
入間田宣夫	東北芸術工科大学東北文化研究センター教授	中世史	同
大迫 德行	福島県民俗学会会長	民俗	同
岡田 清一	東北福祉大学教授	中世史	同
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	古生物	同
平川 南	国立歴史民俗博物館館長	古代史	同
原田 一敏	東京国立博物館上席研究員	工芸	同
村川 友彦	福島県史学会会長	近世・近代史	同
佐々木利和	国立民族学博物館教授	近世史	同
柳田 俊雄	東北大学総合学術博物館教授	考古	同
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	考古	同

(イ) 会議

平成21年2月6日

議題

- ①平成20年度事業の実施概要について
- ②平成21年度事業計画について
- ③平成21年度の企画展について
- ④平成21年度の特集展について
- ⑤中期目標、および使命について
- ⑥その他

(2) 受贈・受託

(ア) 歴史資料

1. 受贈

青研堂楷書御手本	1件	個人
猪苗代高女学徒労働員腕章	1件	個人
絵はがき	33件	個人
計算機 他	3件	個人
土木関係機材	23件	

ふくしま市町村建設支援機構

2. 受託

能面	1件	
小平瀉天満宮氏子総代		
慧日寺金堂復元模型	1件	
福島県知事直轄秘書課長		
平島松尾関係資料	26件	個人
斎藤実手紙 他	10件	個人
敏姫乳母・おせや関係資料	1括	個人
万宝新雑書	1件	個人

金上城他絵図 1件 個人
(イ) 美術資料

1. 受贈

古画類聚 他	281件	個人
黒塗葡萄平極蒔絵吸物椀	10件	個人
黒塗り四ッ椀	1件	個人
鉄錆塗食籠	1件	個人
鍾馗幟一式 他	12件	個人
牡丹藤図花瓶	1件	個人
定盤 他	44件	個人

2. 受託

浦上秋琴筆 山水図 他	3件	個人
金屏風	1件	個人
恵日寺旧蔵印印章	1件	個人
紺紙金泥経 (秀衡経)	9件	個人
鉄製釣燈籠	1件	個人
武者絵幟	1件	個人
白地松竹梅鶴亀模様打掛	1件	個人
高久隆古筆 雪竹群雀図 他	8件	個人
大織冠図屏風 他	3件	個人
松石画 他	4件	個人
小川宇錢筆 年中行事十二ヶ月図屏風	1件	個人
筑波真景図	1件	個人
遠藤香村 山水(猪苗代湖)図	1件	個人
野出蕉雨 指画山水図	1件	個人
和本 他	112件	個人
刀 銘 水心子正秀	1件	個人
佐竹永海筆 楼閣山水図 他	2件	個人

(ウ) 民俗資料

1. 受贈

高機 他 道具類	31件	個人
北田唐箕・自在カギ	2件	個人
国民新聞 他	1括	個人
こしき 他	11件	個人
床屋の鏡 他	17件	個人
二本松市上川崎地区手漉き和紙民具	92件	
財団法人福島県文化振興事業団理事長		
山川將軍書 他	17件	個人
鉢 他 民具類	68件	個人
ジバン 他	3件	個人
ハギレ (手紡ぎ手織りの縞)	1件	個人
細蓑	1件	個人
紡毛機	1件	個人
シノ箕	2件	個人

(エ) 考古資料

1. 受託
 田中・舟森山古墳出土埴輪 1 括
 喜多方市塩川町史編さん専門委員会
 稲荷塚遺跡 他 出土遺物 189件
 会津坂下町教育委員会教育長

(オ) 自然資料

1. 受贈
 化石 116件 個人
 海外採取岩石 99件 個人
 常磐炭田いわき地方の資料 1 括 個人
 ネパール・パキスタン産岩石標本 他 17件 個人

2. 受託
 ボーリングコア 1 件
 野口英世記念館長
 イヌ上科歯化石 1 件 個人

(3) 購入

- (ア) 歴史資料
 東北遊日記（上・下） 1 件

- (イ) 美術資料
 倉谷麓山「寿老人図」 1 件
 佐竹永海筆「牛図」 1 件
 松竹梅桜紋堇物壺六角台 1 件
 遠藤香村筆「猪湖一覽」 1 件
 松竹梅漆絵椀 1 件
 佐竹永海筆「新羅三郎・平経正図」 1 件

- (ウ) 自然資料
 甲殻類（エビ）化石 1 件
 ジュラ紀甲殻類化石 1 件
 ジュラ紀アンモナイト化石 他 31件

- (エ) 図書資料
 1. 一般図書
 考古分野57冊、歴史分野108冊、美術分野
 110冊、民俗分野41冊、自然分野121冊、保存
 分野18冊、その他185冊 計640冊

2. 定期刊行物

定期刊行物リスト

No	雑誌名	分野
1	ナショナルジオグラフィック	共通
2	信濃	共通
3	ミュゼ	共通
4	史林	共通
5	月刊文化財	共通
6	たくさんのふしぎ	共通
7	ニュートン	共通
8	考古学研究	考古
9	考古学雑誌	考古
10	古代文化	考古
11	文化財発掘出土情報	考古
12	考古学ジャーナル	考古
13	季刊考古学	考古
14	宗教研究	民俗
15	日本民俗学	民俗
16	ヒストリア	歴史
17	史学雑誌	歴史
18	歴史評論	歴史
19	地方史研究	歴史
20	日本史研究	歴史
21	日本歴史	歴史
22	歴史学研究	歴史
23	仏教芸術	美術
24	日本の美術	美術
25	芸術新潮	美術
26	国華	美術
27	第四紀研究	自然
28	日経サイエンス	自然
29	科学	自然
30	海洋	自然
31	地球	自然
32	Journal of the Foraminiferal Research	自然
33	化学	保存科学
34	文化財の虫菌害	保存科学

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

(ア) 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数（概数）の、現在までの累計を示す。

収蔵資料数 (平成21年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	18,484	土器・石器・金属器ほか
民俗	12,532	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	20,602	書籍・文書資料ほか
美術	5,880	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	46,261	化石・岩石・鉱物ほか
合計	103,759	

収蔵指定文化財（寄託資料を含む）

No.	指定者	指定種別	資料種類	資料名	点数	単位
1	国	重要文化財	絵画	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅
2	国	重要文化財	工芸品	銅鉢	2	口
3	国	重要文化財	工芸品	椿彫木彩漆笈	1	背
4	国	重要文化財	工芸品	白銅三鈷杵	1	点
5	国	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅
6	国	重要文化財	考古資料	会津大塚山古墳出土品	一括	
7	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色松平楽翁像	1	幅
8	福島県	重要文化財	絵画	七里ヶ浜遠望図	1	面
9	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色達磨図	1	幅
10	福島県	重要文化財	絵画	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅
11	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅
12	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅
13	福島県	重要文化財	絵画	絹本著色普賢菩薩像	1	幅
14	福島県	重要文化財	彫刻	木造地藏菩薩坐像	1	軀
15	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	軀
16	福島県	重要文化財	彫刻	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	軀
17	福島県	重要文化財	工芸品	銅鉢	1	口
18	福島県	重要文化財	工芸品	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口
19	福島県	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅
20	福島県	重要文化財	書跡	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻
21	福島県	重要文化財	書跡	相馬家系図	1	巻
22	福島県	重要文化財	典籍	家世実記	277	冊
23	福島県	重要文化財	古文書	塔寺八幡宮長帳断簡	9	紙
24	福島県	重要文化財	古文書	築田家文書	一括	
25	福島県	重要文化財	考古資料	福島信夫山出土品	一括	
26	福島県	重要文化財	考古資料	金銅製双魚袋金具	2	枚
27	福島県	重要文化財	考古資料	原山一号墳出土埴輪	一括	
28	福島県	重要文化財	考古資料	梁川城本丸跡出土品	一括	
29	福島県	重要文化財	考古資料	常世原田遺跡出土品	一括	
30	福島県	重要文化財	考古資料	流庵寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口
31	福島県	重要文化財	考古資料	田村山古墳出土品	一括	
32	福島県	重要文化財	考古資料	森北1号墳出土品	一括	
33	福島県	重要文化財	考古資料	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括	
34	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本著色恵日寺絵図	1	幅
35	福島県	重要文化財	歴史資料	陸奥国会津城絵図	1	鋪
36	福島県	重要有形民俗文化財	有形民俗文化財	上行合人形	368	点
37	福島県	天然記念物	化石	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体

(イ) 図書および映像資料

1. 収蔵図書数（平成21年3月31日現在）
考古分野19,796冊、民俗分野3,682冊、歴史分野6,887冊、美術分野2,895冊、自然分野14,351冊、保存分野1,314冊、その他47,134冊
合計96,059冊
2. 収蔵映像資料数（平成21年3月31日現在）
本年度より映像資料の修正登録を開始した。これまで未登録だった映像資料についても、今後、順次登録を進める計画である。
登録済映像資料数 1,058点

(2) 登録・整理

(ア) 収蔵資料管理システムの運用

平成14年度に、資料管理のデータベースソフトを新たに購入・カスタマイズし、それに伴い新しくネットワークを構築し、サーバー・クライアント方式で資料の登録・管理を実施している。平成19年度末に、一部機器類を更新した。平成20年度は、博物館資料の登録をはじめ、データのバックアップ、システムのアップデートなどのメンテナンスなどを実施した。

(イ) データベースへの入力

博物館資料のデータを次のとおり収蔵資料管理システムに入力した。表中の数値は入力済み資料の件数を示す。

データ入力数 (平成21年3月31日現在)

分野	データ入力 (平成20年度)	データ入力 (累計)
考古	647	10,418
民俗	748	11,923
歴史	562	30,675
美術	514	5,739
自然	1,075	20,838
合計	3,546	79,593

(ウ) ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、自然資料の整理を行った。

猪俣桂次 標本への注記(受入番号書き込み) 計2,372点

五十嵐久美子 会津地方産の化石標本の整理・登録 計45件

吉田有美 いわき地域の新生代植物化石(鈴木敬治コレクション)の整理・登録 計244件

(3) 貸出

(ア) 博物館資料

貸出資料

資料名	貸出先	期間	展覧会名
桜井遺跡出土遺物 54点	南相馬市博物館	4月1日～平成21年3月31日	同館常設展
三貫地貝塚出土骨角器 5点	福島県文化財センター白河館	4月1日～平成21年3月31日	同館常設展「暮らしをささえた道具たち」
雪村周継「瀟湘八景図帖」	仙台市博物館 岡山県立美術館	4月1日～7月31日	企画展「朝鮮王朝の絵画と日本」
アットウシリイシリ島の図 蝦夷出陣軍勢逗留次第二付書状 於魯志伊家雑談他 計22件	若松城天守閣郷土博物館	6月15日～9月5日	「会津藩 蝦夷地を守る～北方警備200年記念展」
衣崎遺跡出土鉄剣 2振	会津美里町公民館	7月1日～7月11日	「文化財でたどる会津美里歴史展」
戊辰戦争図のうち「白河之戦」	白河集古苑	7月15日～9月7日 (展示期間)	「阿部家と白河の戊辰戦争」展
金冠塚古墳出土品 26点	福島県文化財センター白河館	7月8日～平成21年3月31日	「金の冠 鉄のかぶと～東京国立博物館収蔵資料に見るふくしまの古墳時代～」
メタセコイア(いわき市上遠野町) コナラ属の一種(いわき市鹿島町御代)他 計14点	ふくしま海洋科学館	7月3日～平成21年3月31日	常設展「いわき地方の化石」
松平容貞筆「田畑図」 松平容敬筆「時鳥・芭蕉図」 松平容保所用「鳥秋草蒔絵鼓」他 計11件	若松城天守閣郷土博物館	9月1日～11月30日	企画展「会津松平家と戊辰戦争」
木地ハギトリ 1点 マガリヨキ 2点	八幡平市博物館	8月16日～10月15日	10周年企画「安比・七時雨物語展」
マルニ漆器製作所製「玉虫塗御所車 山水蒔絵ランプ台」 マルニ漆器製作所製「玉虫塗楼閣山 水蒔絵ランプ台」 六角紫水「スケッチ松図」	広島県立美術館	11月1日～平成21年1月31日	「国宝を創った男 六角紫水展」
「酒」字図 黒漆塗松竹梅盃台 朱漆塗片口	双葉町歴史民俗資料館	10月22日～12月14日	企画展「お酒の民俗誌」
腰浜廃寺出土瓦3点 信夫山出土鏡等遺物24点	福島県文化財センター白河館	平成21年2月20日～3月31日	企画展「まほろん春の展示新編 陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」
上杉景勝書状 1通 伊達政宗書状 1通 伊達政宗黒印状	福島県歴史資料館展示室	平成21年1月7日～3月24日	企画展「天地人の時代ーふくしまと直江兼統」
跡見塚古墳群出土玉類 8件318点	須賀川市立博物館	平成21年1月25日～3月31日	常設展示「須賀川の歴史」
竹島コレクション 縄文・弥生石器 資料 計133点	南相馬市博物館	平成21年3月25日～3月31日	原町市史第3巻「考古」資料編 I にかかる資料調査および掲載のため

- (イ) 写真資料
 写真資料貸出掲載許可枚数 (延べ枚数)
 美術分野62枚、歴史分野51枚、考古分野56枚、民俗分野3枚、自然分野3枚、その他施設・館外観写真等15枚 計101件190枚

(4) 保 存

(ア) 防虫作業等

1. 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫 (一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、室内塵埃中昆虫、気相 (酸・アルカリ度、ホルムアルデヒド、酢酸、二酸化窒素の濃度) 及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の変化を確認するため、6月25日～7月17日、11月19日～12月11日の2回にわたり実施した。

2. 燻蒸庫による燻蒸

第1回 (5月1日)～第4回 (12月26日)まで、新収蔵資料および企画展出品資料を中心に約621件の燻蒸を行った。

(イ) 保存処理作業

1. 金属製遺物 浦尻遺跡出土鉄製遺物、勿来金冠塚出土鉄製遺物

(ウ) 修復

業者に委託し、次の資料の修復を実施した。
 蒲生羅漢筆「布袋山水図 三幅対」
 倉谷鹿山筆「唐人物図 楊軒讚」
 倉谷鹿山筆「関羽図」
 安藤遠雪筆「猿図」

3. 展示企画事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間のテーマで構成される。部門展示は、テーマ性

の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。部門展示の歴史美術は常設展示の中ではギャラリー的な役割を受け持ち、年間7～8回のテーマを持ったミニ展示を開催している。

(ア) 展示テーマと展示資料数

テーマ別展示資料数

(平成21年3月31日現在)

大テーマ	中テーマ	標本	情報	計	大テーマ	中テーマ	標本	情報	計
A 原 始	A-1 福島最古の人間	37	16	53	C 中 世	C-1 阿津賀志山の合戦	1	5	6
	2 氷河時代の生活	66	3	69		2 神仏習合の世界	48	1	49
	3 最終氷期後半の環境	15	2	17		3 好嶋庄の村むら	5	2	7
	4 環境の変化と生業	215	8	223		4 南党と北党	21	3	24
	5 縄文のムラ	158	14	172		5 国人一揆	4	3	7
	6 縄文人	3	4	7		6 戦国の群雄	27	4	31
	7 信仰と墓地	64	13	77	小 計	106	18	124	
	8 稲作の開始	97	6	103	D 近 世	D-1 奥羽仕置と諸藩の成立	15	2	17
	9 再葬の墓	12	14	26		2 学問と文化	26	2	28
小 計	667	80	747	3 庶民の信仰		62	0	62	
B 古 代	B-1 会津大塚山古墳	175	5	180		4 会津農書の世界	58	2	60
	2 原山1号墳の主	26	1	27		5 町のにぎわい	34	8	42
	3 群集する古墳	48	6	54		6 山国の神と人	51	3	54
	4 ムラの暮らし	217	7	224		7 産業の発達	25	2	27
	5 陸奥国の成立	42	23	65	8 海のなりわい	29	1	30	
	6 公民の生活	135	3	138	9 ゆれうごく封建社会	27	11	38	
	7 在地の仏教	8	2	10	小 計	327	31	358	
小 計	651	47	698						

大テーマ	中テーマ	標本	情報	計	大テーマ	中テーマ	標本	情報	計
E 近 ・ 現 代	E-1 戊辰戦争	28	11	39	自然 県土 の 形 成	1 基盤形成の時代	193	24	217
	2 自由民権運動	27	19	46		2 海の時代	126	9	135
	3 福島県の成立	36	8	44		3 山脈形成の時代	53	11	64
	4 安積開拓事業	5	15	20		4 段丘形成の時代	63	9	72
	5 庶民の生活	29	16	45		小 計	435	53	488
	6 日本の花形産業	37	17	54	考古 利 器 の 器 と 変 遷	(a 旧石器・縄文・弥生)	166	1	167
	7 15年戦争下の生活	45	10	55		(b 古墳・奈良・平安)	160	0	160
	8 戦後の社会	54	5	59		(c 中世・近世)	20	0	20
	9 変わりゆく社会	0	4	4		(d 近・現代)	14	0	14
	小 計	261	105	366		小 計	360	1	361
F 自然 と 人 間	F-1 福島の盆地と平野	27	7	34	歴史 美術	テーマ展示	29	0	29
	2 福島の鉱山	71	14	85		小 計	29	0	29
	3 福島の火山と湖	13	7	20	そ の 他	ビデオ・ブース	1	32	33
	4 福島の河川	11	20	31		ホール・ロビー	2	1	3
	小 計	122	48	170		小 計	3	33	36
民俗 福 島 の 世 界	1 七歳まではカミのうち	114	14	128	総合 展示 計	総合展示計	2,134	329	2,463
	2 遊びをせんとや生まれけむ	134	16	150		部門展示計	1,087	95	1,182
	3 小さき者の声	15	11	26		合 計	3,221	424	3,645
	小 計	263	41	304		総計[総合・部門・導入展等]	3,224	457	3,681

展示資料中の借用資料数 (平成21年3月31日現在)

区分	大テーマ	標本資料	情報資料	合計	借用資料(内数)
総合 展 示	原 始	667	80	747	193
	古 代	651	47	698	356
	中 世	106	18	124	10
	近 世	327	31	358	144
	近・現代	261	105	366	120
	自然と人間	122	48	170	45
部 門 展 示	民 俗	263	41	304	20
	自 然	435	53	488	35
	考 古	360	1	361	160
	歴史・美術 (テーマ展示)	29	0	29	0
	ロビー他	3	33	36	0
	総 計	3,224	457	3,681	1,083

(イ) 歴史美術テーマ展示

常設展示室の「歴史・美術」の展示室において、定期的にテーマを設け、美術の資料を中心とし、さらに歴史や民俗分野の収蔵・借用資料も展示した。

- ① ささやかなみやびーこどもの着物と祝いの装いー
会期：平成20年3月22日(土)～5月11日(日)
- ② チャイニーズヒーローー描かれた中国の英雄たちー
会期：5月17日(土)～6月15日(日)
- ③ ふくしま窯めぐり2
会期：6月17日(火)～7月21日(月・祝)

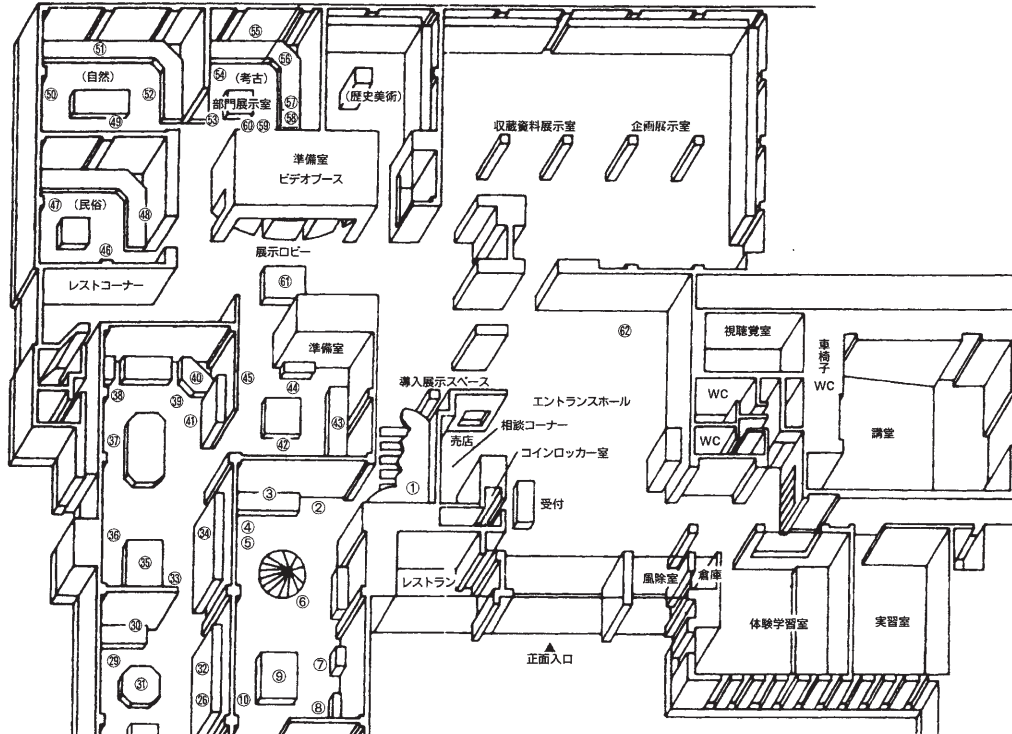
- ④ けんぱく版課外授業ー資料で見る社会科ー
会期：7月23日(水)～8月24日(日)
- ⑤ けんぱくの宝'08
会期：8月26日(火)～10月5日(日)
- ⑥ 寄贈記念 近世商家の文化ー大和弥コレクション展ー
会期：11月29日(土)～平成21年1月12日(月)
- ⑦ アイヌの民具とくらし
会期：1月24日(土)～3月1日(日)
- ⑧ 石井研堂の足跡を訪ねて
会期：3月14日(土)～5月10日(日)

(ウ) 展示替え

総合展示室において展示品の入れ替えを行った。

1. 夏の企画展「宝の山2008」に関連した入れ替え
時期：7月19日～9月23日(企画展会期中)
展示場所・おもな資料
 - ① 「古代」在地の仏教：山岳信仰に関連して「流廃寺跡金銀象嵌鉄剣」など
 - ② 「中世」戦国の群雄：磐梯山麓の摺上原合戦に関連して「三忠碑拓本」など
 - ③ 「近世」奥羽仕置と諸藩の成立：江戸時代の磐梯山の姿に関連して「若松城下絵図屏風」など
 - ④ 「自然と人間」福島の火山と湖：磐梯山噴火に関連して「見祢の大石(写真)」など
2. 常設コーナー拡大展示「戊辰戦争140年記念展 ある会津藩士の回顧録」

福島県立博物館の展示構成



《総合展示》

- ①清戸迫横穴壁画
- 原始
- ②福島最古の人間
- ③氷河時代の生活
- ④最終氷期後半の環境
- ⑤環境の変化と生業
- ⑥縄文のムラ
- ⑦縄文人
- ⑧信仰と墓地
- ⑨稲作の開始
- ⑩再葬の墓
- 古代
- ⑪会津大塚山古墳
- ⑫原山1号墳の主
- ⑬群集する古墳
- ⑭ムラの暮らし
- ⑮陸奥国の成立
- ⑯公民の生活
- ⑰在地の仏教
- 中世
- ⑱阿津賀志山の合戦
- ⑲神仏習合の世界
- ⑳好嶋庄の村むら
- ㉑南党と北党
- ㉒国人一揆
- ㉓戦国の群雄

- 近世
- ㉔奥羽仕置と諸藩の成立
- ㉕学問と文化
- ㉖庶民の信仰
- ㉗会津農書の世界
- ㉘町のにぎわい
- ㉙山国の神と人
- ㉚産業の発達
- ㉛海のなりわい
- ㉜ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- ㉝戊辰戦争
- ㉞自由民権運動
- ㉟福島の成立
- ㊱安積開拓事業
- ㊲庶民の生活
- ㊳日本の花形産業
- ㊴15年戦争下の生活
- ㊵戦後の社会
- ㊶変わりゆく社会
- 自然と人間
- ㊷福島の盆地と平野
- ㊸福島の鉱山
- ㊹福島の火山と湖
- ㊺福島の河川

《部門展示》

- 民俗(ふくしまの子供の世界)
- ㊻七歳まではカミのうち
- ㊼遊びをせんとや生まれけむ
- ㊽小さき者の声
- 自然(県土の形成)
- ㊾基盤形成の時代
- ㊿海の時代
- ㊽山脈形成の時代
- ㊽段丘形成の時代
- 考古(容器と利器の変遷)
- ㊽旧石器時代
- ㊽縄文時代
- ㊽弥生時代
- ㊽古墳時代
- ㊽奈良・平安時代
- ㊽中世
- ㊽近世
- ㊽近・現代
- 歴史美術(福島の美術)
- ㊽ロビー・エントランスホール
- ㊽白水阿弥陀堂模型
- ㊽二本松提燈祭竹田町太鼓台

時期：9月17日～10月19日

展示場所・おもな資料

- ①「近世」学問と文化：「会津藩校誌」「日新館図」「日新館教授図」など
- ②「近現代」戊辰戦争：「夢のしおり(回顧録)」「戊辰戦争図」「西軍落書きの扉」など

3. その他

展示場所・おもな資料

- ①「中世」戦国の群雄：「葦名盛氏伝書」「葦名盛高・盛舜・盛氏班物」「伊達政宗黒印状」など
- ②「近世」奥羽仕置と諸藩の成立：「蒲生氏郷書状」「豊臣秀吉朱印状」「会津藩領絵図」「道中絵図」など
- ③「近世」学問と文化：「集古十種」「会津暦」「算額」など

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が企画し、館のオリジナルなテーマに基づいた展示を2ヶ月程度の期間で年に数回開催している。平成20年度は2回の企画展を実施した。

(ア) 夏の企画展

「宝の山2008 - 磐梯山をめぐる人と自然 -」

1. 会期 平成20年7月19日(土)～9月23日(火・祝) 58日間
2. 入館者数 6,210人
3. 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎・小澤義春 歴史分野：佐藤洋一・星幸・高橋充 考古分野：藤原妃敏・森幸彦・大竹正浩 民俗分野：佐々木長生
4. 趣旨

会津のシンボルである磐梯山をとりまく自然や歴史・民俗など幅広い内容をとりあげ、その素晴らしさを伝えてゆくことをねらいとした企画展である。今回は、下記の3館が連携した共同企画展「会津磐梯山」として実施し、それぞれの館で、さまざまな展示や催し物を開催した。

◆共同企画展「会津磐梯山」

- 福島県立博物館「宝の山2008 - 磐梯山をめぐる人と自然 -」(7月19日～9月23日)
- 磐梯山噴火記念館「写真から見る1888年の磐梯山の噴火」(7月5日～11月16日)
- 野口英世記念館「磐梯山への想い 野口英世の恩師・小林栄の遺したもの」(7月1日～11月30日)

◆後援

会津若松市 喜多方市 猪苗代町 磐梯町

北塩原村

5. 展示構成

誕生から現在まで変貌を遂げた磐梯山を背景として、山麓に生まれた人びとの生活や、磐梯山に関わった有名・無名の人びとを紹介した。

I 磐梯火山の生い立ち

磐梯山は、およそ35万年前から本格的な火山活動を開始した。その証拠となる岩石標本などを展示し、磐梯山の形成過程をたどった。また猪苗代湖の誕生や、その後の水位の変化のようすも示した。

(おもな展示資料) 安山岩溶岩(館蔵)、パン皮状火山弾(館蔵)、猪苗代町三城瀧掘削ボーリングコア(野口英世記念館蔵)

II 磐梯山麓に暮らす人びと

山麓に人類の生活の痕跡がみられるのは、およそ3万年前。その後のようすを、法正尻遺跡など遺跡からの出土品、慧日寺など寺社に伝来した宝物、村の暮らしの中で用いられた民具などを通して紹介した。

(おもな展示資料) 法正尻遺跡出土縄文土器・硬玉製大珠(福島県教育委員会蔵)、白銅三鈷杵(恵日寺蔵 当館寄託)、奥州会津怪獣の絵図(個人蔵)

III 120年前の噴火と新聞報道

1888年7月15日の大爆発のメカニズムや被害の状況を当時の記録や地図・絵図などから明らかにした。また、この時は日本の新聞の黎明期に当たり、各社が競い合うように特色のある取材や報道を展開した。報道に携わった人物を、ゆかりの資料とともに紹介した。

(おもな展示資料) 磐梯山噴火真図(館蔵)、日本製中型湿板カメラ(日本カメラ博物館蔵)、ビゴースケッチ(宇都宮美術館蔵)

IV それからの磐梯山

1950年に磐梯朝日国立公園誕生。噴火によってできた五色沼などの湖沼群の観光や、標高1819mを目指す登山など、にぎわいをみせるようになった。現代の火山防災に関する資料などを展示し、また昭和30年代の福島民友ニュースの磐梯山関連映像を流した。

(おもな展示資料) すず書き地震波形(若松測候所蔵)、磐梯山火山防災マップ(館蔵)、猪苗代湖と磐梯山絵はがき(個人蔵)

※展示資料は企画展図録「会津磐梯山」に詳しく掲載。

6. 関連行事

①ミュージアムイベント「会津磐梯山を歌おう」

日時 7月19日(土) 午前11時～12時

②記念講演会「磐梯山噴火に地元の人々はどう対処したか」

パネルディスカッション「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る！」

日時 7月27日(日) 午後1時30分～4時

講師 岩手県立大学名誉教授 米地文夫氏
野口英世記念館学芸課長 小松山六郎氏
磐梯山噴火記念館副館長 佐藤 公氏
福島県立博物館専門学芸員 竹谷陽二郎

③フォーラム「玄如節 民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」

公演「玄如節 歌垣の世界」

日時 8月3日(日) 午後1時30分～4時

パネラー・公演 玄如節顕彰会

コーディネーター 福島県立博物館専門学芸員 佐々木長生

④シリーズ磐梯山①「磐梯山周辺の植物」

日時 7月26日(土) 午後1時30分～3時

講師 福島県野生動物植物保護アドバイザー 阿部 武氏

⑤シリーズ磐梯山②「法正尻遺跡 ―縄文中期の人々の生活―」

日時 8月2日(土) 午後1時30分～3時

講師 福島県文化振興事業団 松本 茂氏

⑥シリーズ磐梯山③「火山噴火のモデル実験をしよう」

日時 8月9日(土) 午後1時30分～3時

講師 福島県立博物館主任学芸員 小澤義春

⑦シリーズ磐梯山④「葦名と伊達の戦い」

日時 8月23日(土) 午後1時30分～3時

講師 郡山市文化財保護審議会会長 高橋 明氏

⑧シリーズ磐梯山⑤「民話 手長・足長を語る」

日時 8月30日(土) 午後1時30分～3時

講師 野口英世記念館学芸課長 小松山六郎氏

いなわしろ民話の会のみなさん

福島県立博物館専門学芸員 佐々木長生

⑨シリーズ磐梯山⑥「文芸の世界」

日時 9月13日(土) 午後1時30分～3時

講師 元福島県立図書館総括司書 菅野俊之氏

⑩木曜の広場「会津学講座5 磐梯山信仰」

日時 8月7日(木) 午後1時30分～3時

講師 福島県立博物館館長 赤坂憲雄
福島県立博物館専門学芸員 佐々木長生

⑪展示解説会

7月20日(日)、7月21日(月・祝)、9月22日(月)、9月23日(火・祝)

◆3館合同企画

①シンポジウム「磐梯山噴火から考える火山防災」

日時 7月19日(土) 午後1時～4時 福島県立博物館講堂

②「会津磐梯山は世界一 ―磐梯山子どもシンポジウム―」

日時 9月6日(土) 午後1時～5時 国立磐梯青少年交流の家講堂

③「山寺サミットIn会津 ―慧日寺跡と福島



福島県立博物館 夏の企画展

宝の山 2008

磐梯山をめぐる人と自然

7/19(土)～9/23(火・祝)

7/5～11/16 磐梯山噴火記念館 共同企画展 会津磐梯山 野口英世記念館 7/1～11/30

写真から見る1888年の磐梯山の噴火
今までに発見された1800余の磐梯山噴火の写真と、同じ場所から撮影したものを並べ、当時と現在との比較など、1888年の噴火がわかる。写真や資料、本や図鑑、インターネットの情報を紹介し、若田や川本らの写真家の撮影を振り返り、当時の様子も紹介します。

磐梯山への想い
小林は、明治21年の磐梯山噴火の体験や二次災害などを学術雑誌に投稿、また、数回鎌倉市を自宅内に避難して、東京への科学雑誌の購入を実現した。国立公園制度にも携わり、磐梯山への想いを残していた小林の足跡を辿ります。

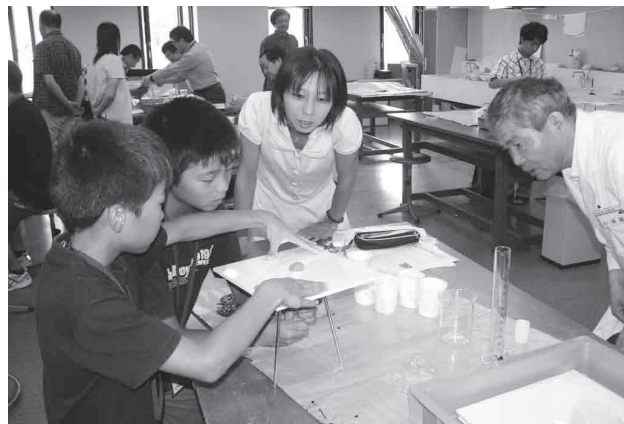
磐梯山噴火記念館 〒969-2701 福島県磐梯郡北塩原村大字磐梯山 電話(0242)22-2282 FAX(0242)22-2281

福島県立博物館 〒969-0807 福島県会津若松市城東町1-28 電話(0242)22-9900 FAX(0242)22-9909

野口英世記念館 〒969-2224 福島県磐梯郡磐梯町大字三ツ和字野口 電話(0242)69-2219 FAX(0242)69-2209

◇後援◇ 会津磐梯市 喜多方市 猪苗代町 磐梯町 北塩原村

「宝の山2008」リーフレット



「火山噴火のモデル実験をしよう」



「宝の山2008」展示風景



「宝の山2008」展示解説会

「県内の山岳寺院一」

日時 9月21日(日) 午前9時30分～午後4時
 福島県立博物館講堂

④ 3館巡見ツアー「磐梯山のすべてがわかる！」

日時 8月21日(木) 3館・慧日寺金堂など

7. 成果と課題

- ① 3館による共同企画展として開催したことにより、展示・行事の内容が充実し、話題性も高まった。3館の展示内容を網羅した共同の展示図録も大きな成果であった。
- ② 当初目標にしていた入館者数には到達しなかった。ガソリン代高騰などにより、例年に比べて観光客が少なかったことなどが、おもな原因と考えられる。
- ③ 館内の複数分野が合同で企画・実施したが、基礎的な調査や研究が十分ではなく、また相互に展示内容を検討する時間もとれなかったため、展示全体のバランスやまとまりがよくなかった。重要で大きなテーマであればある程、十分な準備期間を設定して、展示に結実させることが必要である。
- ④ 磐梯山のジオパーク構想など、次に進むステップになったことは、大きな成果である。

(イ) 秋の企画展

「遠藤香村 一会津に生きた会津の画人一」

1. 会期 平成20年10月11日(土)～11月24日(月・休)
2. 入館者数 2,829人
3. 担当学芸員 美術分野：川延安直
4. 趣旨

遠藤香村は、江戸時代の後期、会津若松の香塩に生まれたと伝えられる画人。江戸時代画壇の主流であった四条派や谷文晁の画風を学び、俳句にも通じ、会津の地で盛んな制作活動を繰り広げた。藩の命を受け会津漆器や本郷焼の図案改良にも尽力したと伝えられるが、現存する作品の多さからは、民間の幅広い支持があったことが知られる。言い換えれば、香村の作品群からは、当時の会津の人々の「センス」がうかがえるのである。

現在もなお、比較的多くの作品を確認できる香村だが、近い将来、それらも多くが散逸する可能性が高い。そうした状況を受け、本展では可能な限り調査を進め作品データを集積し、その結果を展示公開することを目的とした。また、伝統文化を多角的に体験する体験講座などを開催し、単に文化財の紹介に留まらず、郷土の伝統文化を楽しんで学べる機会を提供した。



「遠藤香村」リーフレット



「遠藤香村」展示風景

5. 展示構成

I 山水 現の風景 夢の風景

真景図・洋風画を含む香村の描いたさまざまな山水図を展示。

II 古今東西 神か人か

故事人物・道釈人物など香村の描く多彩な人物図を展示。新発見の優作「韓信・岳飛図屏風」は香村の優れた技量をあらためて認識させる大作。

III 花鳥 四季折々 愛しきモノたち

円山四条派の画風を基調とした花鳥図は香村作品の中でも人気を博した分野であったと思われ、多くの作例が残された。そうした代表的作例に加え、従来あまり紹介される機会がなかった香村の俳画を紹介した。
※展示資料は企画展図録「遠藤香村」に詳しく掲載。

6. 関連行事

① 記念公演「香村が見た 聞いた 江戸時代の怪事件」

日時 11月16日(日) 午後1時30分～3時

出演 和合亮一氏、和合敦子氏、浜中順子氏、若槻麻美氏、天野和彦氏

作画 佐瀬綾子氏、高橋克幸氏、若杉儀子氏

文 前田智子氏

映像制作 KNIPPER 猪卷和之氏

協力 会津大学演劇部

音楽 遠藤博明氏

② 記念講座「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験」

日時 10月12日(日)、26日(日) 午後1時30分～3時

講師 会津能楽会

③ 美術講座「縁起物を作ろう 鯉の漉登りを描こう 焼き物で作る七福神」

日時 11月2日(日) 午前10時30分～12時、

午後1時30分～3時

講師 渡邊晃一氏、金山 忍氏

④ 展示解説会「古美術の見方入門」

日時 10月11日(土)、25日(土)、11月22日(土)

午後1時30分～3時

講師 学芸員 川延安直

⑤ ミュージアムイベント「警女唄を知っていますか」

日時 10月18日(土) 午後1時30分～3時

出演 警女唄伝承者 萱森直子氏

画家 木下 晋氏

⑥ 記念公演「警女唄 祭文松坂～巡礼おつる～」

日時 10月18日(土) 午後3時30分～4時30分

出演 警女唄伝承者 萱森直子氏



「遠藤香村」展示解説会



記念公演「香村が見た 聞いた 江戸時代の怪事件」

(3) その他の展示

(ア) まほろん移動展「考古学から探る古代会津—古墳・飛鳥・奈良・平安—」

～新編陸奥国風土記〔巻之五〕会津郡・耶麻郡その二より～

(福島県文化財センター白河館(まほろん)との共催)

会 期 平成20年 3月15日(土)～5月11日(日)
 ※この展示会については、年報第22号(平成19年度)に詳しく掲載。

(1) 「野山の宝 化石・鉱物展 ー友の会化石・鉱物探検隊10周年成果展ー」

1. 主 催 福島県立博物館友の会・福島県立博物館
2. 会 期 平成21年 2月7日(土)～4月5日(日)
2. 会 場 企画展示室(常設展料金で観覧)
3. 入館者数 4,332人
4. 担当学芸員 自然分野：小澤義春
5. 趣 旨

化石・鉱物探検隊は、「県立博物館友の会」会員の有志でつくる研究サークルである。福島県内・隣県を活動のフィールドとして、化石や岩石・鉱物の採集を行うとともに調査研究を精力的に行っている。平成21年に結成10周年の節目を迎えるのを機に、この10年間に採集した化石・鉱物を展示公開し、化石・鉱物の魅力を紹介するとともに、10年の活動のあゆみを振り返る展示会を催した。

6. 展示構成

- ①例会採集化石・鉱物コーナー「ふくしまの化石」「ふくしまの鉱物」
- ②コレクターコーナー「日本の化石・鉱物」
- ③研究資料
- ④体験コーナー



「野山の宝 化石・鉱物展」展示解説会

- ⑤化石・鉱物探検隊10年のあゆみ写真コーナー
- ⑥鉱物岩石オブジェ
- ⑦書籍コーナー
- ⑧化石・鉱物標本プレゼント

7. 関連行事

①展示解説会

- | | | |
|----|----------|------------|
| 日時 | 2月8日(日) | 午後1時30分～3時 |
| 講師 | 探検隊員 | 参加者数145名 |
| 日時 | 3月29日(日) | 午後1時30分～3時 |
| 講師 | 探検隊員 | 参加者数188名 |
| 日時 | 4月5日(日) | 午後1時30分～3時 |
| 講師 | 探検隊員 | 参加者140名 |

②化石・鉱物標本プレゼント

展示解説会終了後に実施。計3回実施。希望した全員に総計470件余を配布した。

8. 成果・課題

- ①これまでの採集標本や研究資料等を広く県民に観覧してもらいたいという化石・鉱物探検隊員の宿願を叶えることができた。
- ②展示会の展示全般にわたり、博物館と一般市民とが協働して開催するのは開館以来初の試みであった。探検隊員には博物館の展示作業を体験する機会になり、博物館理解が深まったと思われる。
- ③地域の風土・文化を知りたいという県民の潜在的欲求に、化石・鉱物という地質的側面から応えることができた。来館者は実物標本に感動するとともに、それらが発掘された身近な地域について愛着を深めることができたと思われる。
- ④冬季閑散期の開催にも拘わらず、49日間の開館日数で4000人超の観覧者があった。特に、展示解説会とそれに続く化石・鉱物プレゼントを催した3日間だけで、総計900人超を数えた。無料プレゼントを目標てに来館する人も多かった。集客の1つの方法として評価できるものであった。



「野山の宝 化石・鉱物展」リーフレット

「野山の宝 化石・鉱物展」展示資料一覧（標本）

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
1	M	重晶石		猪苗代町	味岡隆善
2	M	黄銅鉱		栃木県日光市足尾町	味岡隆善
3	M	紫石英		福島市裏半田鉱山	味岡隆善
4	M	閃亜鉛鉱		岐阜県神岡町	味岡隆善
5	M	紅柱石		茨城県日立市日立鉱山	味岡隆善
6	M	バラ輝石		茨城県岩間町	味岡隆善
7	M	紫水晶		新潟県阿賀町	味岡隆善
8	M	菱マンガン鉱		福井県大野市	味岡隆善
9	M	珪灰石		茨城県笠間市	味岡隆善
10	M	透緑閃石		新潟県糸魚川市親不知海岸	味岡隆善
11	M	灰バン柘榴石		鯨川村	味岡隆善
12	M	水晶		秋田県大仙市	味岡隆善
13	M	斧石		静岡県静岡市梅ヶ島	味岡隆善
14	M	灰バン柘榴石		埼玉県秩父市橋掛沢	味岡隆善
15	M	オパール		西会津町	味岡隆善
16	M	煙水晶		岐阜県恵那市恵那採石	味岡隆善
17	M	方鉛鉱		新潟県阿賀町	味岡隆善
18	M	菱マンガン鉱		北海道古平町稲倉石鉱山	味岡隆善
19	M	煙水晶		岐阜県蛭川村中田原	味岡隆善
20	M	鉱物サンプル			味岡隆善
21	M	鉱物サンプル			味岡隆善
22	M	孔雀石		飯館村高ノ倉鉱山	味岡隆善
23	F	アオザメ		西会津町	星総一郎
24	F	ミズワニ		西会津町	星総一郎
25	F	メジロザメ		西会津町	星総一郎
26	F	メジロザメ		昭和村	星総一郎
27	F	メジロザメ		会津若松市	星総一郎
28	M	藍銅鉱		中華人民共和国	星総一郎
29	M	鶏冠石・方解石		中華人民共和国	星総一郎
30	M	モルデン沸石		新潟県	星総一郎
31	M	青金石（ラピスラズリ）		アフガニスタン	星総一郎
32	M	孔雀石（マラカイト）		ザイール	星総一郎
33	M	天青石		マダガスカル	星総一郎
34	M	苦灰石（ドロマイト）		岩手県	星総一郎
35	M	方解石		田村市大越町下大越	星総一郎
36	M	方解石（釘頭）		田村市大越町下大越	星総一郎
37	M	絹雲母		岩手県	星総一郎
38	M	重晶石		猪苗代町	星総一郎
39	F	小形鱗脚類		栃木県那須塩原市下戸倉沢	星総一郎
40	F	貝		栃木県那須塩原市下戸倉沢	星総一郎
41	F	針葉樹の毬果		栃木県那須塩原市下戸倉沢	星総一郎
42	F	ウニ	布沢層上部	只見町野々沢	星総一郎
43	F	ウニ	宮下層	三島町倉掛沢	星総一郎
44	F	ウニ		三島町三坂高原	星総一郎
45	F	ウニ	荻野層	西会津町熊沢	星総一郎
46	F	ウニ	滝沢川層	金山町横田	星総一郎
47	F	ウニ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	星総一郎
48	F	ウニ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	星総一郎
49	F	ウニ		会津若松市沢川	星総一郎
50	F	ウニ	上三寄層	会津若松市湊町	星総一郎
51	M	閃亜鉛鉱・黄銅鉱		南会津町伊南伊南鉱山	星総一郎
52	M	黄銅鉱		南会津町田島八総鉱山	星総一郎
53	M	黄鉄鉱		南会津町田島八総鉱山	星総一郎
54	M	閃亜鉛鉱・黄銅鉱		南会津町田島八総鉱山	星総一郎
55	M	閃亜鉛鉱		南会津町田島八総鉱山	星総一郎
56	M	重晶石		南会津町田島八総鉱山	星総一郎

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
57	M	蛭石		南会津町館岩蛭鉱山	星総一郎
58	M	水晶		南会津町館岩蛭鉱山	星総一郎
59	M	針水晶		南会津町館岩蛭鉱山	星総一郎
60	M	しのぶ石		会津美里町福永	星総一郎
61	F	タコアシカイメン		西会津町熊沢鬼光頭川	星総一郎
62	F	ムカシランダイスギ	漆窪層上部	西会津町別茶屋	星総一郎
63	F	フジツボ	漆窪層上部	西会津町別茶屋	星総一郎
64	F	スギ	黒森層	会津若松市大戸町黒森	星総一郎
65	F	トウヒ	黒森層	会津若松市大戸町黒森	星総一郎
66	F	カエデ	黒森層	会津若松市大戸町黒森	星総一郎
67	F	ブナ	黒森層	会津若松市大戸町黒森	星総一郎
68	F	コケムシ	上三寄層	会津美里町市野沢	星総一郎
69	F	アラカワニシキ	上三寄層	会津美里町市野沢	星総一郎
70	F	貝		会津美里町天沼沢	星総一郎
71	F	貝		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
72	F	貝		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
73	F	カシ		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
74	F	植物	和泉層	喜多方市山都町早稲谷	星総一郎
75	F	植物	和泉層	喜多方市山都町早稲谷	星総一郎
76	F	植物	和泉層	喜多方市山都町早稲谷	星総一郎
77	F	木	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	星総一郎
78	F	巻貝・フジツボ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	星総一郎
79	F	メタセコイア	藤峠層	柳津町小柳津	星総一郎
80	F	ホタテガイ	堀口層	郡山市高広山林道	星総一郎
81	F	貝	堀口層	郡山市高広山林道	星総一郎
82	F	貝	堀口層	郡山市高広山林道	星総一郎
83	F	ツノガイ・貝	堀口層	郡山市高広山林道	星総一郎
84	F	ツノガイ	堀口層	郡山市高広山林道	星総一郎
85	F	ウニ	堀口層	郡山市逢瀬町スポーツ公園	星総一郎
86	F	ツノガイ	堀口層	郡山市逢瀬町スポーツ公園	星総一郎
87	F	貝	堀口層	郡山市逢瀬町スポーツ公園	星総一郎
88	F	貝	堀口層	郡山市逢瀬町スポーツ公園	星総一郎
89	F	カニ		福島市万世大路	星総一郎
90	F	カニ		福島市万世大路	星総一郎
91	F	針葉樹の毬果	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	星総一郎
92	F	マガキ	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
93	F	マガキ	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
94	F	貝	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
95	F	ハタイサルボウ	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
96	F	貝	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
97	F	貝	久保田層	棚倉町藤田磁業採石場	星総一郎
98	F	底生有孔虫		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
99	F	底生有孔虫		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
100	F	底生有孔虫		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
101	F	底生有孔虫		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
102	F	底生有孔虫		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
103	F	底生有孔虫の内型		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
104	F	底生有孔虫の内型		喜多方市山都町二ノ沢	星総一郎
105	F	メジロザメ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	星総一郎
106	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
107	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
108	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
109	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
110	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
111	M	紫水晶		西会津町宝川	長谷川キミ子
112	M	紫水晶		西会津町宝川	長谷川キミ子
113	F	サンゴ		相馬市	長谷川キミ子

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
114	M	玉髄 (カルセドニー)		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
115	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
116	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
117	M	玉髄 (カルセドニー)		西会津町鬼光頭川	長谷川キミ子
118	R	安座石 (流紋岩の柱状節理)		西会津町安座川	長谷川キミ子
119	M	玉髄		西会津町宝川	長谷川キミ子
120	M	沸石 (ゼオライト)		西会津町牧	長谷川キミ子
121	M	閃亜鉛鉱		南会津町笛岩真米鉱山	伊藤紘一
122	M	黄鉄鉱		南会津町笛岩真米鉱山	伊藤紘一
123	M	凝灰岩中の二次鉱物		南会津町田島八総鉱山	伊藤紘一
124	M	凝灰岩中の二次鉱物		南会津町田島八総鉱山	伊藤紘一
125	R	熱水変質を受けた火山岩		南会津町田島八総鉱山	伊藤紘一
126	M	紫水晶		南会津町田島八総鉱山	二塚淳子
127	M	方鉛鉱		新潟県阿賀町三川鉱山	二塚淳子
128	F	ムカシツキガイモドキ	塩坪層	喜多方市高郷町	二塚淳子
129	M	黄銅鉱		南会津町伊南	二塚淳子
130	F	貝化石の中の方解石	久保田層	埴町	小松順二
131	F	方解石化した貝化石	久保田層	埴町	小松順二
132	F	方解石化した貝化石	久保田層	埴町	小松順二
133	F	貝	久保田層	埴町	小松順二
134	F	ハタイサルボウ	久保田層	埴町	小松順二
135	R	流紋岩の小球類		三島町西方岩倉山	小松順二
136	M	重晶石		喜多方市山都町小白布沢	小松順二
137	M	重晶石		柳津町軽井沢鉱山	小松順二
138	M	プロシャン銅鉱		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
139	M	水晶・菱鉄鉱		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
140	M	紫水晶		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
141	M	球顆流紋岩 (オパール)		西会津町宝坂	小松順二
142	M	球顆流紋岩 (オパール)		西会津町宝坂	小松順二
143	M	球顆流紋岩 (オパール)		西会津町宝坂	小松順二
144	M	球顆流紋岩 (オパール)		西会津町宝坂	小松順二
145	M	球顆流紋岩 (オパール)		西会津町宝坂	小松順二
146	M	メノウ		西会津町宝坂	小松順二
147	M	球顆流紋岩 (メノウ)		新潟県阿賀町檜山	小松順二
148	M	球顆流紋岩 (メノウ)		新潟県阿賀町檜山	小松順二
149	M	流紋岩上の球顆		新潟県阿賀町檜山	小松順二
150	M	小球類		新潟県阿賀町檜山	小松順二
151	M	閃亜鉛鉱		西会津町黒沢鉱山	小松順二
152	M	黄銅鉱		西会津町黒沢鉱山	小松順二
153	M	閃亜鉛鉱・黄鉄鉱		西会津町黒沢鉱山	小松順二
154	M	黄銅鉱・針水晶		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
155	M	雪花石膏		只見町黒沢鉱山	小松順二
156	M	黄鉄鉱		只見町黒沢鉱山	小松順二
157	M	黄鉄鉱		只見町黒沢鉱山	小松順二
158	M	黄鉄鉱		南会津町笛岩木戸鉱山	小松順二
159	M	重晶石		柳津町軽井沢鉱山	小松順二
160	M	閃亜鉛鉱・重晶石		柳津町軽井沢鉱山	小松順二
161	M	繊維石膏		会津若松市石ヶ森鉱山	小松順二
162	M	重晶石		喜多方市熱塩加納町加納鉱山	小松順二
163	M	方鉛鉱		柳津町軽井沢鉱山	小松順二
164	M	黄鉄鉱		南会津町笛岩木戸	小松順二
165	M	黄鉄鉱		南会津町笛岩木戸	小松順二
166	M	孔雀石		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
167	M	藍銅鉱		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
168	M	菱鉄鉱		新潟県阿賀町三川鉱山	小松順二
169	M	苦灰石		新潟県新発田市赤谷鉱山	小松順二
170	M	苦灰石		新潟県新発田市赤谷鉱山	小松順二

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
171	M	赤鉄鉱		新潟県新発田市赤谷鉱山	小松順二
172	M	灰鉄輝石		新潟県新発田市赤谷鉱山	小松順二
173	M	鉄パンザクロ石		石川町塩沢	小松順二
174	M	蛍石		南会津町館岩蛍鉱山	小松順二
175	M	蛍石		南会津町館岩蛍鉱山	小松順二
176	M	蛍石		南会津町館岩蛍鉱山	小松順二
177	M	黒鉱		金山町横田田代鉱山	小松順二
178	M	黄銅鉱・プロシヤン銅鉱?		南会津町伊南伊南鉱山	小松順二
179	M	黄銅鉱		南会津町伊南伊南鉱山	小松順二
180	M	水晶		南会津町館岩高畑山	有馬頭太郎
181	F	ウニ類の一種	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	福島県立博物館
182	F	ウバトリガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	福島県立博物館
183	F	エゾバイのなかま	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	福島県立博物館
184	F	エゾバイのなかま	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	福島県立博物館
185	F	魚類	荻野層?	西会津町宝坂鬼光頭川 (転石)	渡部憲
186	F	タコアシカイメンのなかま	漆窪層	西会津町宝坂鬼光頭川	福島県立博物館
187	F	ヤベランダイコウバシ	赤川層	福島市飯坂町中野	福島県立博物館
188	F	カミオニシキのなかま	観音層	会津美里町松坂天沼沢	福島県立博物館
189	F	ミノガイのなかま	観音層	会津美里町松坂天沼沢	福島県立博物館
190	R	しのぶ石		会津美里町	福島県立博物館
191	R	しのぶ石		会津美里町	福島県立博物館
192	F	魚の骨?	堀口層	郡山市逢瀬町河内高広山林道	福島県立博物館
193	F	アツガキ	大沢層	山形県米沢市栗子山西方	福島県立博物館
194	F	珪化木	松坂峠層	只見町布沢	福島県立博物館
195	M	オパール		西会津町宝川	福島県立博物館
196	R	流紋岩		西会津町宝川	福島県立博物館
197	M	方解石		北塩原村大塩鱒沢川	福島県立博物館
198	F	カミオニシキ	上三寄層	会津美里町市野	福島県立博物館
199	F	ホウキカンバ	布沢層上部	只見町梁取野々沢	福島県立博物館
200	F	クスノキのなかま	布沢層上部	只見町梁取野々沢	福島県立博物館
201	F	ヤベランダイコウバシ	赤川層	福島市飯坂町中野	福島県立博物館
202	F	ヨコヤマビノスガイ・サラガイのなかま	松坂峠層下部	只見町布沢田沢川	福島県立博物館
203	F	アツガキ	大沢層	山形県米沢市栗子山西方	福島県立博物館
204	M	菱マンガン鉱・閃亜鉛鉱		北海道仁木町大江鉱山	林幹雄
205	M	黄銅鉱		北海道仁木町大江鉱山	林幹雄
206	M	方鉛鉱		北海道仁木町大江鉱山	林幹雄
207	M	菱マンガン鉱		北海道仁木町大江鉱山	林幹雄
208	M	輝水鉛鉱		島根県奥出雲町小馬木鉱山	林幹雄
209	M	黄銅鉱・磁硫鉄鉱		岡山県高梁市吉岡鉱山	林幹雄
210	M	菱マンガン鉱		北海道八雲町八雲鉱山	林幹雄
211	M	菱マンガン鉱		北海道古平町稲倉石鉱山	林幹雄
212	M	硫ヒ鉄鉱		宮城県本吉町大谷鉱山	林幹雄
213	M	硫カドミウム鉱		滋賀県石部町灰山	林幹雄
214	M	菱マンガン鉱		茨城県城里町高取鉱山	林幹雄
215	M	辰砂		北海道置戸町旭水銀鉱山	林幹雄
216	M	鶏冠石		群馬県下仁田町西ノ牧鉱山	林幹雄
217	M	ハウエル鉱		青森県むつ市恐山	林幹雄
218	M	プロシヤン銅鉱		滋賀県石部町灰山	林幹雄
219	M	青鉛鉱		兵庫県猪名川町辻ヶ瀬鉱山	林幹雄
220	M	水苦土石		福岡県筑穂町	林幹雄
221	M	水亜鉛銅鉱		滋賀県石部町灰山	林幹雄
222	M	方解石		福岡県香春町二ノ岳	林幹雄
223	M	藍銅鉱		栃木県日光市小来川鉱山	林幹雄
224	M	孔雀石		静岡県下田市河津鉱山	林幹雄
225	M	藍銅鉱		兵庫県猪名川町柿ノ木鉱山	林幹雄
226	M	透緑閃石		愛媛県土居町五良津山	林幹雄
227	M	堇青石		宮城県川崎町安達	林幹雄

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
228	M	桜石 (堇青石仮晶)		京都府和束町木屋	林幹雄
229	M	ベスプ石		宮崎県日之影町小河内岩戸鉱山	林幹雄
230	M	ベスプ石		長野県川上村梓山	林幹雄
231	M	バラ輝石		大分県佐伯市木浦鉱山	林幹雄
232	M	異極鉱		富山県富山市神岡鉱山	林幹雄
233	M	テフロ石		京都府加茂町法花寺野	林幹雄
234	M	デュモルチ石		山梨県三富村京の沢	林幹雄
235	M	ブラウン鉱		長崎県長崎市戸根鉱山	林幹雄
236	M	バスタム石		福井県若狭町藤井鉱山	林幹雄
237	M	滑石		愛媛県土居町関川	林幹雄
238	M	鱗雲母		茨城県常陸太田市小妻妙見山	林幹雄
239	M	ベスプ石		長野県川上村甲武信鉱山	林幹雄
240	M	パイロクスマンガン鉱		愛知県設楽町田口鉱山	林幹雄
241	M	異極鉱		長野県川上村大深山大深山鉱山	林幹雄
242	M	異極鉱		宮崎県日之影町大吹鉱山	林幹雄
243	M	ベスプ石		長野県南相木村栗生鉱山	林幹雄
244	M	緑鉛鉱		富山県富山市神岡鉱山	林幹雄
245	M	燐灰石		埼玉県秩父市秩父鉱山	林幹雄
246	M	灰重石		山口県岩国市玖珂鉱山	林幹雄
247	M	灰重石		山口県岩国市喜和田鉱山	林幹雄
248	M	蛍石		南会津町館岩蛍鉱山	林幹雄
249	M	自然銅		奈良県東吉野村三尾鉱山	林幹雄
250	M	赤鉄鉱		岩手県北上市和賀仙人鉱山	林幹雄
251	M	磁鉄鉱		岡山県真庭市山宝鉱山	林幹雄
252	M	デュモルチ石		栃木県板宝百村蠟石鉱山	林幹雄
253	M	神津閃石		岩手県田野畑村田野畑鉱山	林幹雄
254	M	ベスプ石		神奈川県山北町白石沢	林幹雄
255	M	透輝石		神奈川県山北町白石沢	林幹雄
256	M	黄銅鉱		秋田県小坂町小坂鉱山	林幹雄
257	M	方鉛鉱・閃亜鉛鉱		岐阜県飛騨市神岡鉱山	林幹雄
258	M	方鉛鉱・閃亜鉛鉱		静岡県伊豆市大仁鉱山	林幹雄
259	M	銀黒		静岡県河津町縄地鉱山	林幹雄
260	M	異極鉱		大分県佐伯市木浦鉱山	林幹雄
261	M	黄銅鉱		岩手県宮古市田老鉱山	林幹雄
262	M	方鉛鉱		宮城県栗原市細倉鉱山	林幹雄
263	M	輝水鉛鉱		島根県雲南市大東鉱山	林幹雄
264	M	鉄電気石		福島市松川町沼袋	林幹雄
265	M	閃亜鉛鉱		宮城県栗原市細倉鉱山	林幹雄
266	M	亜鉛孔雀石		大分県佐伯市木浦鉱山	林幹雄
267	M	灰バン柘榴石		鮫川村発地岡	林幹雄
268	M	鉄バン柘榴石		川俣町水晶山	林幹雄
269	M	イットロくさび石		川俣町水晶山	林幹雄
270	M	イットロ蛍石		川俣町水晶山	林幹雄
271	M	磁鉄鉱		川俣町水晶山	林幹雄
272	M	褐簾石		川俣町水晶山	林幹雄
273	M	硫ヒ鉄鉱		川俣町水晶山	林幹雄
274	M	石英 (水晶)		川俣町水晶山	林幹雄
275	M	フェルグソン石・ジルコン		川俣町水晶山	林幹雄
276	M	ウラノフェン		川俣町水晶山	林幹雄
277	M	イットリア石		川俣町水晶山	林幹雄
278	M	鉄カンラン石		川俣町水晶山	林幹雄
279	M	水晶		川俣町水晶山	林幹雄
280	M	斜灰簾石		伊達市藤瀬伊達永井鉱山	林幹雄
281	M	黄銅鉱		伊達市藤瀬伊達永井鉱山	林幹雄
282	M	黄鉄鉱		伊達市藤瀬伊達永井鉱山	林幹雄
283	M	輝水鉛鉱		伊達市藤瀬伊達永井鉱山	林幹雄
284	M	自然蒼鉛		伊達市藤瀬伊達永井鉱山	林幹雄

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
285	M	珪灰石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
286	M	灰バン柘榴石・ベスプ石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
287	M	ベスプ石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
288	M	ベスプ石・灰バン柘榴石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
289	M	緑簾石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
290	R	結晶質石灰岩		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
291	M	灰重石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
292	M	緑簾石・灰重石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
293	M	方解石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
294	M	ベスプ石・灰バン柘榴石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
295	M	灰重石		伊達市藤棚伊達永井鉦山	林幹雄
296	F	ツメタガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	林幹雄
297	F	ウバトリガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	林幹雄
298	F	ムカシツキガイモドキ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	西村新六
299	F	ナミマガシワ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	西村新六
300	F	モガミバイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	西村新六
301	F	シンジイシカゲガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	西村新六
302	F	ゴイサギガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	西村新六
303	F	イワキトクサバイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
304	F	キリタニツメタガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
305	F	マガキ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
306	F	カネハラヒオウギ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
307	F	ハタイサルボウ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
308	F	キリタニツメタガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
309	F	ナミマガシワ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
310	F	ウソシジミ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
311	F	カネハラカガミ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
312	F	カネハラカガミ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
313	F	シオバラザルガイ・カネハラカガミ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
314	F	キリガイダマシ・シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
315	F	シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
316	F	マガキ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
317	F	フナクイムシの生痕	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	西村新六
318	F	フナクイムシの生痕	梁川層	伊達市梁川町広瀬川河床	西村新六
319	F	フナクイムシの生痕	梁川層	伊達市梁川町広瀬川河床	西村新六
320	F	キララガイのなかま・サルボウのなかま		昭和村野尻川河床	西村新六
321	F	ムカシブナ?	黒森層	会津若松市黒森	西村新六
322	F	ヤベランダイコウバシ	黒森層	会津若松市黒森	西村新六
323	F	ナガバブナ	黒森層	会津若松市黒森	西村新六
324	F	ナガバブナ	黒森層	会津若松市黒森	西村新六
325	F	ムカシチサラガイ	堀口層	郡山市高広山林道	西村新六
326	F	ムカシチサラガイ	堀口層	郡山市高広山林道	西村新六
327	F	ムカシチサラガイ	堀口層	郡山市高広山林道	西村新六
328	F	ヤスリツノガイ	堀口層	郡山市高広山林道	西村新六
329	F	ヤスリツノガイ	堀口層	郡山市高広山林道	西村新六
330	R	漣痕(リップルマーク)	藤峠層	西会津町漆窪軽沢林道(軽沢峠)	西村新六
331	R	火山豆石(ピソライト)	藤峠層	西会津町漆窪軽沢林道(軽沢峠)	西村新六
332	F	木の葉	藤峠層	西会津町漆窪軽沢林道(軽沢峠)	西村新六
333	F	アゲマキガイ	藤峠層	西会津町漆窪軽沢林道(軽沢峠)	西村新六
334	M	珪石(石英)		南会津町伊南富鉦山	西村新六
335	M	黄銅鉦		南会津町伊南富鉦山	西村新六
336	M	黄銅鉦		南会津町伊南富鉦山	西村新六
337	M	黄鉄鉦と石英		南会津町伊南富鉦山	西村新六
338	M	閃亜鉛鉦		南会津町伊南富鉦山	西村新六
339	M	方鉛鉦・黄鉄鉦		新潟県阿賀町三川鉦山	西村新六
340	M	藍銅鉦		新潟県阿賀町三川鉦山	西村新六
341	M	孔雀石		新潟県阿賀町三川鉦山	西村新六

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
342	M	方解石		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
343	M	黄鉄鉱・閃亜鉛鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
344	M	方鉛鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
345	M	方鉛鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
346	M	硫ヒ鉄鉱・方鉛鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
347	M	磁硫鉄鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
348	M	二酸化マンガン鉱		喜多方市山都町川入	西村新六
349	M	螢石		南会津町館岩螢鉾山	西村新六
350	M	螢石		南会津町館岩螢鉾山	西村新六
351	M	螢石		南会津町館岩螢鉾山	西村新六
352	M	針状水晶		南会津町館岩螢鉾山	西村新六
353	M	細柱状水晶		南会津町館岩螢鉾山	西村新六
354	M	水晶		西会津町	西村新六
355	M	石英		西会津町	西村新六
356	M	水晶（紫水晶）		西会津町	西村新六
357	M	紫水晶		西会津町	西村新六
358	M	二酸化マンガン鉱		西会津町	西村新六
359	M	水晶・紫水晶		西会津町	西村新六
360	M	縞メノウ		西会津町	西村新六
361	M	メノウ		西会津町	西村新六
362	M	オパール		西会津町宝坂	西村新六
363	M	オパール		西会津町宝坂	西村新六
364	M	重晶石		金山町横田田代鉾山	西村新六
365	M	黒鉾		金山町横田田代鉾山	西村新六
366	M	黒鉾		金山町横田田代鉾山	西村新六
367	R	混合物？		金山町横田田代鉾山	西村新六
368	M	紫水晶		南会津町館岩八総鉾山	西村新六
369	M	紫水晶		南会津町館岩八総鉾山	西村新六
370	M	方解石		南会津町館岩八総鉾山	西村新六
371	M	硫化鉾		南会津町館岩八総鉾山	西村新六
372	M	重晶石・閃亜鉛鉱		柳津町軽井沢鉾山	西村新六
373	M	ペグマタイト		川俣町飯坂水晶山	西村新六
374	M	微斜長石		川俣町飯坂水晶山	西村新六
375	M	石英		川俣町飯坂水晶山	西村新六
376	M	黒雲母		川俣町飯坂水晶山	西村新六
377	M	直閃石		川俣町飯坂水晶山	西村新六
378	R	スカルン		伊達市霊山町永井鉾山	西村新六
379	M	ザクロ石・方解石・灰重石		伊達市霊山町永井鉾山	西村新六
380	M	ベスプ石		伊達市霊山町永井鉾山	西村新六
381	M	ザクロ石・方解石		伊達市霊山町永井鉾山	西村新六
382	M	灰パン柘榴石		伊達市霊山町永井鉾山	西村新六
383	M	自然イオウ		金山町三更	西村新六
384	M	自然イオウ		金山町三更	西村新六
385	M	自然イオウ		金山町三更	西村新六
386	M	凝灰岩を鉾染したイオウ		金山町三更	西村新六
387	M	凝灰岩を鉾染したイオウ		金山町三更	西村新六
388	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鉾山	西村新六
389	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鉾山	西村新六
390	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鉾山	西村新六
391	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鉾山	西村新六
392	M	方鉛鉱		南会津町館岩真米鉾山	西村新六
393	M	硫化鉾		只見町黒沢鉾山	西村新六
394	M	雪花石膏・黄鉄鉱		只見町黒沢鉾山	西村新六
395	M	黄鉄鉱		只見町黒沢鉾山	西村新六
396	M	黄鉄鉱		只見町黒沢鉾山	西村新六
397	M	紫水晶		南会津町八総鉾山	西村新六
398	R	緑色凝灰岩	荻野層	西会津町宝坂	西村新六
399	R	緑色凝灰岩	荻野層	西会津町宝坂	西村新六

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
400	F	ヒラウネホタテ		只見町夕沢	大竹亮作
401	F	キリタニツメタガイ	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪	大竹亮作
402	F	ハタイサルボウ	久保田層	埴町西河内	大竹亮作
403	M	オパール		西会津町オパール鉱山	大竹亮作
404	R	レキ岩		新潟県糸魚川市	白岩勇
405	R	石灰岩		新潟県糸魚川市	白岩勇
406	R	安山岩		秋田県仙北市	白岩勇
407	R	シルト岩		秋田県湯沢市	白岩勇
408	R	ホルンフェルス		喜多方市山都町一ノ木	白岩勇
409	R	大理石		宮城県気仙沼市	白岩勇
410	R	石英		郡山市丹伊田	白岩勇
411	R	花崗岩		西郷村貴船	白岩勇
412	R	流紋岩		石川県七尾市	白岩勇
413	R	溶岩		不明	白岩勇
414	R	溶岩		群馬県草津町	白岩勇
415	R	溶岩		栃木県日光市	白岩勇
416	R	火砕岩		青森県東通村	白岩勇
417	R	流紋岩		カンボジア シェムリアップ	白岩勇
418	R	溶岩		新潟県佐渡市	白岩勇
419	R	雲母片岩		ネパール キルティプル	白岩勇
420	R	溶岩		秋田県男鹿市	白岩勇
421	R	ジャ灰岩?		埼玉県日高市	白岩勇
422	R	鉄石英		会津若松市湊町	白岩勇
423	R	石英片岩		奈良県明日香村	白岩勇
424	R	砂岩泥岩互層		栃木県日光市栗山	白岩勇
425	R	チャート		岩手県岩泉町	白岩勇
426	R	緑色凝灰岩		青森県深浦町	白岩勇
427	R	火砕岩		会津若松市門田町	白岩勇
428	R	凝灰岩		会津若松市門田町	白岩勇
429	R	砂岩		秋田県湯沢市	白岩勇
430	R	スティルプノメレン片岩		埼玉県長瀨町	白岩勇
431	R	流紋岩中の球顆		不明	白岩勇
432	M	黄鉄鉱		南会津町八総鉱山	白岩勇
433	M	雲母片岩		ネパール カカニ	白岩勇
434	M	イオウ		秋田県仙北市	白岩勇
435	M	水晶		会津美里町尾岐	白岩勇
436	F	珪化木		埼玉県日高市	白岩勇
437	F	ムカシブンプクの一つ	上三寄層	会津若松市湊町	白岩勇
438	R	石英安山岩質凝灰岩		会津若松市東山町	白岩勇
439	M	石英砂		会津若松市東山町	白岩勇
440	M	表土の標本		会津若松市東山町	白岩勇
441	F	サルボウのなかま	下中津川層	昭和村小中津川	本名信一
442	F	ヒラウネホタテ	入山沢層	昭和村下中津川	本名信一
443	F	ウニのなかま	入山沢層	昭和村下中津川	本名信一
444	F	エゾボラのなかま	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
445	F	サメの脊椎	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
446	F	キヘイジエビスのなかま	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
447	F	アヤボラ	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
448	F	メジロザメの歯	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
449	F	ホオジロザメの歯	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
450	F	クレトラムナ		いわき市大久	本名信一
451	F	プロトプテルムの大腿骨	石城層	いわき市小川町	本名信一
452	F	シロワニ属の一つ (サメ)		いわき市小川町田頭	本名信一
453	F	カグラザメの歯		いわき市小川町田頭	本名信一
454	F	珪化木	入山沢層	昭和村下中津川	本名信一
455	F	珪化木	入山沢層	昭和村下中津川	本名信一
456	F	ホタルジャコ	布沢層上部	只見町野々沢	本名信一

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
457	F	メジロザメの歯	塩坪層	喜多方市高郷町	本名信一
458	F	サメの脊椎骨	塩坪層	喜多方市高郷町	本名信一
459	F	クジラの耳骨	名洗層	千葉県銚子市長崎町	本名信一
460	F	カルカロクレス・メガロドン	名洗層	千葉県銚子市長崎町	本名信一
461	F	ハリセンボンの歯	名洗層	千葉県銚子市長崎町	本名信一
462	F	ホオジロザメの歯	市宿層	千葉県君津市市宿	本名信一
463	F	ヒトデ	市宿層	千葉県君津市市宿	本名信一
464	F	イタチザメの歯	市宿層	千葉県君津市市宿	本名信一
465	F	アオシマオキナエビス		千葉県鋸南町奥元名	本名信一
466	F	アオザメの歯	竜ノ口層	宮城県大和町	本名信一
467	F	カニ		埼玉県秩父市大野原	本名信一
468	F	アカガイ	木下層	千葉県印西市	本名信一
469	F	カルカロクレス・メガロドン		埼玉県東松山市葛袋	本名信一
470	F	イガギンエビスのなかま		埼玉県東松山市葛袋	本名信一
471	F	カルカロクレス・メガロドン		埼玉県東松山市葛袋	本名信一
472	M	紫水晶		栃木県足尾町	本名信一
473	M	水晶		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
474	M	水晶		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
475	M	水晶 (日本式双晶)		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
476	M	水晶 (日本式双晶)		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
477	M	水晶 (日本式双晶)		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
478	M	水晶 (日本式双晶)		岩手県陸前高田市竹駒町	本名信一
479	M	緑水晶		秋田県協和町	本名信一
480	M	緑水晶		秋田県協和町	本名信一
481	M	緑水晶		秋田県協和町	本名信一
482	M	緑水晶		秋田県協和町	本名信一
483	M	緑水晶		秋田県協和町	本名信一
484	M	紫水晶		宮城県白石市小原	本名信一
485	M	紫水晶		宮城県白石市小原	本名信一
486	M	紫水晶 (カット)		宮城県白石市小原	本名信一
487	M	紫水晶		宮城県白石市小原	本名信一
488	M	黄鉄鉱		新潟県新発田市滝谷	本名信一
489	M	黄鉄鉱		新潟県新発田市滝谷	本名信一
490	M	黄鉄鉱		新潟県新発田市滝谷	本名信一
491	M	水晶		山梨県牧丘町柳平	本名信一
492	M	水晶		山梨県牧丘町柳平	本名信一
493	M	水晶 (日本式双晶)		山梨県牧丘町柳平	本名信一
494	M	重晶石		猪苗代町沼尻	本名信一
495	M	イオウ		猪苗代町沼尻	本名信一
496	M	重晶石		猪苗代町沼尻	本名信一
497	M	紫水晶		福島市茂庭	本名信一
498	M	電気石		田村市都路町古道石黒	本名信一
499	M	電気石		田村市都路町古道石黒	本名信一
500	M	煙水晶		田村市都路町古道石黒	本名信一
501	M	オパール		西会津町宝坂	本名信一
502	M	オパール		西会津町宝坂	本名信一
503	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
504	M	水晶		南会津町宮里	本名信一
505	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
506	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
507	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
508	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
509	M	蛍石 (イヤリング)		南会津町宮里	本名信一
510	M	蛍石		南会津町宮里	本名信一
511	M	緑簾石		塙町矢塚	本名信一
512	M	紫水晶		北塩原村大塩	本名信一
513	F	ウバトリガイのなかま	塩坪層	喜多方市高郷町	本名信一

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
514	F	サルボウのなかま	下中津川層	昭和村野尻	本名信一
515	F	チタニビノスガイ?	下中津川層	昭和村野尻	本名信一
516	F	ツノガイ	下中津川層	昭和村野尻	本名信一
517	F	ニシキガイのなかま?		会津美里町天沼沢	本名信一
518	F	ニシキガイのなかま?		会津美里町天沼沢	本名信一
519	F	ブナのなかま	黒森層	会津若松市黒森	本名信一
520	M	蛭石・水晶		南会津町宮里	本名信一
521	M	黄鉄鉱		只見町黒沢	本名信一
522	F	イルカのなかまの歯	大年寺層	広野町二ツ沼	本名信一
523	F	マッコウクジラの歯	名洗層	千葉県銚子市長崎鼻	本名信一
524	F	クジラのなかまの脊椎	市宿層	千葉県君津市市宿	本名信一
525	M	メノウ		西会津町宝川	中村眞吾
526	M	メノウ		西会津町宝川	中村眞吾
527	M	メノウ		西会津町宝川	中村眞吾
528	M	メノウ		西会津町宝川	中村眞吾
529	M	水晶		西会津町宝川	中村眞吾
530	M	紫水晶		西会津町宝川	中村眞吾
531	M	玉髓(カルセドニー)		西会津町宝川	中村眞吾
532	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
533	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
534	M	蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
535	M	蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
536	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
537	M	貴蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
538	M	そろばん玉		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
539	M	ヒスイ		新潟県糸魚川市大和海岸	中村眞吾
540	M	ヒスイ		新潟県糸魚川市大和海岸	中村眞吾
541	M	蛋白石		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
542	F	ネリネア	中ノ沢層	相馬市	中村眞吾
543	M	鉄石英		西会津町鬼光頭川	中村眞吾
544	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
545	F	ウミユリ・コケムシ	真野層		中村眞吾
546	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
547	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
548	F	コケムシ	真野層		中村眞吾
549	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
550	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
551	F	ウミユリ	真野層		中村眞吾
552	F	クロダマキバネガイ・ウニ	宮下層	柳津町	中村眞吾
553	R	壺石		喜多方市高郷町	鷺山義雄
554	M	イオウ		猪苗代町沼尻鉦山	鷺山義雄
555	R	疣石		金山町	鷺山義雄
556	M	鉄石英		只見町	鷺山義雄
557	M	赤碧玉(紅石)		西会津町	鷺山義雄
558	M	鉄石英		西会津町	鷺山義雄
559	M	紅石英		西会津町	鷺山義雄
560	M	緑土		西会津町	鷺山義雄
561	F	珪化木		会津若松市門田町	鷺山義雄
562	F	珪化木		会津若松市大川	鷺山義雄
563	M	砂鉄		会津若松市湊町崎川浜	鷺山義雄
564	R	蛇紋岩		新潟県糸魚川市姫川	鷺山義雄
565	R	蛇紋岩		新潟県糸魚川市姫川	鷺山義雄
566	M	透石膏		会津若松市朝日鉦山	鷺山義雄
567	R	溶岩		浅間山	鷺山義雄
568	R	塊状溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
569	R	鉦滓状溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
570	R	鉦滓状溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
571	R	鈹滓状溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
572	R	泥溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
573	R	溶岩石筍		東京都三宅島	鷺山義雄
574	R	溶岩石筍		東京都三宅島	鷺山義雄
575	R	溶岩鍾乳石		東京都三宅島	鷺山義雄
576	R	溶岩鍾乳石		東京都三宅島	鷺山義雄
577	R	アア溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
578	R	アア溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
579	R	塊状溶岩		東京都三宅島	鷺山義雄
580	R	火山弾 (砲弾型)		熊本県阿蘇山	鷺山義雄
581	R	火山皿石		熊本県阿蘇山中嶽外輪	鷺山義雄
582	R	パン皮状火山弾		鹿児島県桜島	鷺山義雄
583	R	パン皮状火山弾		鹿児島県桜島	鷺山義雄
584	R	浮石		鹿児島県桜島	鷺山義雄
585	R	浮石		鹿児島県桜島	鷺山義雄
586	M	黄銅鈹		喜多方市熱塩加納町加納鈹山	鷺山義雄
587	M	黄鉄鈹		南会津町田島八総鈹山	鷺山義雄
588	M	霞石		南会津町田島八総鈹山	鷺山義雄
589	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鈹山	鷺山義雄
590	M	繊維石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鈹山	鷺山義雄
591	M	雪花石膏		会津若松市一箕町石ヶ森鈹山	鷺山義雄
592	M	黄銅鈹		金山町横田鈹山	鷺山義雄
593	M	黄銅鈹		金山町横田鈹山	鷺山義雄
594	M	黒鈹		金山町横田鈹山	鷺山義雄
595	M	鉛鈹		只見町黒沢鈹山	鷺山義雄
596	M	方鉛鈹・閃亜鉛鈹		只見町黒沢鈹山	鷺山義雄
597	M	黄銅鈹		只見町黒沢鈹山	鷺山義雄
598	M	重晶石		柳津町軽井沢鈹山	鷺山義雄
599	M	脆銀鈹?		柳津町軽井沢鈹山	鷺山義雄
600	M	鉛鈹		金山町田代鈹山	鷺山義雄
601	M	硫化鈹		金山町田代鈹山	鷺山義雄
602	M	石英 (水晶)		猪苗代町吾妻珪石山	鷺山義雄
603	M	石英 (水晶)		猪苗代町吾妻珪石山	鷺山義雄
604	M	石英 (水晶)		猪苗代町吾妻珪石山	鷺山義雄
605	M	針水晶		南会津町箱岩蛭鈹山	鷺山義雄
606	M	オパール		西会津町屋敷	渡部憲
607	M	オパール		西会津町屋敷	渡部憲
608	F	ブナの一種	黒森層	会津若松市大戸町黒森	鈴木アヤ子
609	F	ブナの一種	黒森層	会津若松市大戸町黒森	鈴木アヤ子
610	F	ブナの一種	黒森層	会津若松市大戸町黒森	鈴木アヤ子
611	F	ブナの一種	黒森層	会津若松市大戸町黒森	鈴木アヤ子
612	F	ブナの一種	塩坪層	喜多方市高郷町漆窪軽沢林道	鈴木アヤ子
613	F	フクシマコロモガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	鈴木アヤ子
614	F	カミオニシキ属の一種		喜多方市山都町宮古	鈴木アヤ子
615	F	ムカシチサラガイ		喜多方市山都町沼の平	鈴木アヤ子
616	F	シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	鈴木アヤ子
617	F	シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	鈴木アヤ子
618	F	シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	鈴木アヤ子
619	M	水晶		南会津町伊南伊南鈹山	鈴木アヤ子
620	M	黄銅鈹・閃亜鉛鈹		南会津町伊南伊南鈹山	鈴木アヤ子
621	M	黄鉄鈹・水晶		南会津町田島八総鈹山	鈴木アヤ子
622	M	酸性凝灰岩中の紫水晶		南会津町田島八総鈹山	鈴木アヤ子
623	M	黄鉄鈹		南会津町田島八総鈹山	鈴木アヤ子
624	F	マガキ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場?	三本杉博行
625	F	シオバラザルガイ	久保田層	塙町西河内藤田磁業採石場	三本杉博行
626	F	マガキ	久保田層	塙町	内川桃代
627	F	ツメタガイ	久保田層	塙町	内川桃代

No.	種類	資 料 名	地層名	産 地	所蔵者
628	F	ハタイサルボウ	久保田層	埴町	内川桃代
629	F	ムカシツキガイモドキ	久保田層	埴町	内川桃代
630	F	ハタイサルボウ	久保田層	埴町	内川桃代
631	R	しのぶ石		喜多方市山都町	内川桃代

※種類の記号で、Fは化石、Mは鉱物、Rは岩石を表す。

「野山の宝 化石・鉱物展」展示資料一覧（標本以外）

No.	種類	資 料 名	所蔵者
1	オブジェ	鉱物サンプル [再掲]	味岡隆善
2	オブジェ	“石を愛でる”	五十嵐久美子
3	写真	扇状地1：南会津郡下郷町豊成字倉村萩原沢	大竹亮作
4	写真	扇状地1：南会津郡下郷町豊成字倉村萩原沢	大竹亮作
5	写真	古期段丘：喜多方市山都町一の木字川入大白布沢左岸	大竹亮作
6	写真	南原段丘：会津若松市大戸町上三寄字南原	大竹亮作
7	写真	背斜構造1：柳津町藤 - 山都柳津線付近（正褶曲、背斜軸漆窪層）	大竹亮作
8	写真	背斜構造2：会津若松市大戸町高川 桑曾根 - 黒森林道（正斜軸）	大竹亮作
9	写真	不整合1：会津坂下町長井阿賀川右岸	大竹亮作
10	写真	不整合2：会津坂下町長井・千咲原の間	大竹亮作
11	写真	方状節理：南会津町大桃風岩北端	大竹亮作
12	写真	柱状節理：会津若松市東山町上湯本傘岩 東山安山岩	大竹亮作
13	写真	柱状節理：大沼郡金山町滝沢 滝沢発電所上流右岸	大竹亮作
14	写真	板状節理：南会津郡下郷町大松川南倉沢三輪滝入口	大竹亮作
15	写真	水平断層：大沼郡昭和村下中津川玉川左岸	大竹亮作
16	写真	甌穴1：大沼郡金山町滝沢 滝沢川	大竹亮作
17	写真	甌穴2：喜多方市高郷町塩坪 阿賀川	大竹亮作
18	写真	漣痕 [リップルマーク]：西会津町漆窪軽沢林道	大竹亮作
19	写真	岩塔1：天狗岩 大沼郡会津美里町谷ヶ地博士山	大竹亮作
20	写真	岩塔1：きのこ岩 郡山市逢瀬町多田野浄土松公園	大竹亮作
21	写真	コンポルート葉理：会津若松市大戸町高川	大竹亮作
22	図表パネル	非金属鉱山跡地図	桑原功
23	図表パネル	金属鉱山跡地図	桑原功
24	図表パネル	動物化石・植物化石採集地図	桑原功
25	研究論文	火砕流大地「背中灸山」	白岩勇
26	観察装置	“蛍光鉱物を観察しよう”（蛍光鉱物観察暗箱）	星総一郎
27	オブジェ	水晶ライト（水晶に照射する光の色を順に変えて楽しむ）	星総一郎
28	模型	鉱石粉碎機（コニカル・ボール・ミル）模型	鷺山義雄
29	図表	会津地方の鉱山採鉱年表	鷺山義雄
30	写真パネル	半田銀山：採鉱に使用した竹灯の残骸	鷺山義雄
31	写真パネル	軽井沢鉱山：今に残る大煙突	鷺山義雄
32	写真パネル	加納鉱山：明治38年より大正8年に至る銅鉱山跡	鷺山義雄
33	写真パネル	石ヶ森鉱山：創業時代の石膏運搬風景	鷺山義雄
34	写真パネル	沼尻鉱山：製錬窯の上で鉱石の入替をする鉱夫	鷺山義雄
35	写真パネル	八総鉱山：露天掘跡にみる沈殿池	鷺山義雄
36	写真パネル	横田鉱山：地表に露出した鉱床の露天掘	鷺山義雄
37	観察装置	“踊る砂鉄”（砂鉄の性質観察装置）[再掲]	鷺山義雄

(4) 移動展

県立博物館の展示を見たくても「会津若松は遠すぎて」という県民の声がしばしば聞かれる。また、当館で実施した企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多い。県立博物館では、収蔵品を県内各地で広く公開することで、県民や市

町村の要望に応え、県民に文化に対する理解をさらに深めてもらうという目的で、県内の博物館相当施設での展示を開催している。

「県立博物館移動展 はま・なか・あいつの名品」

1. 会 期 平成20年10月7日(火)～11月24日(月)
2. 会 場 須賀川市立博物館

福島県立博物館移動展
展示見学ガイド



「はま・なか・あいつの名品」展示見学ガイド
(須賀川市立博物館制作)

3. 入館者数 2,789人
4. 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎 考古分野：田中 敏・横須賀倫達 歴史分野：佐藤洋一 美術分野：小林めぐみ 民俗分野：榎 陽介 企画：展示班（榎 田中 横須賀）
5. 趣 旨

福島県を大きく三つに分けると浜通り、中通り、会津地方の三地域になる。環境的にも歴史的にも異なり、生活文化にも相違がみられる。また、幕末の激動の時代に生き新撰組を生み出す契機となった浪士組を組織した清河八郎の紀行文「西遊草」には「須賀川以北の地はすべてこれまでと一変し、万事奥羽の鄙びた気風となり」とあり、須賀川が東北との分かれ目になるという観察がある。このように、同じ三地域内であっても、その地の陸上河川海などの交通条件その他により、さらに差異が出てくる。自然や交通の環境が違えば住んでいる人びとの生活も異なる。同じひとつの「ふくしま」でも、まるで異なる地域のような差が出ることも多い。ある面で明白で、また微妙に感じ取れる「差異」というものが、どのようにしてそれぞれの地域に現れているかという大きな問題について、それぞ

れの地域に関連する当館所蔵・寄託の資料を並べて展示した。

6. 展示構成

導入展示

上棟式の奉納物：火伏せ（三島町）、オカマサマ（二本松市下川崎）、火伏せ（南相馬市鹿島区）

ワラニンギョウ：ニンギョウサマ（西会津町）、ニンギョウ（石川町）、ニンギョウサマ（いわき市）

I 浜通り：自然、考古、歴史、美術、民俗
日本最古のアリの化石（いわき市）、三貫地貝塚出土資料（新地町）、マイワイ（いわき市）など

II 会津地方：自然、考古、歴史、美術、民俗

塩坪遺跡出土石器（喜多方市）、山川健次郎遺品（会津若松市）、ふくさ人形（喜多方市）など

III 中通り：自然、考古、歴史、美術、民俗
パレオパラドキシア全身骨格模型（伊達市）、原山一号墳出土埴輪（泉崎村）、亜欧堂田善「七里ヶ浜遠望図」、上行合人形（郡山市）など

7. 関連行事

- ① 県立博物館学芸員によるギャラリートーク
10月18日(土)、11月1日(土) 午前11時～12時
- ② 「けんぱく」の出張体験コーナー（須賀川市立博物館学芸員・職員により開催）
和紙を染めてみよう：10月11日(土)、25日(土)
むかしの衣装を着てみよう：11月8日(土)、15日(土)、22日(土)

8. 成果・課題

今回の移動展では、資料の輸送やパンフレットの印刷など大半の経費を須賀川市立博物館が負担する形で実施された。というのも、今年度の移動展の予算は大幅に縮小されており、これまでと同じような展覧会として開催するには、須賀川市側の負担がなければ実施できない状態であったからだ。

一方、須賀川市立博物館の展示室は、ちょうどよい広さで、雰囲気も大変良い場所だった。館をあげての協力態勢で、職員総出で展示作業を手伝っていただいた。会期中の入館者数は2,800人弱となった。これには、会期中の11月8日(土)の「松明あかし」があり、一日で798もの入館者があったこと、および、須賀川近辺の日帰り温泉施設へのバスによる送迎の途次に寄る（比較的高齢者が中心）という使い方もあり、そのことが大きく寄与し

ていたようだ。

ともかくも、良い雰囲気ของ博物館で落ち着いた展示を、一定程度の来館者にご覧いただくことができ、館蔵の資料を県民に公開するという成果を得ることができた。

しかし、最初に書いたように、すでに移動展をこちらの負担のみで開催するということはできなくなってしまっている。そのためには、今回のように開催場所が輸送などの経費を負担するか、公用車の日帰り出張で対応できる範囲に限られてしまうだろう。おそらく、今回の須賀川市立博物館のように予算の裏付けがあって開催するということはそれほど多くはないだろうから、後者のような形になるだろう。そうなると、美術資料などが展示困難となる可能性が大きいかもしれない。



「はま・なか・あいつの名品」展示風景

「福島県立博物館移動展 はま・なか・あいつの名品」展示資料一覧

No.	資料名	(出自)	分野	地区	点数	指定	備考
1	須恵器杯	社教資料	考古	—	1		
2	土師器杯	社教資料	考古	—	2		
3	古墳出土鏡(複製)		考古	—	1		
4	縄文時代土器(複製)		考古	—	8		
5	平安時代土器(複製)		考古	—	8		蓋杯1組含め8点
6	縄文土器(深鉢—縄文後期)	三貫地貝塚(113図—1)	考古	浜	1		
7	縄文土器(単孔付土器—縄文後期)	三貫地貝塚(128図—6)	考古	浜	1		
8	縄文土器(深鉢—縄文後期)	三貫地貝塚(153図—2)	考古	浜	1		
9	縄文土器(深鉢—縄文晩期)	三貫地貝塚(164図—2)	考古	浜	1		
10	縄文土器(鉢—縄文晩期)	三貫地貝塚(169図—25)	考古	浜	1		
11	縄文土器(台付鉢—縄文晩期)	三貫地貝塚(170図—15)	考古	浜	1		
12	縄文土器(鉢—縄文晩期)	三貫地貝塚(173図—2)	考古	浜	1		
13	縄文土器(壺—縄文晩期)	三貫地貝塚(177図—2)	考古	浜	1		
14	縄文土器(注口土器—縄文晩期)	三貫地貝塚(182図—1)	考古	浜	1		
15	縄文土器(片口土器—縄文晩期)	三貫地貝塚(186図—3)	考古	浜	1		
16	骨角器(ヤス)	三貫地貝塚(219図—11)	考古	浜	1		
17	骨角器(ヤス)	三貫地貝塚(220図—5)	考古	浜	1		
18	骨角器(有尾刺突具)	三貫地貝塚(221図—1)	考古	浜	1		
19	骨角器(有尾刺突具)	三貫地貝塚(221図—2)	考古	浜	1		
20	骨角器(有尾刺突具)	三貫地貝塚(221図—7)	考古	浜	1		
21	骨角器(組合せ式ヤス)	三貫地貝塚(221図—11)	考古	浜	1		
22	骨角器(組合せ式ヤス)	三貫地貝塚(221図—12)	考古	浜	1		
23	骨角器(組合せ式ヤス)	三貫地貝塚(222図—4)	考古	浜	1		
24	骨角器(逆刺)	三貫地貝塚(223図—1)	考古	浜	1		
25	骨角器(逆刺)	三貫地貝塚(223図—3)	考古	浜	1		
26	骨角器(根ばさみ)	三貫地貝塚(223図—9)	考古	浜	1		
27	骨角器(根ばさみ)	三貫地貝塚(223図—11)	考古	浜	1		
28	骨角器(弭形角製品)	三貫地貝塚(225図—6)	考古	浜	1		
29	骨角器(弭形角製品)	三貫地貝塚(225図—7)	考古	浜	1		
30	骨角器(加工痕ある鹿角)	三貫地貝塚(228図—3)	考古	浜	1		
31	骨角器(加工痕ある鹿角)	三貫地貝塚(228図—4)	考古	浜	1		
32	骨角器(ヘアーピン)	三貫地貝塚(229図—1)	考古	浜	1		
33	骨角器(管状装飾品)	三貫地貝塚(229図—2)	考古	浜	1		
34	骨角器(鹿角製垂飾品)	三貫地貝塚(229図—3)	考古	浜	1		

No.	資料名	(出自)	分野	地区	点数	指定	備考
35	骨角器 (ワシタカ科指骨垂飾品)	三貫地貝塚 (229図-11)	考古	浜	1		
36	骨角器 (タヌキ犬歯垂飾品)	三貫地貝塚 (229図-12)	考古	浜	1		
37	貝輪 (マルサルボウ)	三貫地貝塚 (230図-3)	考古	浜	1		
38	貝輪 (マルサルボウ)	三貫地貝塚 (230図-6)	考古	浜	1		
39	耳栓	三貫地貝塚 (233図-2)	考古	浜	1		
40	耳栓	三貫地貝塚 (233図-3)	考古	浜	1		
41	耳栓	三貫地貝塚 (233図-8)	考古	浜	1		
42	耳栓	三貫地貝塚 (233図-9)	考古	浜	1		
43	三貫地貝塚23号人骨レプリカ	常設展示 (支持具付き)	考古	浜	1		
44	23号人骨頭部復元	常設展示 (支持具付き)	考古	浜	1		
45	石包丁	天神沢遺跡	考古	浜	3		
46	大型蛤刃石斧	天神沢遺跡	考古	浜	2		
47	扁平片刃石斧	天神沢遺跡	考古	浜	2		
48	ノミ形石斧	天神沢遺跡	考古	浜	2		
49	石鍬	天神沢遺跡	考古	浜	1		
50	抉入打製石斧	天神沢遺跡	考古	浜	1		
51	火伏せ	南相馬市南柚木 (旧鹿島町)	民俗	浜	1式		
52	ニンギョウサマ	いわき市遠野町釜ノ前	民俗	浜	1		
53	ニンギョウサマ	いわき市遠野町四条内	民俗	浜	1		
54	万祝	相馬市原釜	民俗	浜	1		
55	レプトフレウム (鱗木)	南相馬市鹿島区上栃窪	自然	浜	1		
56	ハリアリ亜科の一種	いわき市大久町小久	自然	浜	1		寄託資料
57	コハク	いわき市久之浜町末続	自然	浜	1		
58	サブディコトモセラス	南相馬市鹿島区御山	自然	浜	1		
59	サブディコトモセラス	南相馬市鹿島区御山	自然	浜	1		
60	サブディコトモセラス	南相馬市原町区深野	自然	浜	1		
61	アウラコスフィンクトイデス属?の一種	相馬市富沢	自然	浜	1		
62	ハプロセララス属の一種	相馬市富沢	自然	浜	1		
63	サブディコトモセラス属の一種	相馬市富沢	自然	浜	1		
64	サブディコトモセラス属の一種	南相馬市鹿島町区小池	自然	浜	1		
65	人物埴輪 (盾持)	原山1号墳	考古	中	1	県重文	
66	人物埴輪 (女子)	原山1号墳	考古	中	1	県重文	
67	動物埴輪 (鳥)	原山1号墳	考古	中	1	県重文	
68	円筒埴輪	原山1号墳	考古	中	2	県重文	
69	須恵器長頸瓶	鈴木安信コレ	考古	中	1		
70	書色紙・和歌短冊	松平定信	美術	中	1幅		
71	集古十種	谷文晁 他	美術	中	75		73冊・箱2点
72	縮写集古十種		歴史	中	8		
73	銅鼓拓本 (『集古十種』掲載資料)		美術	中	1幅		寄託資料
74	山水図 (大和弥コレクション)	谷文晁	美術	中	双幅		前期
75	七里ヶ浜遠望図	亜欧堂田善	美術	中	1面		後期
76	山水図	白雲	美術	中	双幅		前期・寄託資料
77	張良・孔明・関羽図	安田田騏	美術	中	3幅対		後期
78	おかまさま	二本松市石橋 (旧安達町)	民俗	中	1式		
79	ニンギョウ	石川町中田八又	民俗	中	1		
80	上行合人形	郡山市上行合	民俗	中	6組	県重文	寄託資料
81	衣装をはさむ板・小道具	郡山市上行合	民俗	中		県重文	寄託資料
82	松平定信筆「詠帰亭」額		歴史	中	1		
83	集古十種 (郁文社版)				21		
84	パレオパラドキシア梁川標本全身骨格模型	伊達市梁川町上川原 広瀬川	自然	中	1		
85	ペグマタイト鉱物 (文象花崗岩)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
86	ペグマタイト鉱物 (電気石)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
87	ペグマタイト鉱物 (微斜長石)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
88	ペグマタイト鉱物 (白雲母・微斜長石)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
89	ペグマタイト鉱物 (紅石英)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		

No.	資料名	(出自)	分野	地区	点数	指定	備考
90	ペグマタイト鉱物 (微斜長石)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
91	ペグマタイト鉱物 (黄鉄鉱)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
92	ペグマタイト鉱物 (磁鉄鉱)	福島県須賀川市 小倉鉱山	自然	中	1		
93	ペグマタイト鉱物 (石英・黄鉄鉱)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
94	ペグマタイト鉱物 (鉄電気石)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
95	ペグマタイト鉱物 (緑簾石)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
96	ペグマタイト鉱物 (微斜長石)	福島県須賀川市 宇津峯	自然	中	1		
97	ペグマタイト鉱物 (水晶)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
98	ペグマタイト鉱物 (石英)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
99	ペグマタイト鉱物 (鉄パンザクロ石)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
100	ペグマタイト鉱物 (磁鉄鉱)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
101	ペグマタイト鉱物 (緑柱石)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山	自然	中	1		
102	ペグマタイト鉱物 (コランダム)	福島県須賀川市 宇津峯鉱山?	自然	中	1		
103	ペグマタイト鉱物 (正長石)	福島県石川町 石川山	自然	中	1		
104	ペグマタイト鉱物 (微斜長石)	福島県石川町 石川山	自然	中	1		
105	弥生土器 (壺)	村西遺跡	考古	会	1		
106	スクレイパー	塩坪遺跡	考古	会	3		
107	彫刻刀形石器	塩坪遺跡	考古	会	3		
108	ナイフ形石器	塩坪遺跡	考古	会	7		
109	竹に鳩図	雪村	美術	会	1幅		後期
110	蔬果図	雪村	美術	会	1幅		前期
111	諸葛孔明雲龍図	加藤遠澤	美術	会	3幅対		前期
112	維摩図	加藤遠澤	美術	会	1幅		後期
113	春景山水図	加藤遠澤	美術	会	1幅		後期
114	黄石公張良・蜀栈道・西湖図	佐竹永海	美術	会	3幅対		後期
115	蒼松白鶴図	佐竹永海	美術	会	1幅		後期
116	松竹梅漆絵椀・菊漆絵碗	会津漆器	美術	会	計10客		寄託資料
117	松竹梅漆絵五段重箱	会津漆器	美術	会	1基		寄託資料
118	菊漆絵提重	会津漆器	美術	会	1基		
119	鉄錆塗椀	会津漆器	美術	会			寄託資料
120	染付朝陽浴鶴図花瓶	会津本郷焼	美術	会	1口		寄託資料
121	染付足柄山図土瓶	会津本郷焼	美術	会	1口		寄託資料
122	染付小督仲国図土瓶	会津本郷焼	美術	会	1口		寄託資料
123	鯧鉢	会津本郷焼	美術	会	2口		寄託資料
124	切立	会津本郷焼	美術	会	3口		寄託資料
125	火伏せ	三島町名入	民俗	会	1式		
126	ニンギョウサマ	西会津町萱本	民俗	会	1		
127	ニンギョウサマ	会津美里町市野 (旧新鶴村)	民俗	会	1		
128	ふくさ人形	喜多方市岩月町入田付	民俗	会	10		寄託資料
129	フクサ人形 幕	喜多方市岩月町入田付	民俗	会	1		寄託資料
130	オリカ (カワグルミの蚕座)	会津美里町松坂	民俗	会	1		
131	カワミ (皮箕)	三島町桑原	民俗	会	1		
132	ケムシマブシ	只見町梁取	民俗	会	1		
133	流し雛	金山町水沼	民俗	会	3		
134	カンゼンブシ	只見町叶津	民俗	会	1		
135	フカグツゲンベエ	只見町叶津	民俗	会	1足		
136	松平容保と山川浩の和歌		歴史	会	1		寄託資料
137	爵位記 (男爵)		歴史	会	1		寄託資料
138	勲記 (勲三等旭日中綬章授与)		歴史	会	1		寄託資料
139	辞令 (華族)		歴史	会	1		寄託資料
140	勲章 (勲三等旭日中綬章授与)		歴史	会	1		寄託資料
141	和歌短冊収納漆器箱 (松平容保和歌短冊・山川浩和歌短冊在中)		歴史	会	1		寄託資料
142	山川健次郎愛用の独英辞書		歴史	会	1		寄託資料
143	山川健次郎愛用の懐中時計		歴史	会	1		寄託資料

No.	資料名	(出自)	分野	地区	点数	指定	備考
144	山川健次郎書幅		歴史	会	1		寄託資料
145	チョウチョウウオ科?の一種	西会津町熊沢	自然	会	1		
146	スズメダイ科の一種	西会津町熊沢	自然	会	1		
147	ヤベイトカケ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
148	キリタニツメタガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
149	ウバトリガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
150	ウバトリガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
151	ムカシツキガイモドキ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
152	キリタニツメタガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
153	ニホンシラトリガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
154	チタニビノスガイ	柳津町小椿	自然	会	1		
155	オオノガイ属の一種	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
156	ナガウバガイ	柳津町小椿	自然	会	1		
157	シオバラザルガイ	柳津町小椿	自然	会	1		
158	サラガイ属の一種	柳津町小椿	自然	会	1		
159	オウナガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
160	エゾバイ属の一種	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
161	エゾボラ属の一種	喜多方市高郷町萩野	自然	会	1		
162	シンジイシカゲガイ	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
163	ウニ類の一種	喜多方市高郷町漆窪	自然	会	1		
164	カルカロクレス (サメの歯)	会津美里町萩窪 (転石)	自然	会	1		
					279		

(パネル以外)

1	山川家の人々				1		
2	原山一号墳				1		
3	福島県の貝塚分布図				1		
4	三貫地貝塚出土人骨の配置				1		
5	三貫地貝塚22号人骨				1		
6	三貫地貝塚番外B人骨				1		
7	浅い海に堆積した砂質・凝灰質堆積物の露頭				1		
8	地質年代表				1		
9	パレオパラドキシアの骨格と梁川標本の骨の見つかった部分				1		
10	犬塚則久によるパレオパラドキシアの生体復元				1		
11	パレオパラドキシアの発掘				1		
12	リンボク (鱗木)				1		
13	アンモナイト				1		
14	カルカロクレス (サメの歯)				1		
	天武朝の女子の衣装				1式		
	当世具足				1式		
	化石観察用顕微鏡				1台		
	同 ランプ				1点		
	同 接眼レンズ				2点		
	同 台				1台		
	同 アクリルカバー				1点		

(5) 展示解説

(ア) 展示解説員

当館では、19名の展示解説員を配備し、展示の解説を中心とした業務を担当している。通常の展示解説のほか、次の解説業務を実施している。

1. やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説。原則的に土・日曜日、各2回（午前11時、午後2時開始）行い、1回の所要時間は約30分間。解説箇所は総合展示室全体。

実施状況 計77回 参加人数281人（土曜日35回137人、日曜日42回144人）



やさしい展示解説

2. 通し解説

非定期の常設・企画展解説。個人・団体の要望に応じ、展示解説員1人が総合展示室を解説。

実施回数 計27回

3. 部屋送り解説

非定期の常設・企画展解説。主に個人の要望に応じ、各展示室担当の解説員が交代で解説。

実施回数 計215回

(イ) 学芸員

企画展の会期中において、展示解説員の食事休憩の時間帯で、展示室での解説および監

視の人員が不足する事態が生じる。それに対応するため、学芸員がその役割を担う。平成20年度は、1コマ45分で計356コマ担当した。

(ウ) 展示解説のための印刷物

常設展示を解説した印刷物を次のとおり出版している。なお、企画展については、その都度展示解説図録を発行している。

①福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106p.

②福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28p.

③博物館と遊ぼう！

子供に展示に対する興味を起こさせるように工夫した解説書。平成7年発行。61p.

④Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14p.

⑥解説シート

常設展示の解説補助として展示解説シートを作成した。常設展示を中心に各コーナーで解説テーマを設け、計21ヶ所に設置した。

解説シートの作成件数（平成21年3月31日現在）

常設展示	大テーマ	テーマ数
総合展示	原始	2
	古代	2
	中世	2
	近世	2
	近・現代	2
部門展示	自然と人間	2
	民俗	2
	自然	2
	考古	2
体験学習室	歴史・美術	1
		2

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。

(ア) 考古資料の材質・製作技法に関する研究

1. 趣旨

出土した状態の考古資料は、そのままでは当時の姿を理解することが難しい。また、製作技術の分析にはその材質や技術的な特徴を把握することが必要である。本研究では展示資料を復元するためのバックデータ収集を目

的とする。

2. 調査概要

平成20年度は、県内古墳出土考古資料のうち以下の調査研究を行った。

喜多方市山崎横穴出土小札甲（6世紀末～7世紀前葉）

本年度より喜多方市教育委員会より資料を借用し、実測、写真撮影等の整理作業、及び構造、製作技術等の調査、検討を実施した。本調査は2カ年を計画しており、来年度も継続する予定。

郡山市瀧の上古墳群出土鉄製品（7世紀初頭）

平成19年度から開始。郡山市から資料を借用し、接合、実測、X線透過撮影等の整理作業及び、構造、製作技術等の調査、検討を実施した。本資料についての調査研究は今年度で終了している。なお2ヶ年度にわたる調査の成果については、平成20年度発行の当館紀要（23号）に発表した。

主な成果としては、朝鮮半島製品と親縁関係をもつ冑の構造認識、全国で3例目の確認例となる胸板状鉄製品の確認、これまで認識されていなかった馬具類の確認などがある。また、瀧の上古墳群については1・2号墳とも7世紀初頭前後の築造であることが判明し、被葬者は飛鳥時代初頭における郡山南部地域の有力者であることが推定された。

(イ) 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

1. 趣旨

(内容)

この調査研究は、県内外の観覧者が、展示室において効果的に福島県の歴史に関する理解を深めることができるように、各時代のさまざまな様相を象徴的に示すことができる実物資料について、歴史事象を多角的にとらえることができるような周辺資料も含めて、調査研究することを目的とする。その成果は、当館の常設展示の展示替えにおける歴史関係展示資料の候補や複製資料を製作する候補を選定する際に活用する。

(対象)

①古代資料：本県に関わる出土文字資料

地名（郡郷名）や人名・寺社名・歌語が記載されている典籍

②中世資料：国家の変動と本県の武士の動向がわかる歴史資料

（蘆名氏関係資料・伊達氏関係資料・蒲生氏関係資料）

③近世資料：幕藩制下における支配形態と民衆の動向がわかる歴史資料

（県内諸大名関係資料・幕府代官関係資料）

④近・現代資料：国家の動向と本県の役割がわかる歴史資料

（戊辰戦争関係資料・自由民権関係資料）

2. 調査概要

①古代 福島県関係の地名、人名、社寺名が見られる古代史資料（典籍、古辞書など）の所在調査および写真複製作成候補の選定。とくに恵日寺関係資料の調査。

②中世 福島県ゆかりの武将関係資料および絵図類の所在調査、特に新規の県外所在資料の情報収集および所在確認と調査。

③近世 福島県ゆかりの大名関係資料や地方関係資料の新規所在確認と調査。古文書資料の製作道具など成立に関わる資料の所在調査。戊辰戦争に至る幕末資料の所在調査。

④近代 世界的、全国的に著名になった福島県出身者の動向を示す資料情報の収集と資料調査。明治維新期の県内の行政文書など政治史関係資料や県内の教育史資料の所在調査。西南戦争から第二次世界大戦にかかる県内の戦争関係資料の所在調査。

⑤現代 戦後復興期の資料所在調査。日本の高度経済成長期の資料所在調査。

⑥その他 資料所在情報調査にあたっては、各時代の担当者が主体性をもってあたるが、資料調査にあたっては、調査先の資料所蔵状況に応じて、相互に協力して調査を推進する。

(ウ) 福島県における衣生活文化の研究

1. 趣旨

福島県内の衣料の歴史と材質を中心に明らかにすることを目的とする。幸い、大沼郡昭和村のようにカラムシの栽培の本州唯一の地域もあり、わが国のカラムシ栽培とそれを材料とする越後上布・縮などの伝統織物の歴史を解き明かす重要な位置にある。また、大沼郡三島町の縄文晩期の荒屋敷遺跡からは、当時の布（アングン）や布織目の圧痕のある土器片の出土などの資料もあり、布の歴史を知る上で多くの資料を有している。本研究は、これら出土繊維をも含め、麻・シナ・藤・木綿などの衣料の変遷と各地の資料館等に保存されている資料を調査し、福島県内の衣の民俗を明らかにするものである。

2. 調査概要

平成20年度は、猪苗代湖南地方の仕事着の

調査を軸に、猪苗代湖周辺の衣生活の調査を行った。具体的には、会津民俗館・猪苗代湖民俗研究所の猪苗代湖周辺の仕事着の変遷を中心に調査した。

また、会津民俗館長渡部認氏の協力により、同館収蔵の仕事着コレクションの調査と現地での聞き取り調査を行った。

さらに、本館寄託の「渡部つとむコレクション」の中から、会津地方のサシコの調査を行った。

(E) 福島県域の大名文化に関する研究

1. 趣旨

戦国時代末から江戸時代にかけて、福島県域には多くの領主、大名の支配地が存在した。本研究では、関連諸大名を取り巻く文化の様相を、大名自身の作品、彼らが養成した学者、画家、工人らの資料、学問に関わる資料を通して明らかにする。なお、この成果は文化展示のテーマ内容、ならびに企画展に反映させる。

2. 調査概要

相馬市個人、南相馬市個人宅で行った相馬駒焼の調査に基づき、歴史美術テーマ展示「ふくしま窯めぐり2相馬駒焼き」を開催した。

(F) 恐竜時代のふくしまに関する研究

1. 趣旨

本県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。特に最近、本県浜通りに分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめとする脊椎動物、植物化石など、重要な化石の発見が相次ぎ、これらをもとに、地史や古環境を再考することが必要となってきている。本研究では、本県中生代の岩石・化石資料を収集し、調査を進め、東アジア全体の形成史を背景としながら、当時の生物相および古環境がどのようなものであったかを明らかにする。調査にあたっては、大学等の研究機関はもちろんのこと、地域の研究団体との共同研究・情報交換を積極的に進める。

2. 調査概要

平成20年度は、相馬地域に分布するジュラ紀の相馬中村層群といわき地域に分布する白亜紀の双葉層群より得られた化石の調査を実施した。

①平成20年11月21日

いわき市四倉町在住の鈴木千里氏所蔵の双葉層群足沢層産白亜紀三角貝化石の調査

②平成20年11月22日～23日

8月に南相馬市原町区石神常磐道工事現場より大量に発見された相馬中村層群中ノ沢層産ジュラ紀アンモナイト化石の計測、写真撮影と現地地質調査。アンモナイト化石専門家である深田地質研究所理事長の佐藤正氏の指導によった。

③平成21年3月28日～29日

上述の常磐道工事現場南方の中ノ沢層から新たに得られたジュラ紀アンモナイト化石の計測、写真撮影と新産地の地質調査。

3. 成果の公表

日本古生物学会の学術雑誌「Paleontological Research」に、平成20年9月に、佐藤正氏と共著で、新種を含めた相馬中村層群産のアンモナイト化石の報告を掲載した。タイトルは次の通り。「Late Jurassic to Early Cretaceous ammonite fauna from the Somanakamura Group in Northeast Japan (東北日本に分布する相馬中村層群より産出したジュラ紀後期～白亜紀前期のアンモナイト化石)」

(2) その他の調査研究事業

(ア) 古文書整理事業

福島県域に現存する古文書は、他地域と比較して近世初期からの地方文書を大量に含むなど、たいへん良質な事で全国の研究者から注目されている。こうした古文書は、近年の自治体史編纂事業によって、少しずつではあるが人々の目にふれるようになってきた。しかし、保存管理の不備が多々指摘されはじめ、ようやく所在が確認された古文書がその後破損したり、再び所在が確認できなくなったものもある。また、自治体史編纂事業によって整理が進行しているとはいえ、未整理の古文書が古物商・古本屋によって買われ、入札会等に陳列されているのも事実である。

こうした現状は、我々に未整理の古文書の整理と、そのマイクロ撮影による古文書原本の保存が急務であることを知らせている。本事業は、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供し、原本を保存することを目的としている。

平成20年度は、「佐藤仁夫家寄託資料」を中心に、諸家寄贈・寄託資料の整理を実施した。マイクロ撮影は、前年度より継続して「堀切家寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

(ア) 研究成果の公表 (職員の氏名あいうえお順)

1. 印刷物 (単行本・自治体史・図録・報告

- 書・紀要・学術雑誌)
- 阿部綾子, 2008.10, 商人司の存続と伝来文書
—証文・折紙・裁許状—. 浪川健治・河西
英通 (編), 地域ネットワークと社会変容
創造される歴史像, p. 73-91, 岩田書院.
- 山本隆志・阿部綾子, 2009. 3, 高野山金光院
「三春家中過去帳」とその世界 —史料紹介
をかねて—. 歴史人類, 第37号, p. 3-44,
筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史人
類学専攻.
- 榎 陽介・木田 浩, 2009. 3, 福島県におけ
る日米親善人形交流. 福島県立博物館紀要,
第23号, p. 247-266, 福島県立博物館.
- 川延安直・笹川英俊・小林めぐみ, 2008.10,
福島県立博物館 平成20年度第2回企画展
遠藤香村 —会津に生きた会津の画人—.
139 p., 福島県立博物館.
- 小林めぐみ, 2009. 3, 津田得民とマルニ工芸
—戦後会津漆工の一側面. 福島県立博物館
紀要, 第23号, p. 103-126, 福島県立博物館.
- 佐々木長生, 2008. 6, 会津地方の産育儀礼と
祝着. 民具マンスリー, 第41巻3号, p. 13-23,
神奈川大学日本常民文化研究所.
- 佐々木長生, 2008. 6, 経験科学としての会津
農書 —陰陽五行説と農業技術—. 磐城民
俗, 第35号, p. 13-19, 磐城民俗研究会.
- 佐々木長生, 2008. 8, 「会津農書」にみる天気・
地気と農業. 会津学, 第4巻, p. 115-142, 会
津学研究会.
- 佐々木長生, 2009. 1, 喜多方の農耕絵馬. 民
具マンスリー, 第41巻10号, p. 1-13, 神奈
川大学日本常民文化研究所.
- 佐々木長生, 2009. 3, 人の一生と暮らし [人
生儀礼・民間信仰]. 会津若松市史研究会
(編), 会津若松市史25 民俗編5 生活, p.
1-80, 会津若松市.
- 佐々木長生, 2009. 3, 『会津農書』にみる農業
技術と村落風景. 福島県立博物館紀要, 第
23号, p. 149-157, 福島県立博物館.
- 佐治 靖, 2008. 7, イタコノクチヨセ —口寄
せ巫儀をめぐる異界観. 小松和彦還暦記念
論文集刊行会 (編), 日本文化の人類学
異文化の民俗学, p. 283-304, 法蔵館.
- 佐藤洋一, 2009. 3, 『集古十種』版本の刊行過
程について. 福島県立博物館紀要, 第23号,
p. 129-148, 福島県立博物館.
- 鈴木克彦, 2009. 3, 奥会津トンボ (廁) と肥
の物語 —2008—. 福島県立博物館紀要, 第
23号, p. 189-236, 福島県立博物館.
- 高橋 充, 2009. 1, 直江兼統と関ヶ原合戦.
矢田俊文 (編), 直江兼統, p. 59-82, 高志
書院.
- 高橋 充, 2009. 3, 第2編 通史 第2章 中世.
会津若松市史研究会 (編), 北会津村史 第
3巻 自然・通史編, p. 214-244, 会津若松市.
- 竹谷陽二郎・藤原妃敏・大竹正浩・高橋 充・
佐々木長生・星 幸・小澤義春・佐藤洋一・
森 幸彦・佐藤 公・小桧山六郎・米地文
夫・菅野俊之, 2008. 7, 共同企画展「会津
磐梯山」展示解説図録. 88 p., 福島県立博
物館.
- Sato, T. and Taketani, Y., 2008.9, Late
Jurassic to Early Cretaceous ammonite
fauna from the Somanakamura Group in
Northeast Japan. *Paleontological Research*, vol.
12, no. 3, p. 261-282, 日本古生物学会.
- Kemkin, I. V. and Taketani, Y., 2008.12, Structure
and age of lower structural unit of Taukha
terrane of Late Jurassic - Early Cretaceous
accretionary prism, southern Sikhote-Alin.
Island Arc, vol. 17, p. 517-530, Wiley-
Blackwell社.
- 竹谷陽二郎, 2009. 3, 1888年磐梯山噴火にお
ける小磐梯の崩壊と噴火後の湯桁山の地形
変化. 福島県立博物館紀要, 第23号, p. 13-
34, 福島県立博物館.
- 星 幸, 2009. 3, 『平島松尾』再考 —明治ふ
くしまの新聞創刊をめぐる—. 福島県立
博物館紀要, 第23号, p. 159-187, 福島県立
博物館.
- 松田隆嗣・小林めぐみ, 2009. 3, 犬神縁故会
所蔵金銅装束について. 福島県立博物館紀
要, 第23号, p. 237-245, 267, 福島県立博物
館.
- 横須賀倫達, 2008.12, 勿来金冠塚古墳とその
時代. いわき古代の風, 第3号, p. 3-10, い
わき古代史研究会.
- 横須賀倫達, 2009. 1, 後期型鉄冑の系統と系
譜. 考古学ジャーナル, 第581号, p. 17-21,
ニューサイエンス社.
- 横須賀倫達, 2009. 3, 澗の上1・2号墳出土
遺物の調査と研究. 福島県立博物館紀要,
第23号, p. 59-102, 127, 福島県立博物館.
2. 学会発表
- 松田隆嗣, 2008. 6, 水質検知管を用いた脱塩
溶液中の塩素イオン濃度測定の有効性につ
いて. 日本文化財科学会第25回大会.
- (イ) 他団体による委嘱等
- 阿部綾子: 青森県史編纂委員 青森県
阿部綾子: 塩川町史編纂委員 喜多方市教育

委員会
阿部綾子：北会津村史編纂委員 会津若松市
阿部綾子：伊南村史編纂委員 南会津町教育
委員会
榎 陽介：相馬市史編纂委員 相馬市教育委
員会
川延安直：喜多方市美術品収集委員 喜多方
市教育委員会
川延安直：伊南村史編纂委員 南会津町教育
委員会
川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委
員 いわき市教育委員会
小林めぐみ：伊南村史編纂委員 南会津町教
育委員会
佐々木長生：研究プロジェクト「農業と環境
破壊」 総合地球環境学研究所
佐々木長生：相馬市史執筆委員 相馬市教育
委員会
佐々木長生：小高町史編纂委員 南相馬市教
育委員会
佐治 靖：環境と開発に関する調査 平安座
自治会
佐治 靖：郡山市文化財保護審議委員会委員
郡山市教育委員会
佐治 靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜枝
岐村教育委員会
佐治 靖：マイクロサッカーとしての在来
知に関する人類学的研究調査委員 日本学
術振興会
佐藤洋一：神道大系編纂会評議員 (財) 神
道大系編纂会
佐藤洋一：前沢曲屋集落伝統的建造物群保存
地区保存計画策定委員会委員 南会津町
高橋 充：塩川町史編纂委員 喜多方市教育
委員会
高橋 充：伊南村史編纂委員 南会津町教育
委員会
高橋 充：二本松城調査指導委員会委員 二
本松市教育委員会
高橋 充：向羽黒城整備委員会委員 会津美
里町教育委員会
高橋 充：北会津村史編纂委員 会津若松市
高橋 充：原町市史編纂委員 南相馬市教育
委員会
高橋 充：相馬市史編纂委員 相馬市教育委
員会
高橋 充：会津藩主松平家墓所及び松平氏庭
園指導会議委員 会津若松市教育委員会
高橋 充：会津藩主松平氏墓所保存修理検討
委員会委員 猪苗代町教育委員会
高橋 充：阿津賀志山防塁整備指導委員会委
員 国見町教育委員会
高橋 充：宮脇遺跡調査指導委員会委員 伊
達市教育委員会
竹谷陽二郎：相馬市史執筆委員 相馬市教育
委員会
藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員
会津若松市教育委員会
藤原妃敏：会津若松市史研究会委員 会津若
松市
藤原妃敏：塩川町史編纂委員 喜多方市教育
委員会
藤原妃敏：原町市史編纂専門研究員 南相馬
市教育委員会
藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美
里町教育委員会
藤原妃敏：喜多方市立美術館運営協議会委員
喜多方市教育委員会
藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡
山女子短期大学
松田隆嗣：会津藩松平家墓所保存整備指導会
議委員 会津若松市教育委員会
松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存修理検討
会委員 猪苗代町教育委員会
森 幸彦：原町市史編纂専門研究員 南相馬
市教育委員会
森 幸彦：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育
委員会
横須賀倫達：日本考古学協会埋蔵文化財保護
対策委員会全国委員 日本考古学協会
若林 繁：会津若松市文化財保護審議委員会
委員 会津若松市教育委員会
若林 繁：いわき市文化財保護審議委員会委
員 いわき市教育委員会
若林 繁：白河市文化財保護審議委員会委員
白河市教育委員会
若林 繁：相馬市史編纂委員 相馬市教育委
員会
若林 繁：伊南村史編纂委員 南会津町教育
委員会
若林 繁：会津坂下町史編纂委員 会津坂下
町教育委員会
若林 繁：慧日寺整備検討委員会専門委員
磐梯町教育委員会
若林 繁：森林文化に係わる調査検討委員会
委員 福島県農林水産部
若林 繁：会津若松市史研究会委員 会津若
松市

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では、館長と学芸員自らおよび外部講師

に依頼し、一般利用者向けの各種の講座や講演会を実施している。

平成20年度行事一覧

(1) 木曜の広場

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
会津学講座1 「会津農書」の民俗世界	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	4月3日(木)	78
会津学講座2 風土記・風俗帳の民俗世界	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	5月8日(木)	108
会津学講座3 会津の民俗芸能	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	6月5日(木)	88
会津学講座4 会津の山の神信仰	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	7月3日(木)	103
会津学講座5 磐梯山信仰	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	8月7日(木)	122
会津学講座6 鮭・鱒の民俗	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	9月4日(木)	120
会津学講座7 会津の焼畑と火耕	赤坂憲雄・岸本誠司	館長・東北芸術工科大学講師	10月2日(木)	65
会津学講座8 森のめぐみと民俗	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	11月6日(木)	60
会津学講座9 雪と農業「会津農書」にみる雪	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	12月4日(木)	83
会津学講座10 会津の市と市神祭り	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	1月8日(木)	82
会津学講座11 馬をめぐる民俗	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	2月5日(木)	77
会津学講座12 民具が語る暮らし	赤坂憲雄・佐々木長生	館長・学芸員	3月5日(木)	75

(2) 考古学講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
考古学講座①「考古学から探る—古代会津の謎」	横須賀倫達	学芸員	4月19日(土)	112
考古学講座②「高校生のための考古学集中講座」発掘体験	森 幸彦	学芸員	8月6日(木)	12
考古学講座②「高校生のための考古学集中講座」遺跡巡見	森 幸彦	学芸員	8月7日(木)	12
考古学講座②「高校生のための考古学集中講座」体験学習	森 幸彦	学芸員	8月8日(金)	12
考古学講座③「土器作り」part1	大竹正浩	学芸員	9月6日(土)	27
考古学講座③「土器作り」part2	大竹正浩	学芸員	9月7日(日)	27
考古学講座④「土器焼き」	大竹正浩	学芸員	10月12日(日)	30
考古学講座⑤「古代のアクセサリーを作ろう」	藤原妃敏	学芸課長	11月9日(日)	12

(3) 民俗講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
箕の民俗①「阿武隈山中の箕作り」	榎 陽介	学芸員	9月28日(日)	13
箕の民俗②「会津の皮箕作り」	鈴木克彦	学芸員	10月4日(土)	13
箕の民俗③「北陸の箕」	榎 美香	日本民具学会会員	10月13日(月)	10
箕の民俗④「箕をめぐる民俗」	佐々木長生	学芸員	11月1日(土)	20

(4) 歴史講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
資料が語る人物史1 「直江兼続と上杉景勝」	高橋 充	学芸員	11月8日(土)	130
資料が語る人物史2 「平島松尾と三島通庸」	星 幸	学芸員	12月13日(土)	115
資料が語る人物史3 「馬嶋瑞園と松平容保」	阿部綾子	学芸員	2月14日(土)	162
資料が語る人物史4 「石井研堂と幸田露伴」	佐藤洋一	学芸員	3月14日(土)	77

(5) 美術講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
親子で写そう！けんぱく大撮影会	内藤正敏	写真家・東北芸術工科大学大学院教授	4月20日(日)	14
展示室講座1「中国の英雄にこめた願い」	川延安直・小林めぐみ	学芸員	5月24日(土)	38
麟閣茶会ーけんぱくの宝と会津の茶道具で	川延安直・小林めぐみ	学芸員	6月22日(日)	22
相馬駒焼の絵付けに挑戦	田代清治右衛門	相馬駒焼第15代当主	6月28日(土)	15
展示室講座2「やきものはここを見る2」	小林めぐみ	学芸員	7月12日(土)	29
展示室講座3「けんぱく版課外授業 資料で見る社会科」	笹川英俊	学芸員	8月10日(日)	8
展示室講座4「魅力発見ーけんぱくの宝2」	川延安直・小林めぐみ・笹川英俊	学芸員	9月27日(土)	16
「縁起物を作ろう 鯉の滝登りを描こう」	渡邊晃一	福島大学准教授	11月2日(日)	33
「縁起物を作ろう 焼き物で作る七福神」	金山 忍	陶芸家	11月2日(日)	33
展示室講座5「大和弥コレクションについて」	川延安直	学芸員	12月6日(土)	40

(6) 自然史講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
化石をさがそう	竹谷陽二郎	学芸員	10月4日(土)	36
化石標本を作ろう	相田 優	学芸員	10月5日(日)	28
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	鳥類研究家	11月16日(日)	15
地球と生命の共進化ー地球史年表をつくって学ぶー	小澤義春	学芸員	11月29日(土)	18

(7) 保存科学講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
バックヤードから見た博物館ー博物館では虫・カビの害をどのように防いでいるのかー	松田隆嗣	学芸員	11月30日(日)	18

(8) 指導者向け研修講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
福島県立博物館研修講座	小澤義春ほか	学芸員	8月1日(金)	19

(9) 移動展・収蔵資料品展展示解説会

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
まほろん移動展「考古学から探る古代会津～新編陸奥国風土記卷之五 会津郡・耶麻郡その二」	横須賀倫達	学芸員	4月19日(土)	40
まほろん移動展「考古学から探る古代会津～新編陸奥国風土記卷之五 会津郡・耶麻郡その二」	横須賀倫達	学芸員	5月11日(日)	30

(10) 体験講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
おもちゃをつくろう①「はしごくだりをつくろう」	大坪千絵美	展示解説員	12月21日(日)	34
おもちゃをつくろう②「風ぐるまをつくろう」	五十嵐早苗	展示解説員	3月22日(日)	20

(11) 実技講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
須賀川の絵のぼり製作－鍾馗さまを描こう	大野青峰・大野久子	伝統技術保持者	5月5日(月)	25
草木染め1	山根正平・山根好子	染織工芸家	9月14日(土)	14
草木染め2	山根正平・山根好子	染織工芸家	9月15日(日)	14
唐人凧づくり	鈴木英夫	伝統技術保持者	12月7日(日)	9

(12) 実演

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
昔語り	山田登志美	語り部	4月13日(日)	35
昔語り	横山幸子	語り部	5月25日(日)	20
機織り	山根正平	染織工芸家	6月15日(日)	20
昔語り	山田登志美	語り部	7月13日(日)	21
昔語り	横山幸子	語り部	8月17日(日)	30

(13) 企画展記念講演会・シンポジウム・公演

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
防災シンポジウム「磐梯山噴火から考える火山防災」 第一部「1888年の磐梯山の噴火とは何か」、第二部「噴火後について」、第三部パネルディスカッション「磐梯山と火山防災を考える」	伊藤和明・中村洋一・北原糸子・松井宗広・佐藤 公	災害教訓の継承に関する専門調査会座長・宇都宮大学教授・神奈川大学教授・砂防地すべり技術センター・磐梯山噴火記念館副館長	7月19日(土)	83
企画展記念講演会「磐梯山噴火に地元の人々はどうか対処したか－避難・救援救護・災害記録とその意義－」・パネルディスカッション「磐梯山噴火をめぐる謎に迫る！」	米地文夫・小桧山六郎・佐藤 公・竹谷陽二郎・藤原妃敏	岩手県立大学名誉教授・野口英世記念館学芸課長・磐梯山噴火記念館副館長・学芸員・学芸課長	7月27日(日)	128
フォーラム&公演「玄如節 民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」 第1部フォーラム「民謡『会津磐梯山』のルーツをたどる」、第2部公演「玄如節 歌垣の世界」	千葉作美・芳賀幸雄・新井田忠誠・玄如節顕彰会の皆さん・佐々木長生	玄如節顕彰会・学芸員	8月3日(日)	88
合同企画展イベント「山寺サミットIn会津」	山口博之ほか	山形県世界遺産推進室ほか	9月21日(日)	95
瞽女唄 祭文松坂～巡礼おつる～	萱森直子	瞽女唄伝承者	10月18日(土)	85
企画展記念イベント「香村が見た 聞いた 江戸時代の怪事件」	和合亮一・浜中順子ほか	詩人・F T Vアナウンサー	11月16日(日)	80

(14) 企画展関連講座

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
シリーズ磐梯山1「磐梯山周辺の植物」	阿部 武	福島県野生動植物保護アドバイザー	7月26日(土)	63
シリーズ磐梯山2「法正尻遺跡－縄文中期の人々の生活－」	松本 茂	福島県文化振興事業団	8月2日(土)	74
シリーズ磐梯山3「火山噴火のモデル実験をしよう」	小澤義春	学芸員	8月9日(土)	15
シリーズ磐梯山4「葦名と伊達の戦い」	高橋 明	郡山市文化財保護審議会会長	8月23日(土)	123
シリーズ磐梯山5「民謡 手長・足長を語る」	小桧山六郎・いなわしろ民謡の会の皆さん・佐々木長生	野口英世記念館学芸課長・いなわしろ民謡の会・学芸員	8月30日(土)	60

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
シリーズ磐梯山6「文芸の世界」	菅野俊之	元福島県立図書館 総括司書	9月13日(土)	43
企画展記念講座1「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験」	会津能楽会の皆さん	会津能楽会会員	10月12日(日)	30
企画展記念講座2「見てみよう やってみよう 江戸の芸能体験」	会津能楽会の皆さん	会津能楽会会員	10月26日(日)	50

(15) 企画展展示解説会・展示解説日

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
「宝の山2008－磐梯山をめぐる人と自然－」	高橋 充ほか	学芸員	7月20日(日)	22
「宝の山2008－磐梯山をめぐる人と自然－」	佐藤洋一ほか	学芸員	7月21日(月)	14
「宝の山2008－磐梯山をめぐる人と自然－」	竹谷陽二郎ほか	学芸員	9月22日(月)	24
「宝の山2008－磐梯山をめぐる人と自然－」	星 幸ほか	学芸員	9月23日(火)	18
古美術の見方入門	川延安直	学芸員	10月11日(土)	25
古美術の見方入門	川延安直	学芸員	10月25日(土)	30
古美術の見方入門	川延安直	学芸員	11月22日(土)	30
友の会「野山の宝 化石・鉱物展」	化石・鉱物探検隊員の皆さん	化石・鉱物探検隊員	2月8日(日)	150
友の会「野山の宝 化石・鉱物展」	化石・鉱物探検隊員の皆さん	化石・鉱物探検隊員	3月29日(日)	188

(16) ミュージアムイベント

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
①日舞で彩る春のけんぱく	東山温泉芸妓の皆さん	東山温泉芸妓	4月26日(土)	247
②館長サタデープロジェクト「自然との共生－ 博物館に求められるもの1」「旭山動物園の奇 跡を探る」	赤坂憲雄・小菅正夫・ あべ弘士	館長・旭山動物園 長・絵本作家、元 旭山動物園飼育係	5月31日(土)	220
③館長サタデープロジェクト「自然との共生－ 博物館に求められるもの2」「植物の宝庫ふく しま」	赤坂憲雄・檜村利道	館長・福島大学名 誉教授	6月21日(土)	65
④磐梯山関連音楽イベント「会津磐梯山を歌おう」	会津若松市立第二中学 校合唱部の皆さん	会津若松市立第二 中学校合唱部	7月19日(土)	40
⑤夏の夕べ 野外映画会「大魔神」			8月16日(土)	50
⑥「長谷川ファミリーほのぼのコンサート」	長谷川朝子ほか	声楽家・ハープ奏者	9月20日(土)	111
⑦「瞽女唄」を知っていますか	萱森直子・木下 晋	瞽女唄継承者・画家	10月18日(土)	140
⑧友の会20周年記念式典「記念講演会」	高橋克彦ほか	作家	11月15日(土)	185
⑨クリスマスコンサート「歌と映像で振り返る 昭和のきらめき」	ソフト・ボイス、山田 広野	アカペラユニット、 活弁士	12月21日(日)	260
⑩館長サタデープロジェクト「自然との共生－ 博物館に求められるもの3」「シーラカンスは 語る」	赤坂憲雄・安部義孝	館長・アクアマリ ンふくしま館長	1月17日(土)	88
⑪館長サタデープロジェクト「自然との共生－ 博物館に求められるもの4」「只見 プナの森 を愛す」	赤坂憲雄・新国 勇	館長・只見の自然 に学ぶ会代表	2月21日(土)	104
⑫館長サタデープロジェクト「自然との共生－ 博物館に求められるもの5」「磐梯山をジオパ ークにしよう！」基調講演「ジオパーク先進地 有珠山での取り組み」	宇井忠英・赤坂憲雄・ 小松山六郎・佐藤 公・竹谷陽二郎	北海道大学名誉教 授・館長・野口英世 記念館学芸課長・ 磐梯山噴火記念館 副館長・学芸員	3月21日(土)	132

(17) はくぶつかんで遊ぼう！

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
①こいのぼりをつくろう	五十嵐早苗ほか	展示解説員	5月3日(土)	97
②七夕かざりをつくろう	大竹さやか	展示解説員	7月6日(日)	111
③和紙を染めよう	渡邊芙美ほか	展示解説員	8月24日(日)	48
④びゅんびゅんゴマをつくろう	大和田実弘ほか	展示解説員	10月25日(土)	28
⑤折り紙でクリスマスカードをつくろう	一条雅子ほか	展示解説員	12月13日(土)	83
⑥鬼の面をつくろう	渡邊芙美ほか	展示解説員	1月31日(土)	62

(18) その他の共催事業

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加者
NPO法人はるなか「桜守養成講座」	佐藤光信	NPO法人はるなか 理事長	7月5日(土)	20
会津史談会講演会「会津の仏像」	若林 繁	学芸員	12月11日(木)	77
会津史談会講演会「太宰治の世界とみちのく松陰道」	柳沢良知	小泊の歴史を語る 会会長	3月29日(日)	141
FMふくしま公開録音「一枚の写真から」公開ライブ	吉田慶子	パーソナリティ・ボ サノヴァシンガー	8月31日(日)	110
放送大学公開講演会「直江兼統とまぼろしの白河決戦」	石田明夫	会津古城研究会長	12月7日(日)	217
NPO法人はるなか講演会「会津の棉・綿講習会ー棉織り・糸紡ぎー」	榎 陽介	学芸員	2月8日(日)	45
NPO法人はるなか講演会「会津の自然ー里山再生を目指してー」	星 一彰	福島県自然保護協 会会長	3月1日(日)	160
NPO法人はるなか講演会「会津の桜ー鶴ヶ城の桜100周年ー」	渡部鉦太郎	会津生物同好会会員	3月15日(日)	130
特別講座「100年前の実験に挑戦ー石井研堂の理科読み物に見る科学・技術・社会」	岡田 努	福島大学准教授	3月21日(土)	13



木曜の広場「磐梯山信仰」



考古学講座「高校生のための考古学集中講座 発掘体験」



考古学講座「土器作り」



美術講座「けんぱく大撮影会」



民俗講座「北陸の箕」



美術講座「やきものはここを見る」



歴史講座「平島松尾と三島通庸」



自然史講座「化石をさがそう」



保存科学講座「バックヤードから見た博物館」



実演「昔語り」



体験講座「はしごくだりを作ろう」



共催事業 FMふくしま公開録音
「一枚の写真から」公開ライブ



実技講座「須賀川の絵のぼり製作」

(2) ミュージアムイベント

地域に開かれた親しみやすい博物館を目指すため、ミュージアムイベントと称し、エントランスホールを中心にして、毎月イベントを開催した。

(ア) 四季のイベント

ミュージアムイベントの中で、特に春夏秋冬に規模の大きい「四季のイベント」を開催した。

1. 春「日舞で彩る春のけんぱく 会津東山芸妓さんの魅力」

日時 平成20年4月26日(土) 午後1時30分～3時

会場 エントランスホール

参加者数 247人

出演 東山温泉芸妓屋協同組合所属の芸妓さん(12人)

内 容

あいつ芸妓振興友の会との共催により実現した企画。普段目にする機会の少ない芸妓さんの舞踊やお座敷遊びについて解説を交えながら鑑賞・体験できる内容である。第1部の古典舞踊、第2部の歌謡曲やオリジナル曲で構成されるステージは、日々の舞踊や三味線などのお稽古ごとの上に成立する厳格な芸能の世界をあらためて伝統文化として捉えるよい機会となった。また、第1部終了後のお座敷遊びの再現では、実際に芸妓さんと当館館長や来賓の方々がステージに上がり、大変な盛り上がりを見せた。当日は、天候にも恵まれ、東山温泉芸妓さんとの‘粋な遊びの世界’を堪能することができた。

成果と課題

- ①会津若松商工会議所を中心に組織されるあいつ芸妓振興友の会のご協力により、時間をかけて東山温泉芸妓屋協同組合の皆さんとイベント開催に向けて詳細な打合せを重ねることができた。また、内容の構成だけでなく、会津東山温泉における芸妓さんの歴史や現在の状況など、貴重な情報を提供していただいた。
- ②開催後のアンケートを集約してみると、「地元に住んでいるが初めて芸妓さんを見近に見て大変感激した」「優雅な踊りや鳴り物・・・伝統文化の発展のためにも会津に長く残したい」など、来場者からも好意的な声が多く寄せられた。
- ③現役の芸妓さん12名の日程を調整することが難しかった。ステージの構成や出演者の人数を早い段階で決定できれば、打合せもより効率よく進めることができたと思う。



日舞で彩る春のけんぱく

2. 夏 「夏の夕べ 野外映画会 大魔神」

日 時 平成20年8月16日(土) 午後5時～9時

会 場 雨天のため講堂

参加者数 50人

内 容

今年度は、映画会の前にイベントはおこなわず、映画会のみを実施した。映写方法もフィルムを使わずに、DVDを大型プロジェクターでスクリーンに映し出す方法をとった。

昭和に製作された映画で、親子で楽しめる映画を上映するという考え方で、映画「大魔神」を選んだ。シリーズ3作からなり、上映したのは1作目で1966年(昭和41)に製作された。大魔神は、古墳時代の埴輪の武人像に着想を得ている。

成果と課題

- ①当日は大雨だったため、野外に設置する予定のスクリーンを講堂に移設しての映画会となった。スクリーンへの映像の映り方や音響などは、昨年野外上映とほぼかわらない状況であった。
- ②DVDを使用しての上映は、かかる費用も比較的安価で、簡単な操作で上映できるので、来年度以降も同様の方法をとっていきたい。
- ③映画を観た人のアンケートでは、野外での上映を希望する人が大部分であった。また、情報を得る手段として、ホームページや博物館だよりなどよりは、ポスターやチラシで知った人が多かった。

3. 秋 「瞽女(ごぜ)唄を知っていますか」

日 時 平成20年10月18日(土) 午後1時30分～3時

会 場 エントランスホール

参加者数 140人

出 演 萱森直子氏(瞽女唄継承者)、木下晋氏(画家)、赤坂憲雄(当館館長)

内 容

現在ではほとんど聴くことがなくなってしまった瞽女唄だが、かつての会津地方では夏から秋にかけて新潟県から多くの瞽女が訪れ、各家を門付けして歩いていた。夜になると瞽女の定宿で瞽女唄を披露した。これには多くの村人が集まり、涙ながらに唄に耳を傾けたと言われている。現在でも大正初期以前の生まれの方の中には、瞽女唄についての思い出を語る事が出来る人が多くいる。

しかし、瞽女唄を現在継承している方は



「瞽女唄を知っていますか」

実に僅かである。その一人が萱森直子氏である。今回は、最後の瞽女と言われた小林ハルさんから唄を受け継いだ萱森氏と小林ハルさんを長年にわたって描き続けてきた画家の木下晋氏を招き、赤坂館長の司会でトークを行った。そして、トークの合間に萱森氏の瞽女唄を演奏した。瞽女唄独特の節回しと声がエントランスホールに響き渡った。

成 果

初めて瞽女唄を聴いたという来館者が多かった。また、瞽女唄の独特の響きと瞽女の心に触れることができ、感動したとの声を多く聞くことが出来た。失われつつある芸能の一つであるが、多くの人にその存在と心を伝えられたことは大きな成果といえる。

課 題

1時間半という時間の中でトークと演奏を一緒に行ったので、演奏の時間が短くなってしまった。イベントの内容によって時間設定を考慮する必要があると感じた。

4. 冬「クリスマスコンサート 歌と映像で振り返る昭和のきらめき」

日 時 平成20年12月21日(土) 午後2時30分～4時

会 場 エントランスホール

参加者数 260人

出 演 Soft Voice (ソフトボイス・アカペラユニット)

山田広野氏 (活弁士・映画監督)

内 容

映像と音楽で昭和時代を振り返り、当時の様子や日本ならではの美しい歌の旋律を楽しむコンサートを開催した。

第1部 (午後2時30分～3時)「おもし

ろ活弁・民友ニュース」

当館が所蔵する昭和20年代～40年代にかけてのニュース映像「民友ニュース」に、会津若松市出身で東京を中心に活躍する活弁士・山田広野さんが活弁をつけた。懐かしい映像に楽しい活弁が付き、来場者は当時の様子を楽しんだ。

第2部 (午後3時～4時)「Soft Voice コンサート」

日本の美しい唱歌、昭和の流行歌を始めJ-popなどを中心に日本の名曲を数多く歌うアカペラグループ『Soft Voice』のコンサート。女子大生4人組のハーモニーが奏でる日本の歌の美しい旋律は、来場者の心をふるわせ、日本の歌の魅力をあらためて認識できた。

成果と課題

- ①当日は子どもからお年寄りまで幅広い年代の聴衆260名が来場した。昭和を知らない子どもたちに当時の様子を教える祖父母の姿も見受けられ、世代間交流の場も創出できた。
- ②映像と音楽を組み合わせることにより、昭和20年代から30年代という時代の雰囲気複合的に紹介できた。
- ③ソフトボイスコンサートで、一時音響設備に不具合が生じた。本来コンサートなどを開催するための設計をされていないエントランスホールにおいて、音楽系イベントを開催することの問題点が改めて認識された。



「クリスマスコンサート」

(イ) 館長サタデープロジェクト

平成20年度から、ミュージアムイベントの新企画として、館長サタデープロジェクトを

実施した。20年度は、「自然との共生ー博物館に求められるものー」と題して、実際に自然科学系の博物館で研究や運営に携わっている人々、地域の自然を調査している人々などを博物館に迎え、館長との対談を通して、自然と共生する方法、そのために求められる博物館の役割などについて議論を深めた。

1. 旭山動物園の奇跡を探る

日 時 平成20年 5月31日(土) 午後1時30分
～3時30分

会 場 エントランスホール

参加者数 220人

出 演 旭山動物園園長 小菅正夫氏、絵本作家(元旭山動物園飼育係)あべ弘士氏

内 容

今や日本を代表する動物園として多くの人に知られている旭山動物園だが、かつて入園者数と予算の減少に苦しんだ。長い「冬の時代」を共に切り抜け、現在は園長、絵本作家として活躍する小菅・あべ両氏に、理想の動物園像を追い求めた経験を話してもらい、当館館長との対談を通して、魅力ある博物館のあり方について議論した。



「旭山動物園の奇跡を探る」

2. 植物の宝庫ふくしま

日 時 平成20年 6月21日(土) 午後1時30分
～3時

会 場 講堂

参加者数 65人

出 演 福島大学名誉教授 榎村利道氏

内 容

植物の専門家で、長年に渡って福島県の植生を研究し、尾瀬や赤井谷地などの自然保護の活動も行っている榎村利道氏を招き、福島県の自然の豊かさ、それを保護し活用するにはどうすればよいかを話してもらっ



「植物の宝庫ふくしま」

た。講演の構成は次の通り。福島県の植生の特徴、本当の自然が残る奥会津、観光客による自然破壊、自然を学ぶ新しい観光の提案、資料の収集・調査と普及のための中心機関の整備、自然を活用した地域振興。

3. シーラカンスは語る

主 催 福島県立博物館・ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま)

日 時 平成21年 1月17日(土) 午後1時30分
～3時

会 場 講堂

参加者数 88人

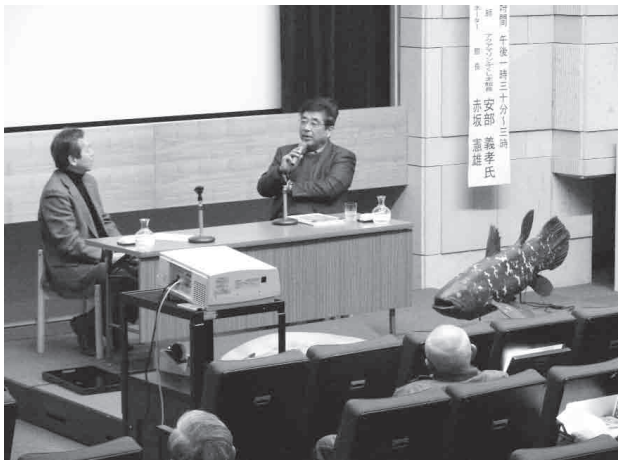
出 演 アクアマリンふくしま 館長 安部義孝氏、白河市立関辺小学校5年 鈴木夢人君

内 容

アクアマリンふくしまの調査隊が、生きている化石として知られるシーラカンスの撮影に成功し、その知られざる生態が明らかにされようとしている。調査を指導したアクアマリンふくしまの安部館長に、調査の様子やシーラカンスの遊泳映像、調査を通して得られた成果、博物館活動への波及効果などについて話してもらった。安部氏



「シーラカンスは語る」鈴木夢人君の発表



「シーラカンスは語る」安部義孝氏と赤坂館長の対談

の話に先立って、白河市立関辺小学校5年の鈴木夢人君が、自ら作ったシーラカンスの解剖模型など、シーラカンスについての研究成果を発表し、エントランスホールにその展示コーナーを設けた。当日はアクアマリンふくしまの移動水族館“アクアラバン”も来て、南方系の色鮮やかな魚を実際に見たり触れたりすることができた。

4. 只見 ブナの森を愛す

日時 平成21年2月21日(土) 午後1時30分～3時

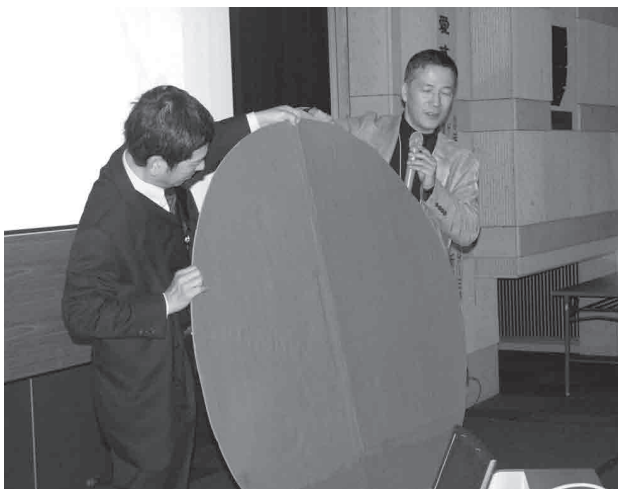
会場 講堂

参加者数 104人

出演 只見の自然に学ぶ会代表 新国 勇氏

内容

世界遺産に登録された白神産地のブナ林より規模が大きい只見のブナ林。只見の自然に学ぶ会代表として、地元でその保護活動を行っている新国勇氏に、南会津のブナ林の特徴、魅力、重要性について話してもらった。地域おこしのためには、まず地元



「只見ブナの森を愛す」

の人々が地域の素晴らしさを知ることが大切ということが強調された。

5. 磐梯山をジオパークにしよう！

主催 「磐梯山をジオパークにする」実行委員会・福島県立博物館

日時 平成21年3月21日(土) 午後1時30分～4時

会場 講堂

参加者数 104人

構成

第1部 基調講演「ジオパーク先進地 有珠山での取り組み」

出演 北海道大学名誉教授 宇井忠英氏

第2部 基調報告「これが磐梯山の良さ」

「磐梯山の誕生と生い立ち」 福島県立博物館 専門学芸員 竹谷陽二郎

「1888年の噴火による被害とめぐみ」

磐梯山噴火記念館 副館長 佐藤 公氏

「国立公園にかける夢と情熱」 野口英世記念館 学芸課長 小桧山六郎氏

第3部 パネルディスカッション「磐梯山をジオパークにしよう」

コーディネーター 福島県立博物館

館長 赤坂憲雄

パネラー 宇井忠英氏・小桧山六郎氏・佐藤 公氏・竹谷陽二郎

館長 赤坂憲雄

パネラー 宇井忠英氏・小桧山六郎氏・佐藤 公氏・竹谷陽二郎

氏・佐藤 公氏・竹谷陽二郎



「磐梯山をジオパークにしよう！」
パネルディスカッション

内容

ジオパークとは、地域の地形・地質（ジオ）を見所にする自然の中の公園。ジオに親しみ、ジオを学ぶ旅（ジオツーリズム）を楽しむ場所を指す。2004年には世界ジオパークネットワークがユネスコの支援により設立され、2008年6月現在で世界の57地域がネットワークに加盟している。現在、

磐梯山をジオパークにする動きが持ち上がっている。ジオパークに認定されることで、磐梯山の自然や歴史、文化など様々な魅力を地域ぐるみで再発見し、楽しんで学ぶことができる公園を作ることができる。また、観光資源として活用することで、地域の活性化にもつながる。磐梯山をジオパークにするためには地元の住民、市町村、博物館などの連携が必要である。このシンポジウムは、地域のみならず「磐梯山をジオパークにする」ことを考える第一歩とするという意図で開催された。

(3) 体験学習室

エントランスホールの脇に配置された無料空間。昔のおもちゃで遊んだり、昔の着物を着たりできる体験コーナー。また、資料を实际に手にとって触ったりできるハンズオンコーナーもある。ここには、展示解説員が常駐し来館者に応対している。



体験学習室

(ア) 衣装

1. 衣装着付け

①衣装着付け件数 1,331件



衣装着付け

②着付け衣装 春：当世具足・番具足・打掛・半袴 夏：水干・直垂・白拍子・山伏 秋：町人旅姿・武士旅姿・へん綴・壺 冬：古墳男子・推古朝・小袖・天武朝女子 着付けた衣装などの写真を撮影、体験学習室内に掲示。希望者に配布した。

2. 衣装展示

春：大鎧 夏：十二単

秋：大工 冬：小直衣

(イ) 手作り資料展示

季節行事に関する手作り資料の展示（展示解説員が製作）

7月 七夕飾り 12月 クリスマスツリー

1月 団子さし 3月 手作りひな人形

(ウ) ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取ったり使用方法を体験できるコーナー

1. 4月～10月 化石は過去からの手紙、そして未来へのメッセージ（自然分野）

2. 10月～3月 雪国のはきもの・かぶりもの（民俗分野）



「化石は過去からの手紙」展示風景



「雪国のはきもの・かぶりもの」展示風景

「化石は過去からの手紙、そして未来へのメッセージ」展示資料一覧

No.	資 料 名	地 質 時 代	説 明
1	バイソンの脊椎骨	第四紀更新世	バイソンの脊椎骨
2	バイソンの脊椎骨	第四紀更新世	バイソンの脊椎骨
3	バイソンの脊椎骨	第四紀更新世	バイソンの脊椎骨
4	バイソンの骨	第四紀更新世	バイソンのかかとの骨
5	バイソンの骨	第四紀更新世	バイソンのかかとの骨
6	バイソンの骨	第四紀更新世	バイソンのかかとの骨
7	恐竜の卵の殻	不明	
8	スピノサウルス類の歯	白亜紀後期	爬虫類の一種
9	スピノサウルス類の歯	白亜紀後期	爬虫類の一種
10	モササウルス類の歯	白亜紀後期	海生ハチュウ類
11	リコプテラ	ジュラ紀	硬骨魚類
12	カルカロクレス・メガロドン	新第三紀中新世	サメの歯
13	ラムナ オブリクリア	新第三紀中新世	サメの歯
14	サメの歯	新第三紀中新世	サメの歯 (三点セット)
15	サメの歯	新第三紀中新世	サメの歯
16	珪化木 (カシの一種)	不明	珪化木 (カシの一種)
17	リトウイテス	デボン紀	オウムガイ類
18	ホブロスカフィテス	白亜紀前期	アンモナイト (ノジュール)
19	ホブロスカフィテス	白亜紀前期	アンモナイト (ノジュール)
20	アンモナイト	ジュラ紀	石灰岩中
21	ダクティリオセラス	ジュラ紀	アンモナイト
22	リパロセラス	白亜紀	アンモナイト
23	リパロセラス	白亜紀	アンモナイト
24	オルソスフィンクテス	ジュラ紀後期	アンモナイト
25	オルソスフィンクテス	ジュラ紀後期	アンモナイト
26	オルソスフィンクテス	ジュラ紀後期	アンモナイト
27	クレオニセラス	白亜紀	アンモナイト
28	クレオニセラス	白亜紀	アンモナイト
29	プロライエリセラス	白亜紀	アンモナイト
30	ホライテス ベネティアヌス	白亜紀前期	アンモナイト
31	ホライテス ベネティアヌス	白亜紀前期	アンモナイト
32	エコネセラス トラウスコルディ	白亜紀前期	アンモナイト
33	ユウアスピドセラス ドウビレイ	白亜紀	アンモナイト
34	ダクティリオセラス	ジュラ紀	アンモナイト
35	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
36	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
37	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
38	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
39	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
40	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
41	ウォックルメリア	デボン紀	ゴニアタイト型アンモナイト
42	ベレムナイト	ジュラ紀	ベレムナイト類
43	グリフェア アルキュアタ	白亜紀前期	二枚貝類
44	グリフェア アルキュアタ	白亜紀前期	二枚貝類
45	ローファ マーシー	ジュラ紀	カキガイ類の一種 (二枚貝)
46	方解石に置換した巻貝化石	第四紀更新世	巻貝
47	アトリパ		腕足類
48	リンコネラ	ジュラ紀	腕足類
49	テブレラチュラ アンブラ	新第三紀鮮新世	腕足類
50	ストリングセファルス	デボン紀	腕足類
51	ストリングセファルス	デボン紀	腕足類
52	ストリングセファルス	デボン紀	腕足類
53	ストリングセファルス	デボン紀	腕足類
54	ストリングセファルス	デボン紀	腕足類

No.	資 料 名	地 質 時 代	説 明
55	アサファス ラニセプス	オルドビス紀	三葉虫
56	ファコプス	デボン紀	三葉虫
57	ネオメタカンサス	デボン紀	三葉虫
58	ダクティナ ベトナミカ	デボン紀	三葉虫
59	ダクティナ ベトナミカ	デボン紀	三葉虫
60	ダクティナ ベトナミカ	デボン紀	三葉虫
61	ダクティナ ベトナミカ	デボン紀	三葉虫
62	ダクティナ ベトナミカ	デボン紀	三葉虫
63	ウバトリガイ	新第三紀中新世	二枚貝
64	オオヘビガイ	新第三紀鮮新世	
65	ホタテガイ	新第三紀鮮新世	二枚貝
66	キリタニツメタガイ	新第三紀中新世	巻貝
67	エゾタマキガイ	新第三紀鮮新世	二枚貝
68	ナガウバガイ	新第三紀鮮新世	二枚貝
69	オキシジミ	第四紀更新世	二枚貝
70	貝類化石密集砂岩	新第三紀鮮新世	砂岩
71	ハタイサルボウ	新第三紀中新世	二枚貝
72	恐竜の糞化石	ジュラ紀	草食恐竜?
73	パキテウス属の一種	ジュラ紀	ベレムナイト類
74	クリベアスター属の一種	新第三紀中新世	ウニ
75	エキノコリス属の一種	白亜紀後期	ウニ
76	ユウバタングス アンティラルム	古第三紀漸新世	ウニ
77	オルソスピリファー オウエニー	デボン紀中期	腕足類
78	ペリスフィンクテス属の一種	ジュラ紀	アンモナイト
79	ミクラスター属の一種	白亜紀後期	ウニ
80	アルゴベクテン エバーグラデンシス	新第三紀中新世	二枚貝
81	レピドデンドロン	不明	
82	プリオノセラス	デボン紀	アンモナイト
83	カイノプス	デボン紀	三葉虫
84	カシパンウニのなかま	新第三紀鮮新世	楕形目 カシパンウニ科
85	ナイティア	古第三紀始新世	硬骨魚類
86	ブナ	第四紀更新世	木の葉化石園
87	イヌブナ	第四紀更新世	木の葉化石園
88	サクラのなかま	第四紀更新世	木の葉化石園
89	クマシデのなかま	第四紀更新世	木の葉化石園
90	縞状鉄鉱	原生代	
91	クラドフレピス ラシボルスキー	三疊紀後期	シダ目・エダワカレシダ科
92	ダクティリオセラス コムネ	ジュラ紀前期	ノジュールに含まれた状態
93	モササウルスの歯	白亜紀後期	爬虫類綱・有鱗目・モササウルス科
94	パラフズリナ ヤベイ	二疊紀中期	有孔虫門・有孔虫目
95	ダクティリオセラス セミセラータム	ジュラ紀前期	アンモナイト
96	キマトセラス	白亜紀前期	オウムガイ 切断研磨標本 体内の隔壁が観察できる
97	ファコプス	デボン紀中期	三葉虫
98	ネオメタカンサス	デボン紀中期	三葉虫
99	トリティシーテス	石炭紀後期	フズリナ (紡錘虫)
100	クジラの耳骨	中新世後期	鼓室骨
101	クレオニセラス	白亜紀後期	アンモナイト目・ホプリテス科 研磨したもの
102	ゲイソノセラス	デボン紀	直角貝 (オウムガイ)
103	ムクロスピリファー	デボン紀中期	腕足類
104	キルトスピリファー	デボン紀中期	腕足類
105	ストロマトライト	後期原生代	シアノバクテリアによる石灰岩の縞状構造体
106	アンモナイト	白亜紀	
107	ナイティア エオカエナ	古第三紀始新世	硬骨魚類 ニシン目
108	バイソンの角	第四紀更新世	

※会期半ばで資料の入れ替えを行った。

「雪国のはきもの・かぶりもの」展示資料一覧

No.	資料名
1	蓑
2	マルカンジキ
3	ツルカンジキ
4	ツメカンジキ
5	ゲンペイ
6	フカグツゲンペイ
7	ユキダワラ
8	アシナカ

(4) 学校・文化施設との連携

学校および文化施設との連携をはかり、次の事業を実施している。

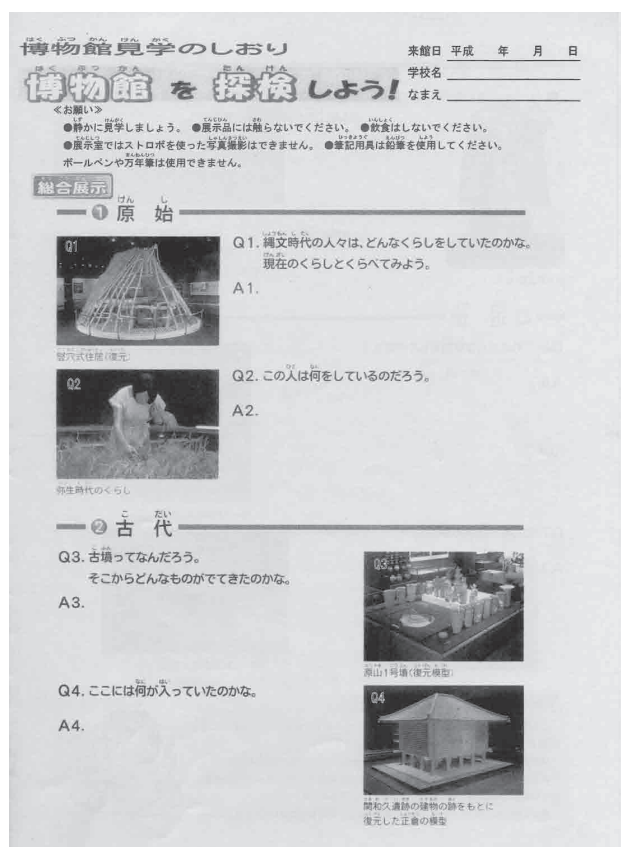
(ア) 展示室での自主学習

1. 博物館見学のしおり (小・中学生用)

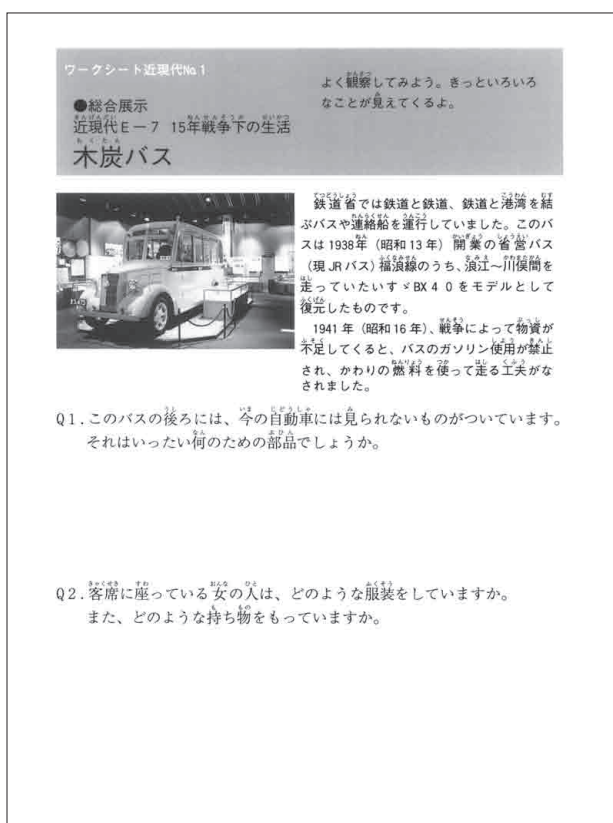
自由記述形式のワークシート。常設展示を見学して書き込みながら学べるように構成されている。展示資料をよく観察することによって様々な考え方・まとめ方ができる内容になっている。小・中学生の個人および団体来館者に無償配布している。

2. ワークシート

ホームページからダウンロードでき、利用する団体が学習目的にあわせて使用できる。常設展示室のテーマ別に主な展示品を題材にしている。



博物館見学のしおり



ワークシート「木炭バス」

(イ) 団体体験学習プログラム

来館した児童生徒が博物館資料を用いた直接体験をすることは、多様なものの見方、考え方を養う上で有効であることから、団体の要望に応じて体験学習を実施している。「古代の技に挑戦 (考古)」「化石にふれてみよう (自然)」「糸紡ぎ (民俗)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史)」の体験メニューを用意し、入館団体が選択して利用しやすいようにしている。

体験学習プログラム実施状況 (分野・回数)

4月 (考古・1回) 5月 (考古・4回)
6月 (考古・5回、民俗・1回、自然・1回)
7月 (考古・2回) 8月 (考古・1回 自



勾玉づくり (寺社小)

然・1回) 9月(考古・2回 歴史・1回)
10月(民俗・2回 自然・1回 美術・2回)
11月(考古・1回 民俗・2回) 12月(考
古・1回) 2月(民俗・1回) 合計 29回

(ウ) 指導者向け研修(博物館研修講座)

学校教育・生涯教育関係者を対象に、博物館の利用方法の周知と体験学習プログラムの利用促進を目的に研修講座を実施した。博物館が行っている体験メニューや団体入館時の体験学習の事例を紹介した。

平成20年8月1日(金) 参加者19名(小・中学校教員13名 生涯教育関係者6名)



博物館研修講座

(エ) 体験用具の貸出

学校や生涯教育関連施設が行う体験的活動を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で体験用具・教材の貸出を行っている。用具貸出状況

7月26日 火おこし道具一式 猪苗代町立
翁島小学校

11月8日 火おこし道具一式 会津若松市
南公民館

(オ) ゲスト・ティーチャー

博物館学芸員の専門知識や経験を館外でも有効に利用してもらうため、学校や公民館等の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を実施した。



ゲスト・ティーチャー「化石をさがそう」(栗野小)

ゲスト・ティーチャー実施一覧

月 日	講 師	内 容	実 施 先
6月17日	佐々木長生	会津の歴史・民俗・自然	会津若松市立第一中学校
6月19日	佐藤洋一	会津の歴史	会津若松市立第一中学校
6月19日	若林 繁	会津の仏像	会津若松市立第一中学校
6月19日	相田 優	会津の自然	会津若松市立第一中学校
6月25日	佐藤洋一	会津の歴史	会津若松市立第一中学校
6月25日	佐々木長生	会津の民俗	会津若松市立第一中学校
6月25日	相田 優	会津の自然	会津若松市立第一中学校
7月1日	小林めぐみ	会津の漆器	会津若松市立第一中学校
7月1日	相田 優	会津の自然	会津若松市立第一中学校
7月8日	藤原妃敏	大塚山古墳と会津の古代史	福島県立会津学鳳中学校
7月9日	田中 敏ほか	土器製作1	会津若松市立第二中学校
7月16日	田中 敏ほか	土器製作2	会津若松市立第二中学校
7月31日	佐々木長生	会津地方の農業	耶麻地区中学校教育研究会社会科部会
9月25日	田中 敏ほか	選択社会学習発表会	会津若松市立第二中学校
10月15日	竹谷陽二郎	化石をさがそう	伊達市立栗野小学校
10月15日	相田 優	会津の自然	会津慈光幼稚園
10月16日	川延安直	遠藤香村について	会津若松市中央公民館
10月16日	相田 優	会津の自然	慈光第二幼稚園
10月30日	川延安直	遠藤香村について	会津若松市中央公民館
11月11日	小澤義春	化石の話・大気圧の実験	会津若松市立謹教小学校
12月15日	川延安直・笹川英俊・小林めぐみ	美術品の鑑賞	喜多方市立山都中学校
1月29日	川延安直・笹川英俊・小林めぐみ	室町文化の特色	会津若松市立第六中学校
2月25日	高橋 充	戦国時代と直江兼続	柳津町公民館



職場体験 (若松四中)

(カ) 職場体験

生徒の適切な進路選択に寄与すべく、学校からの要請を受け入れ、実際に博物館業務を体験させた。

- ①会津若松市立第四中学校 (5名) 2日間
- ②福島県立学鳳中学校 (5名) 1日間
- ③会津若松市立北会津中学校 (1名) 2日間
- ④喜多方市立塩川中学校 (3名) 2日間
- ⑤会津若松市立第六中学校 (3名) 1日間
- ⑥福島県立若松商業高等学校 (5名) 2日間

(キ) 博物館実習

大学における学芸員資格取得のための「博物館実習」を実施。県内の大学に在籍する大学生、および県外の大学に在籍する県内出身の大学生を受け入れている。

博物館実習プログラム

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 26日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (小澤)	第2会議室
	9:00～9:10	実習生紹介	学習支援班 (小澤)	事務室
	9:10～9:40	オリエンテーション	学習支援班 (小澤)・(大竹)	第2会議室
	9:50～10:50	博物館の概要	学芸課長	第2会議室
	11:00～12:00	博物館の設備(館内外施設見学) -昼食-	学習支援班 (小澤)・(大竹)	館内外
	13:00～15:30 15:40～17:00 17:10～18:00	常設展・企画展観覧(自由観覧) 展示を閲覧して(感想・質問) 実習日誌の作成・提出	学習支援班 (小澤)・(大竹) 学習支援班 (全員)・学芸課長 学習支援班 (小澤)・(大竹)	展示室 第2会議室 第2会議室
27日 (水)	9:05～ 9:10～10:00	出席確認・諸連絡 博物館の資料と調査研究	学習支援班 (小澤) 資料保存班 (相田)	第2会議室 第2会議室
	10:10～11:00 11:10～12:00	資料保存の科学 美術資料について	保存科学分野 (松田) 美術分野 (小林)	第2会議室 第2会議室
	-昼食- 13:00～17:00 17:10～18:00	美術資料の取り扱い 実習日誌の作成・提出	美術分野 (小林、笹川) 学習支援班 (小澤)・(大竹)	第2会議室 第2会議室
28日 (木)	9:05～ 9:10～10:00	出席確認・諸連絡 博物館の企画・運営	学習支援班 (小澤) 企画運営班 (竹谷)	第2会議室 第2会議室
	10:10～11:00 11:10～12:00	博物館の広報普及活動 自然資料について	広報班 (佐藤) 自然分野 (竹谷)	第2会議室 第2会議室
	-昼食- 13:00～17:00 17:10～18:00	自然資料の取り扱い 実習日誌の作成・提出	自然分野 (竹谷、相田、小澤) 学習支援班 (小澤)・(大竹)	第2収蔵庫 第2会議室
29日 (金)	9:05～ 9:10～10:00	出席確認・諸連絡 博物館の学習支援活動	学習支援班 (小澤) 学習支援班 (佐々木)	第2会議室 第2会議室
	10:10～11:00 11:10～12:00	図書資料の整理・登録・管理 民俗資料について	資料保存班 (相田、長澤) 民俗分野 (佐々木)	図書室 第2会議室
	-昼食- 13:00～17:00 17:10～18:00	民俗資料の取り扱い 実習日誌の作成提出	民俗分野 (榎、鈴木、佐々木) 学習支援班 (小澤)・(大竹)	第1収蔵庫他 第2会議室
30日 (土)	9:05～ 9:10～10:00	出席確認・諸連絡 博物館の展示	学習支援班 (小澤) 展示班 (榎)	第2会議室 第2会議室
	10:10～11:00 11:10～12:00	展示解説について 歴史資料について	展示解説員 (芳賀) 歴史分野 (高橋)	総合展示室 第2会議室
	-昼食- 13:00～17:00 17:10～18:00	歴史資料の取り扱い 実習日誌の作成提出	歴史分野 (高橋、竹内) 学習支援班 (小澤)・(大竹)	第2会議室 第2会議室
31日 (日)	9:05～ 9:10～10:00	出席確認・諸連絡 考古資料について	学習支援班 (小澤) 考古分野 (田中)	第2会議室 第2会議室
	10:10～12:00	考古資料の取り扱い	考古分野 (田中、大竹、藤原)	考古作業室・第2収蔵庫
	-昼食-			
	13:00～15:00 15:10～17:00	考古資料の取り扱い 実習を終えて(質疑・意見交換)	考古分野 (田中、大竹、藤原) 学習支援班 (佐々木、小澤)・ 学芸課長・(大竹)	実習室他 第2会議室
	17:10～18:00	実習のまとめ・反省作成、実習日誌等の作成・確認・提出	学習支援班 (小澤)・(大竹)	第2会議室

人数 14人

実習期間 8月26日(火)～8月31日(日)

実習生所属大学一覧

No	大 学 名	人 数
1	群馬県立女子大学	1
2	皇學館大学	1
3	郡山女子大学短期大学部	1
4	大正大学	1
5	東京女子大学	2
6	東北学院大学	2
7	新潟大学	4
8	日本女子大学	1
9	立正大学	1
	合 計	14



博物館実習「土器の梱包」

(5) 生涯学習・研究支援

(ア) 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊

行物の他、博物館資料に関連した一般図書や図鑑・辞書など2,277冊を配架。入館者が自由に閲覧できる。平成20年度は192冊増加した。また、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場でもある。



相談コーナー

(イ) 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：10件 歴史：21件 美術：1件 自然：1件 民俗2件 合計：35件

(ウ) 講師派遣

公民館や研究団体など他団体から依頼された講座・講演に対して、下のとおり学芸員を講師として派遣した。

講師派遣状況

月 日	講 師	演 題	主 催
4月15日	佐藤洋一	明治初年の会津一神々の明治維新一	会津わくわく学園第15期生会
5月9日	佐々木長生	奥会津の自然・暮らし・歴史	川口高校
6月28日	佐藤洋一	職業人講話（進路講話）	会津高校
9月22日	高橋 充	企画展「宝の山2008」展示解説 鶴ヶ城案内	猪苗代町公民館
10月7日	竹谷陽二郎	漣痕化石の解説	西会津町公民館
10月16日	高橋 充	猪苗代城の歴史	猪苗代町公民館
10月17日	竹谷陽二郎	飯豊の自然（地質）	飯豊の山の案内人養成塾
11月5日	高橋 充	猪苗代城跡見学	猪苗代町公民館
11月12日	佐藤洋一	地域文化論（石井研堂について）	郡山女子大学短期大学部
11月18日	横須賀倫達	会津の古墳を訪ねて	福島県教育委員会 福島県ユネスコ連絡協議会
11月20日	横須賀倫達	考古学から見た古代の白河	白河中央公民館
11月27日	高橋 充	中世の城から近世の城へ	猪苗代町公民館

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

(ア) 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

広報用印刷物の印刷部数と送付先

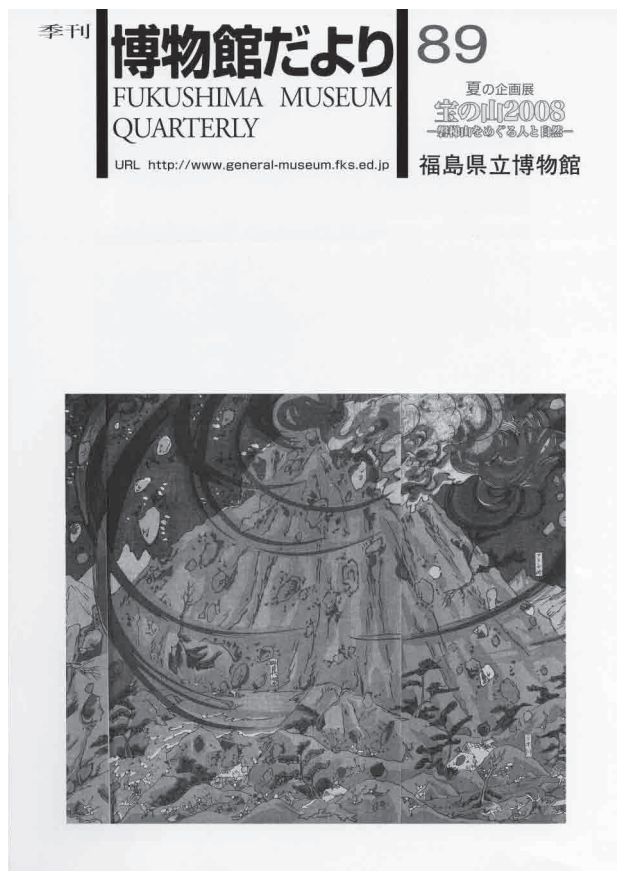
種 類	サイズ	印 刷 数	主 な 送 付 先
ポスター	B 2	企画展 3,000枚×2回 移動展 600枚 まほろん移動展 600枚 計 72,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展 35,000枚×2回 計 70,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A 4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.3cm 四つ折	4,5000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
はくぶつかんニュース	A 4 両面 (館内印刷)	16,000枚×12回=192,000枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・中学校 県内図書館・公民館・教育施設 県内市町村教育委員会 県教育事務所
月行事予定表	A 4 (館内印刷)	1,200枚×12回=14,400枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
投げ込み（企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供）	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

(イ) 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会ほか	看板(駅前・博物館周り)	新 聞
夏の企画展「宝の山2008」	○	福島民報社・福島民友新聞社
秋の企画展「遠藤香村」	○	福島民報社・福島民友新聞社
「野山の宝 化石・鉱物展」	○	福島民報社・福島民友新聞社



博物館だより第89号

(ウ) 取材・報道・記事

展示会に関するものを中心に掲載した。

1. まほろん移動展

①テレビ・ラジオ

4月10日 NHKテレビ(4月9日取材)

2. 夏の企画展「宝の山2008」

①報道向け説明会

7月18日 福島民報社、福島民友新聞社、
読売新聞社、河北新報社

②テレビ・ラジオ

7月28日～31日 FMふくしま

8月12日 テレビユー福島 ニュース(8月12日取材)

8月26日 ラジオ福島「トヨタ街角ステーション」

8月31日 FMふくしま公開録音「一枚の写真から」公開ライブ

9月7日 福島中央テレビ「おしえてうつくしま」(8月27日取材)

9月11日 NHK「情報テラス」(8月30日取材)

②新聞

7月8日 朝日新聞「県立博物館など3館でも企画展」

7月13日 福島民友「火山・磐梯山を再認識」

7月19日 福島民報「きょう開幕」(7月18日取材)

7月20日 福島民友「企画展開幕」(7月18日取材)

7月20日 福島民報「開幕に合わせて防災シンポ」(7月19日取材)

7月21日 福島民友「企画展セレモニー」

7月21日 福島民報「開幕祝い合唱」(7月19日取材)

③雑誌・情報誌

「うつくしまゆめだより」(県民だより) 6月1日号

週間ボイス 6月7日、6月14日、6月28日、7月12日、7月26日、8月9日

「会津嶺」7月号「第16回けんぱくへ行こう!」

サンデーあいづ(7月13日号) 県立博物館夏の企画展

サンデーあいづ(7月20日号) 共同企画展会津磐梯山

ニュートンインフォメーション(8月10日号)「宝の山2008—磐梯山をめぐる人と自然—」

湖未来通信No.12(10月号)「磐梯山の噴火と自然」

3. 秋の企画展「遠藤香村」

①報道向け説明会

10月10日 福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社

②テレビ・ラジオ

福島放送(10月15日取材)

NHK(10月22日取材)

③新聞

10月12日 福島民報「会津に生きた画人遠藤香村展 県立博物館 上」

10月19日 福島民報「会津に生きた画人遠藤香村展 県立博物館 下」

10月30日 福島民報「「縁起物作ろう」2日に美術講座」

11月14日 福島民友「画人・香村の魅力再発見 16日に県立博物館でイベント」

11月14日 福島民報「16日、和合さんらが香村の世界を表現 若松・遠藤展関連企画」

4. 野山の宝 化石・鉱物展

①報道向け説明会

2月6日 福島民報社、福島民友新聞社、読売新聞社、河北新報社

②テレビ・ラジオ

2月16日 ジャパンFMネットワーク全国18局ネット「Wonderful Go! Go!」(2月8

日取材)

2月22日 福島中央テレビ「おしえて! うつくしま“化石を発見!”(2月8日取材)

2月24日 FMふくしま「ふくしまイブニングブレイク」(2月18日取材)

3月9日 NHK福島放送局 NHKニュース福島版 朝のニュース(2月25日取材)

③新聞

2月5日 福島民友「野山の宝 化石・鉱物展上 アゲマキガイ」(2月3日取材)

2月6日 福島民友「野山の宝 化石・鉱物展中 ハート形の水晶」(2月3日取材)

2月7日 福島民友「野山の宝 化石・鉱物展下 メタセコイア」(2月3日取材)

2月7日 福島民報「県立博物館の「化石鉱物探検隊」きょうから10周年成果展」(2月6日取材)

2月8日 河北新報「化石や鉱物厳選の630点紹介」(2月6日取材)

2月8日 福島民友「化石や鉱物1000点採集の成果発表」(2月6日取材)

2月10日 福島民友「地元の地層や結晶解説」(2月8日取材)

③雑誌・情報誌・広報紙

シティー情報ふくしま2月号「野山の宝 化石・鉱物展」

週間ボイス Vol. 632「野山の宝 化石・鉱物展」

うつくしまゆめだより2月号No.220「野山の宝 化石・鉱物展」

ナショナル・ジオグラフィック2月号「野山の宝 化石・鉱物展」

うつくしま教育通信Vol. 56、Vol. 57、Vol. 58(メールマガジン)「県立博物館友の会・県立博物館共催展「野山の宝 化石・鉱物展」

5. 歴史美術テーマ展示

①「チャイニーズヒーローー描かれた中国の英雄たちー」

6月6日 ラジオ福島(6月5日取材)

②「アイヌの民具とくらし展」

2月20日 福島放送(2月20日取材)

6. 常設展示

①会津の馬について

4月27日 宮城テレビ(4月15日取材)

②ナイトミュージアム

7月30日 福島テレビ(7月29日取材)

③福島の戦国時代

3月8日 福島中央テレビ(2月25日取材)

(エ) ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介およびイベントなどの各種情報を発信している。

(オ) ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、企画展、テーマ展示、講座、講演会などの催し物の情報などを、マスコミ向けに発信している。

平成20年度: Vol. 45~ Vol. 71

(2) 公聴活動

館の運営に反映させるため、次の行事について利用者に対するアンケート調査を実施した。

①常設展

②企画展 「宝の山2008ー磐梯山をめぐる人と自然ー」「遠藤香村」

③その他の展示「まほろん移動展 考古学から探る古代会津」「野山の宝 化石・鉱物展」

④ミュージアムイベント・講座など

⑤やさしい展示解説

(3) 出版事業

平成20年度は次の出版物を刊行した。

(ア) 企画展図録

①福島県立博物館平成20年度第1回企画展図録「会津磐梯山」1,500冊

②福島県立博物館平成20年度第2回企画展図録「遠藤香村」1,500冊

(イ) 紀要

福島県立博物館紀要 第23号 600冊

(ウ) 年報

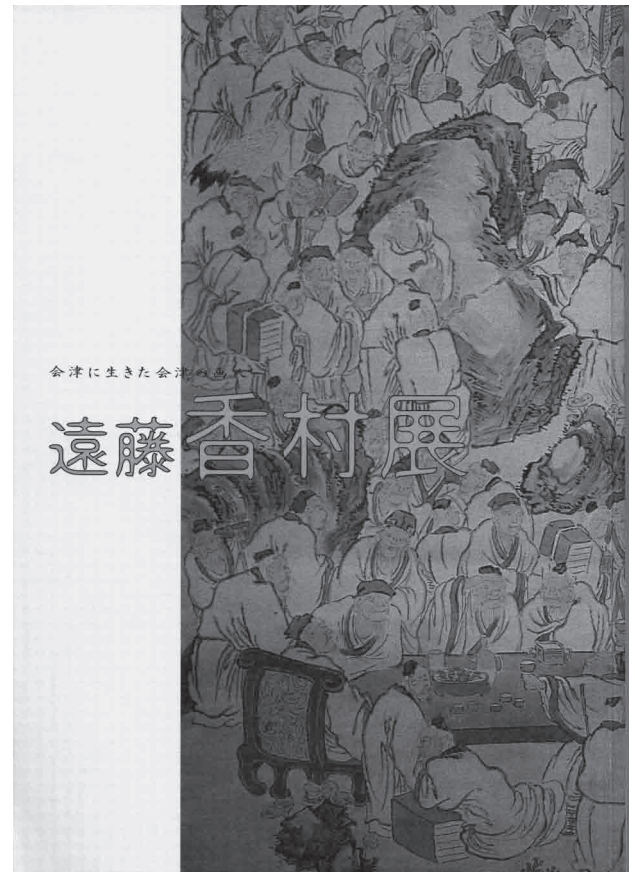
福島県立博物館年報 第22号 600冊

ホームページアクセス件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20年度	リクエスト数	11,5958	99,680	108,816	114,661	121,310	112,888	106,224	86,586	75,074	78,529	89,557	87,984	1,197,267
	ページ数	29,200	25,835	29,816	32,503	31,015	28,417	28,260	24,548	23,926	23,071	25,431	25,836	327,858



「会津磐梯山」展示図録



「遠藤香村」展示図録

7. 博物館友の会活動への支援

(1) 友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等研究活動の支援などを行っている。

(2) 友の会の活動状況

(ア) 友の会の概要

1. 発足 平成元年3月10日
2. 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

3. 総会の開催 平成21年3月21日
4. 平成20年度会員数
個人会員：294人 家族会員：168家族
高校生会員：9人
賛助会員：6（個人2・法人4）

(イ) 平成20年度事業概要

1. 行事の開催

「福島県立博物館友の会 創立20周年記念式典・記念講演会」

今年で福島県立博物館友の会は創立20周年を迎えた。この間、博物館運営への協力や講演会・会員のための研修旅行等、各種事業を通して博物館活動の普及発展・地域文化の振興に取り組んできた。そこで、会の発展にご尽力を頂いてきた方々を招待し、20年の活動の歩みを振り返る機会とすることを目的に記念式典・記念講演会が開催された。記念式典では、歴代の友の会会長をはじめとする7名の方々に感謝状が贈呈された。記念講演会では、直木賞作家、高橋克彦氏を講師に招き、赤坂憲雄館長を聞き手に「北の炎（ほむら）」と題して講演を頂いた。記念講演会終了後は、高橋克彦氏を囲んでの親睦会が開催され、和やかな雰囲気のもと、参加者は親睦を深めることができた。

- ①日 時 11月15日(土) 午後1時30分～午後5時

- ②会 場 福島県立博物館講堂・実習室
- ③入場者数 約200人
- ④内 容 記念式典
記念講演会
演 題 「北の炎 (ほむら)」
講 師 高橋克彦氏
聞き手 赤坂憲雄館長
記念祝賀会



創立20周年記念式典・記念講演会

2. 研修旅行の実施

- ①春の研修旅行 ～東京・埼玉 首都圏文化施設めぐり～
研修先 埼玉県立さきたま史跡の博物館、東京国立博物館、鳩山会館 (旧鳩山邸)、喜多院、川越散策 など
期 日 平成20年 5月13・14日
参加者 42人
- ②秋の研修旅行 会津の美術館めぐり
研修先 諸橋近代美術館 喜多方市美術館 斎藤清美術館
期 日 平成20年10月13日
参加者 35人



友の会研修旅行 「会津の美術館めぐり」

3. 会報の発行

年 4 回、会報を発行し会員に配布した。

福島県立博物館

友の会会報

2008.6.28
第78号

友の会創立 20周年記念研修旅行
～東京・埼玉 1泊2日 首都圏文化施設めぐり～

東京国立博物館にて

5月13日(火)～14日(水)の日程で研修旅行が実施されました。今回の旅行は、今までの当会の歩みを振り返り、今後の活動をもう一度新たな視点で考えようという願いから、「原点に戻る」というキーワードのもと東京・埼玉の文化施設・史跡をめぐりました。初日から時折折雨が降り、肌寒い天候となりましたが、42名の参加者は解説ボランティアの方々の説明を

熱心に聞いたり、記録にとどめようと写真を撮影する姿が見られました。また宿(河口湖町)での夕食会では、研修内容やお互いの近況などについて話し合い、和やかな雰囲気のもとで親睦を深めることができました。

鳩山山古墳頂上にて

喜多院 ボランティアの方による解説

表紙の花・博物館に咲くヤマボウシ (鈴木華治さん撮影)

鳩山会館にて

会員更新のお願い

新しい会員証への更新がまだお済みでない方は、更新の手続きをお願いします。博物館受付カウンターにお出でいただくか、郵便振替をご利用下さい。(更新の締切は9月30日までです)

郵便振替口座番号 02110-3-15770
加入者 福島県立博物館友の会

- 1 -

友の会会報第78号

4. 博物館事業への協力

- ①博物館展示観覧
平成20年度友の会会員入館者数
常設展1,015件 企画展673件
- ②博物館講座への協力
博物館自然史講座「化石をさがそう」に、友の会サークルである「友の会化石・鉱物探検隊」が参加・協力した。
- ③福島県立博物館友の会ミュージアムショップの開設
10月18日に昨年度より準備を進めてきた友の会ミュージアムショップを開設した。期間を設定しての断続的な開設ではあるが、



ミュージアムショップ開設

ボランティアの方々のご協力により主体的な運営が行われた。

④新サークルの発足

今年度より、「道ばた文化財研究会」が結成された。学芸員が同行しての研修会を4回実施した。

5. 会議

①役員会 平成20年5月3日、7月26日（特別）、9月6日、平成21年2月28日

②総会 平成21年3月21日(土)

(ウ) サークル活動

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成20年度は、春から秋にかけて県内および新潟県の化石・鉱物産地を計7回訪れ地層観察と採集活動を行った。4月にクリノメーターの使用法とルートマップの書き方について研修会を実施し、野外調査の技能向上に努めた。さらに、10月4日の博物館自然史講座「化石をさがそう」に協力し、講座参加者に対する採集指導と安全確保を行った。

平成21年2月7日から4月5日まで、設立10周年記念行事「野山の宝 化石・鉱物展」を博物館と共催した。展示用標本1,367件を会員18名が用意し、その内629件を展示した。また、写真、蛍光鉱物観察装置、オブジェなど37件も併せて展示した。開催期間中3回の展示解説会を開き会員が解説を務めた。解説会の後に化石・鉱物を希望者全員に無料プレゼントした。なお、プレゼント用標本はすべて会員が採集したもので、957件を用意した。

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20～30名が参加し、活動を続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。平成20年度は月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であるため、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。



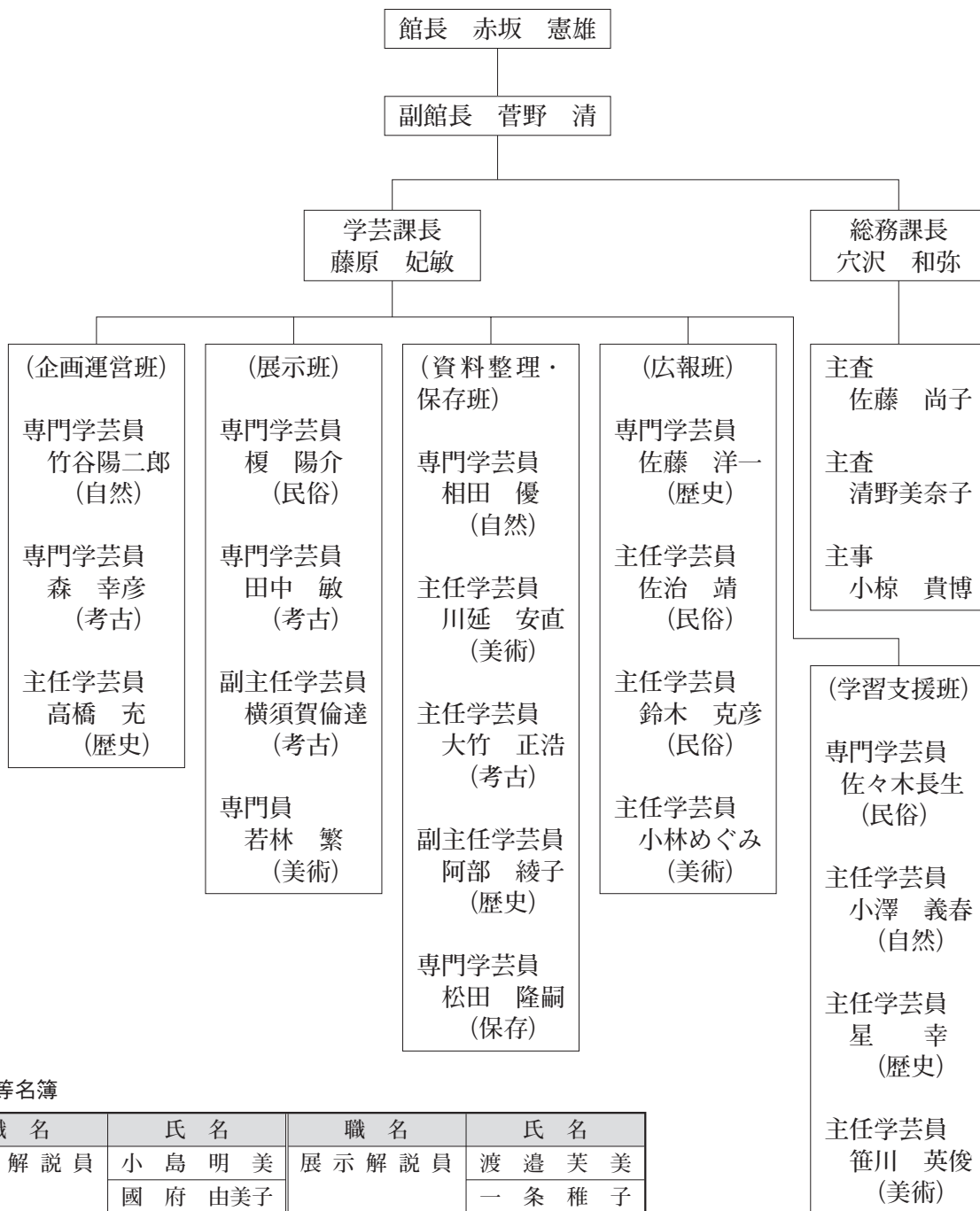
化石・鉱物探検隊 会津若松市大戸町黒森での採集会

III 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成20年4月1日現在)



嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	小島 明美	展示解説員	渡邊 芙美
	國府 由美子		一条 稚子
	大竹 さやか		伊関 めぐみ
	赤羽 愛		佐藤 彩美
	渡邊 麻衣子		大和田 実弘
	橋本 好恵		篠原 詩子
	菊地 百合子		増井 文夏
	五十嵐 早苗		竹内 咲
	大坪 千絵美		花積 竜一
	山田 久美子		斎藤 史子
角田 祥子	長峯 麻梨		
芳賀 真美	臨時事務補助員	渡部 美緒	

2. 予 算

平成20年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成20年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				7,133
	使 用 料			7,133
		行政財産使用料		447
			建 物 使 用 料	447
		教育使用料		6,686
			博 物 館 使 用 料	6,686
財 産 収 入				2,272
	財 産 売 払 収 入			2,272
		物 品 売 払 収 入		2,272
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	2,272
諸 収 入				684
	雑 入			684
		雑 入		684
			雑 入	684
	合	計		10,089

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
労 働 費				377
	雇 用 対 策 費			377
		緊急雇用対策費		377
			共 済 費	51
			賃 金	326
教 育 費				179,690
	教 育 総 務 費			3,927
		事 務 局 費		3,907
			報 酬	2,400
			職 員 手 当	440
			共 済 費	145
			賃 金	914
			報 償 費	8
		財 務 管 理 費		0
			交 際 費	0
			使用料及び賃借料	0
		教職員福利厚生費		20
			役 務 費	8
			負担金、補助及び交付金	12
	社 会 教 育 費			175,763
		博 物 館 費		175,763
			報 酬	37,945
			共 済 費	5,159
			報 償 費	1,138
			旅 費	4,270
			需 用 費	64,053
			需用費（食糧費）	63
			役 務 費	5,577
			委 託 料	51,106
			使用料及び賃借料	1,183
			工 事 請 負 費	3,953
			備 品 購 入 費	1,164
			負担金、補助及び交付金	80
			公 課 費	72
	合	計		180,067

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

(ア) 運営協議会委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。また、平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

(イ) 会議

第1回 平成20年7月18日(金)

議題

①平成20年度事業計画について

②その他

第2回 平成21年2月5日(木)

議題

①平成20年度事業の実施概要について

②平成21年度事業計画について

③福島県立博物館の使命及び中期目標について

④その他

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	川前 範子	郡山市立喜久田小学校長
	富岡 高春	石川町立石川中学校長
	赤塚 公生	県立大沼高等学校長
社会教育	会長 高城 俊春	(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構理事長
	薄 崇雄	喜多方市中央公民館長
学識経験者	副会長 伊藤 豊松	喜多方市文化財保護審議会 会長
	高瀬 かづ子	県文化財保護審議会委員
	五十嵐 まりい	会津若松市教育委員会委員
	佐藤 弘子	公募委員
	中野 豊	公募委員

IV 利用状況

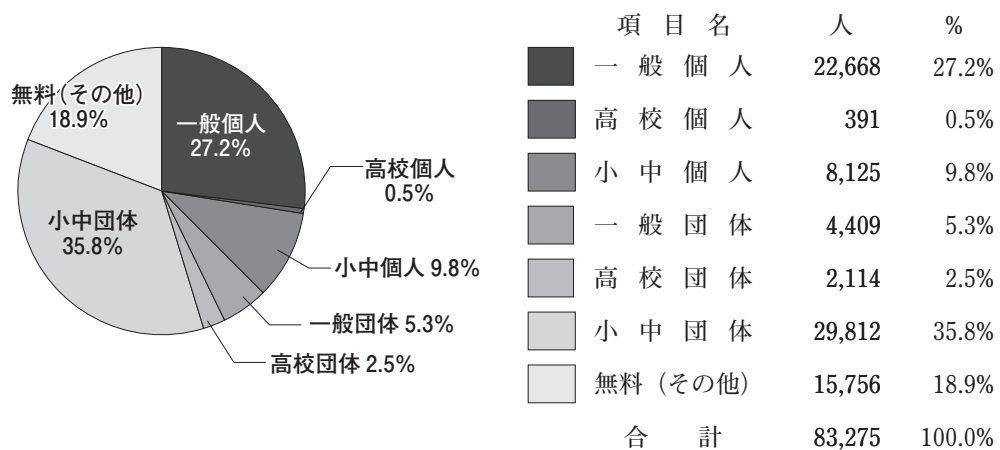
1. 入館者統計

(1) 平成20年度入館者統計

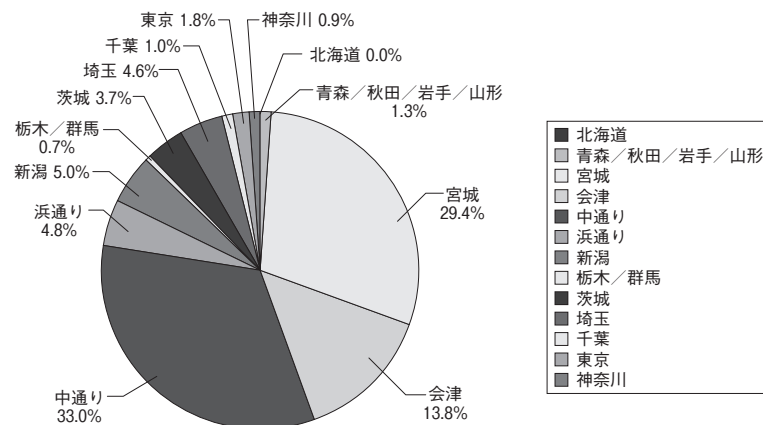
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料	無料		日数	有料	無料	日数	人数	
		人数	小中高校生 人数	その他 人数		人数	人数			
4	26	1,895	3,595	1,031				26	6,521	7.8%
5	27	2,675	7,132	923				27	10,730	12.8%
6	24	2,291	10,255	465				24	13,011	15.6%
7	27	1,997	3,146	969	11	1,046	243	27	7,401	8.9%
8	27	2,770	1,342	1,277	27	2,663	530	27	8,582	10.3%
9	25	2,104	5,590	904	20	1,431	297	25	10,326	12.3%
10	28	2,062	6,137	1,979	19	884	326	28	11,388	13.7%
11	27	1,612	977	2,590	22	972	647	27	6,798	8.2%
12	22	458	58	1,042				22	1,558	1.9%
1	23	580	101	356				23	1,037	1.2%
2	24	1,012	325	856				24	2,193	2.6%
3	26	2,059	350	1,321				26	3,730	4.5%
合計	306	21,515	39,008	13,713	99	6,996	2,043	306	83,275	100.0%

平成20年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数

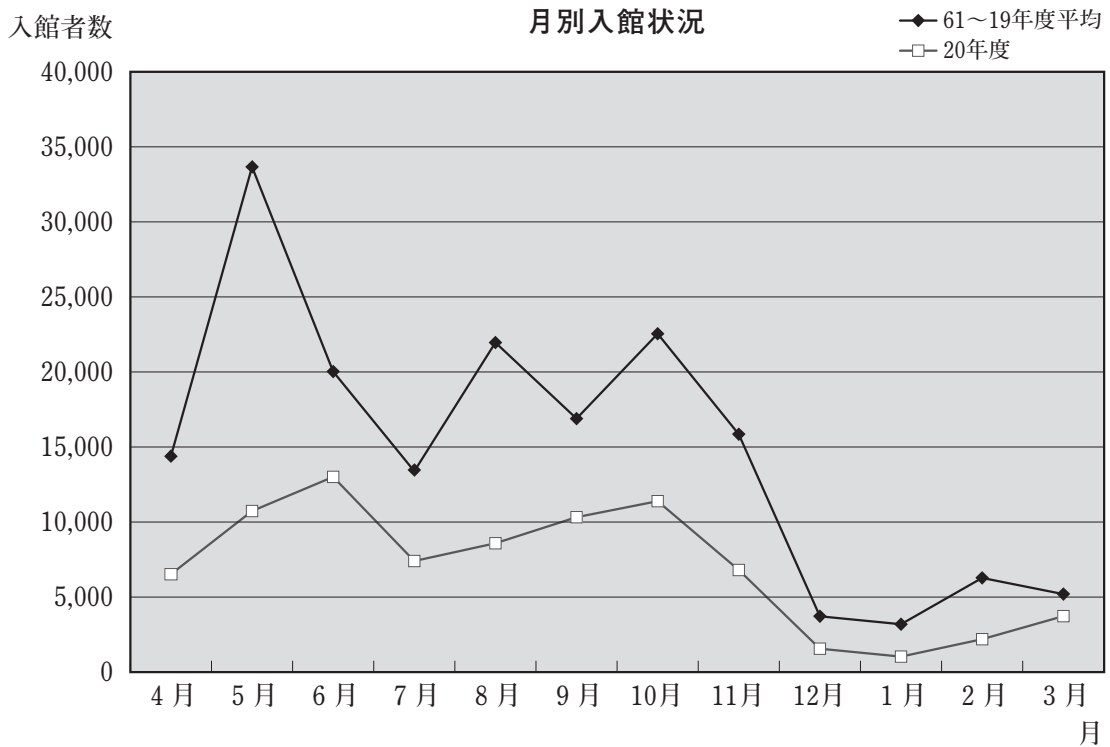
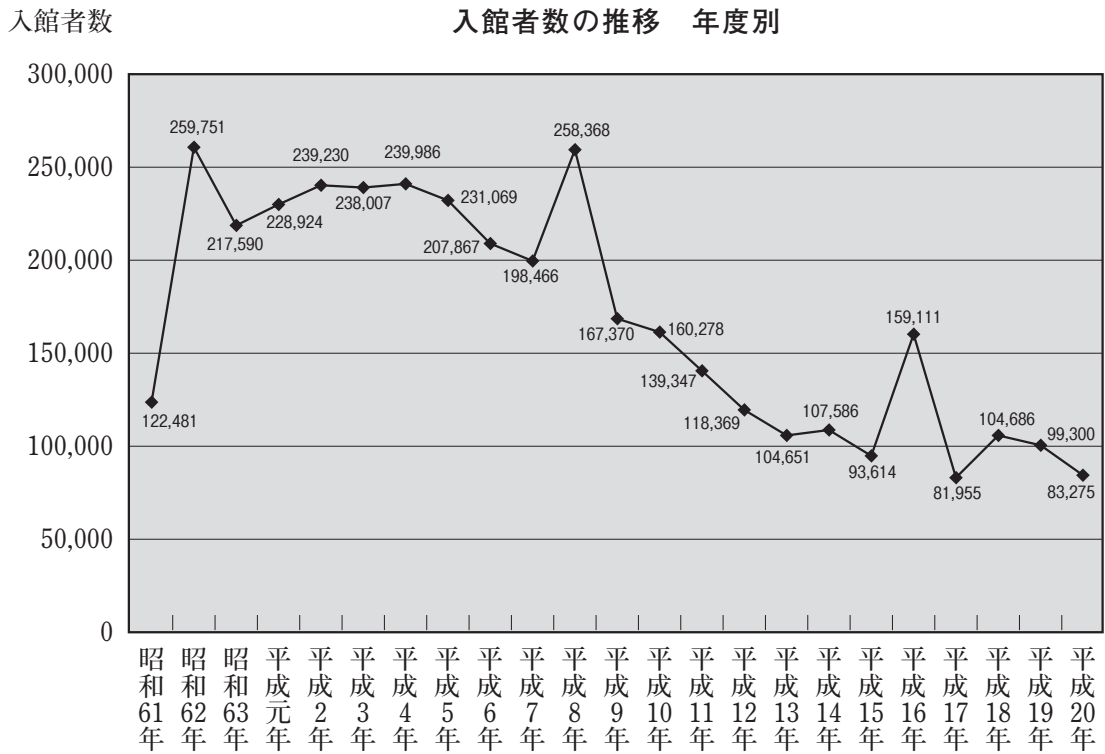


(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

区分	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9
4月		25,919	20,561	25,699	22,750	22,851	16,637	17,975	15,320	16,571	12,433	13,521
5月		48,367	35,853	52,872	50,265	52,723	56,983	50,452	38,693	42,832	40,138	39,844
6月		17,831	14,823	20,356	19,043	23,592	23,841	29,319	20,737	28,622	18,185	22,279
7月		23,356	22,651	18,456	24,050	20,340	22,800	21,138	12,328	15,340	9,725	8,036
8月		40,749	32,396	31,127	34,218	33,257	37,431	28,490	25,837	23,785	21,495	15,803
9月		24,259	20,198	18,248	17,008	21,882	20,334	18,285	16,551	16,428	15,879	13,082
10月	31,758	27,099	29,648	26,832	34,201	21,851	18,565	20,022	28,034	20,252	64,772	26,015
11月	49,868	27,082	21,234	16,058	18,482	15,682	17,592	15,629	19,857	15,096	50,811	10,290
12月	8,860	5,548	4,512	3,369	2,303	3,618	4,028	6,989	7,839	2,048	9,473	2,125
1月	6,531	4,010	4,959	4,048	3,813	8,675	5,073	4,993	4,732	2,701	3,141	2,111
2月	13,614	7,653	6,350	6,986	5,982	7,006	9,096	9,137	9,197	7,631	6,700	7,578
3月	11,850	7,878	4,405	4,873	7,115	6,530	7,606	8,640	8,742	7,160	5,616	6,686
合計	122,481	259,751	217,590	228,924	239,230	238,007	239,986	231,069	207,867	198,466	258,368	167,370
日数	133	297	296	299	299	298	297	293	296	298	294	295
日平均	921	875	735	766	800	799	808	789	702	666	879	567
月平均	20,414	21,646	18,133	19,077	19,936	19,834	19,999	19,256	17,322	16,539	21,531	13,948
累計	122,481	382,232	599,822	828,746	1,067,976	1,305,983	1,545,969	1,777,038	1,984,905	2,183,371	2,441,739	2,609,109
区分	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
4月	14,922	13,456	10,539	8,473	8,028	4,899	8,770	8,440	7,019	7,419	6,521	
5月	34,430	30,999	21,341	20,267	19,242	13,884	19,287	14,548	11,381	12,271	10,730	
6月	24,933	23,659	18,775	16,475	17,211	12,884	16,768	12,008	14,151	25,016	13,011	
7月	9,541	9,051	7,127	5,682	4,706	8,732	20,318	7,507	5,246	6,808	7,401	
8月	16,208	13,607	13,184	8,451	14,702	10,630	34,732	7,157	10,548	7,148	8,582	
9月	13,794	12,175	12,794	13,423	19,901	12,525	35,813	8,787	13,405	10,084	10,326	
10月	18,431	15,696	15,609	12,192	10,688	13,000	11,227	11,972	25,464	12,495	11,388	
11月	9,061	7,937	8,120	5,825	5,265	7,693	5,440	4,374	9,029	8,261	6,798	
12月	2,395	1,582	1,801	5,797	1,078	1,665	2,192	926	1,989	1,938	1,558	
1月	3,218	2,714	829	1,412	1,196	1,235	855	1,159	1,468	1,627	1,037	
2月	9,770	4,795	5,353	3,836	3,183	3,733	2,019	2,815	2,928	2,943	2,193	
3月	3,575	3,676	2,897	2,818	2,386	2,734	1,690	2,262	2,058	3,290	3,730	
合計	160,278	139,347	118,369	104,651	107,586	93,614	159,111	81,955	104,686	99,300	83,275	
日数	295	294	301	303	306	302	302	305	310	306	306	
日平均	543	474	393	345	352	310	527	269	338	325	272	
月平均	13,357	11,612	9,864	8,721	8,966	7,801	13,259	6,830	8,724	8,275	6,940	
累計	2,769,387	2,908,734	3,027,103	3,131,754	3,239,340	3,332,954	3,492,065	3,574,020	3,678,706	3,778,006	3,861,281	

入館者の推移グラフ(年度別月別)



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62.1.17～62.3.1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62.4.18～62.6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62.7.18～62.9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63.1.23～63.3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63.4.16～63.6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63.7.16～63.9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10.8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉾物の世界	元.1.21～元.3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元.4.18～元.6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元.7.4～元.9.3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元.9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2.1.20～2.3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2.4.21～2.6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2.7.6～2.9.2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2.9.22～2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3.1.19～3.3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3.4.16～3.6.9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3.7.20～3.9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～3.12.8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉾山のあゆみ	4.1.18～4.3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4.4.18～4.6.4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4.7.18～4.9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～4.12.6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5.1.16～5.3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5.4.17～5.6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5.7.17～5.9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～5.12.5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6.1.22～6.3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6.4.23～6.6.5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6.7.23～6.9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10.8～6.12.4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7.1.21～7.3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検具化石ワールド	7.4.22～7.6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7.7.22～7.9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10.7～7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8.1.20～8.3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8.4.20～8.6.9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8.7.20～7.9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10.5～8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
8	近代子どもの世界	9. 1.18～9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染 め る	9.10.10～9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠 澤 と 探 幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦 国 の 城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天 の 絹 絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日 本 の 美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷 河 時 代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新 弥 生 紀 行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生 の 中 の 死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊 かな る 世 界 へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集 古 十 種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食 と 考 古 学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化 石 芸 術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪 村 展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26	2,473	386	647	1,424	4,930
	発掘 ふくしま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老 い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布 の 声 を き く	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川將軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹 と 竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝 の 山 2 0 0 8	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠 藤 香 村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

	5/23迄	5/24～	4月	5/23迄	5/24以降	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
常設展示図録	1,100	1,100	7	6	1	4	9	3	8	8	4	1	2	3	6	62	68,200
武家の文化	1,100	600		1	1	3		3	1		1	2	1			13	8,300
福島のまつり	750	400				3	1	3	1	2					1	11	4,400
ふくしまの顔	1,000	500				1	3	1		1	1					7	3,500
陸奥の古瓦	800	400		1	1	1	1	2	1	3	1		1	2	2	16	6,800
江戸時代の流通路	1,000	500	4	5	2	8	2	3	1	2	5	2	1		2	37	23,000
鉱物の世界	800	400			1	3		1	1	3		1	1	18	13	42	16,800
縄文の四季	1,000	500	2			3		3	1	1					1	11	6,500
まちの成立とにぎわい	1,000	500			3	2		4		1	2		23			35	17,500
亜欧堂田善とその系譜	2,000	1,000							2	2	2			2		8	8,000
太古の生きものたち	1,000	500			1		1		1	1		1	3	1	2	11	5,500
日本の音色	1,500	800	1	1		2				1	1			1		7	7,000
シルクロード紀行	2,000	1,000				1										1	1,000
縄文絵巻	1,500	800	1	2	1	4	2	9	7	1	3			1	2	33	28,500
浜通りの仏像	1,000	500	1			2		1	3	1		1	1			10	5,500
ふくしま鉱山のあゆみ	1,500	800			1	1	2	6	2	4		1	1	4	4	26	20,800
マンガ文化の源流	2,000	1,000				4							1			5	5,000
定信と文晁	1,900	1,000		1	1	2	2	2		5	6			2		21	21,900
明治はじめて物語	1,000	500				2	1	2	1		3	2			11	22	11,000
稲とくらし	1,500	800	2			3	4	7	3	1	2	16		1	1	40	33,400
東北からの弥生文化	1,500	800				2	1	1	1	3					1	9	7,200
会津の自然史	1,500	800				1	1	7	5		3			12	15	44	35,200
玉堂と春琴・秋琴	2,200	1,100				1	6			2	1	1		1		12	13,200
げんき・病・元気	1,500	800	1	1				1	2					1	2	8	7,800
村芝居の世界	1,800	900		3	1	1	1	1	2							9	10,800
探検員化石ワールド	1,500	800		1					3				1			5	4,700
海のまくあけ	1,500	800				1										1	800
福島1000年時のかたち	1,700	900					3		3							6	5,400
いにしえの木匠	1,200	600				1		1			7			1	17	27	16,200
福島の山岳信仰	1,500	800	1	1		2	6	5	24	1		1	1		4	46	38,200
地震・火山・津波	1,000	500				2	1	8	5					1	1	18	9,000
近代子どもの世界	1,700	900				2	2	1						1	3	9	8,100
縄文たんけん	1,800	900					1	2			1	1				5	4,500
日本の魚学・水産学事始め	1,000	500								1			6			7	3,500
染める	1,200	600	1		1	5		1	2		1			2		13	8,400
遠澤と探幽	2,500	1,300			1				1		5	1		1		9	11,700
戦国の城	1,600	800	4	4	2	4		8	12		21	20		3	6	84	73,600
天の絹糸	2,500	1,300		1		3	1			1	1		1	3		11	15,500

	5/23迄	5/24～	4月	5/23迄	5/24以降	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
日本の美	1,500	800				1	1							1		3	2,400
氷河時代	1,400	1,400							1				1			2	2,800
新弥生紀行	2,200	2,200	2						1	1	2	1				7	15,400
生の中の死	1,800	1,800		3	1			1	3			1		2	1	12	21,600
豊かなる世界へ	1,100	1,100		1					1		1			1		4	4,400
集古十種	2,100	2,100	1	3			2		2	2	2	1		1	4	18	37,800
海獣パレオパラドキシア	1,200	1,200							1		1				1	3	3,600
英雄たちの系譜	1,000	1,000	1			1							1		1	4	4,000
食と考古学	1,000	1,000	1	1	1	1		1	1					1	1	10	10,000
肖像に見る福島を築いた人々	1,700	1,700									1			1		2	3,400
武者たちが通る	800	800		1		1	2	2	2		2	2	2	1		15	12,000
発掘ふくしま3	1,100	1,100		1		1		2	7	3					1	15	16,500
笑いの想像力	2,000	2,000		1	1	1										3	6,000
老い	2,000	2,000										3				3	6,000
婚 礼	1,500	1,500		4		1			1				1	1		8	12,000
馬と人との年代記	1,600	1,600	3		5				1				1	4	5	19	30,400
布の声をきく	1,300	1,300	1	2	1	1		2		4		1		7	3	22	28,600
徳川将軍家と会津松平家	1,200	1,200	9	10	3	6	6	12	14	9	10	6	3	9	9	106	127,200
樹 と 竹	1,200	1,200	2				20	1	8	1	5			4	1	42	50,400
わくわく!化石大集合	800	800		1	1			2			1		2	3	8	18	14,400
古代会津	250	250	181	134	1	3	6	25	12	6	23	6	4	2	8	411	102,750
会津磐梯山	1,000	1,000					153	154	119	8	7	6	2	6	10	465	465,000
遠藤香村	1,500	1,500								95	85	3	1	1	4	189	283,500
紀 要 (数量)			6	5		4	3	5	9	3		1		4	6	46	
紀 要 (金額)			12,400	7,500		7,300	5,400	8,700	14,800	5,000		2,200		7,500	9,500	80,300	80,300
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	1,300	2	2	2	2	4	5	4			12	3	1		37	48,100
福島 の 古 墳	1,200	1,200	4	6		3	3	5	4	5	2	1	2	1		36	43,200
福島 の 化 石	1,500	1,500	1					2		1				2	1	7	10,500
戦時下の福島	800	800	1	2			2	2	1	1				2	2	13	10,400
福島 の 年 中 行 事	1,100	1,100		2											1	3	3,300
小学校における博物館学習指導の手引き	700	700				1		1	1	1						4	2,800
常世原田遺跡	600	600		1				1	1	2						5	3,000
ふくしまの農具	1,000	1,000	3			2	1	1	2	1		1			1	12	12,000
博物館と遊ぼう	1,000	1,000		3		1	3	6	1	1	2	1				18	18,000
ガイドブック	300	300	6	7	1	6	5	18	5	1	2	1		4	5	61	18,300
報告書(数量)			5	8	2	7	6	13	20	11	11	2	5	4	13	107	
報告書(金額)			5,000	11,400	1,800	6,100	8,800	16,900	19,900	15,300	19,700	2,200	7,100	3,200	12,400	129,800	129,800
絵 葉 書	50	50	49	25		68	34	18	36	27	42	4	13	6	20	342	17,100
クリアホルダー	200	200								70	88	16	6	3	8	191	38,200
合 計			303	251	37	185	302	365	351	228	275	101	85	130	200	2,813	2,271,550

V 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年12月24日条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特 別 観 覧 料 の 額
	個 人	団 体	
一般(大学生を含む。)	260円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無 料	無 料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年3月25日 条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続き)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額)
福島県立博物館	福島県立博物館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年	月	日	
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人	金額 円
	合	計		
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則（平成6年3月15日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年3月27日教育委員会規則第6号）
この規則は、平成13年4月1日から施行する。
附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則
この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
 - (1) 展示計画原案の作成
 - (2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集
 - (3) 展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則
この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。
昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

- イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。
- ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
 - 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事	若干名
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

VI 施設の概要

1. 建築概要

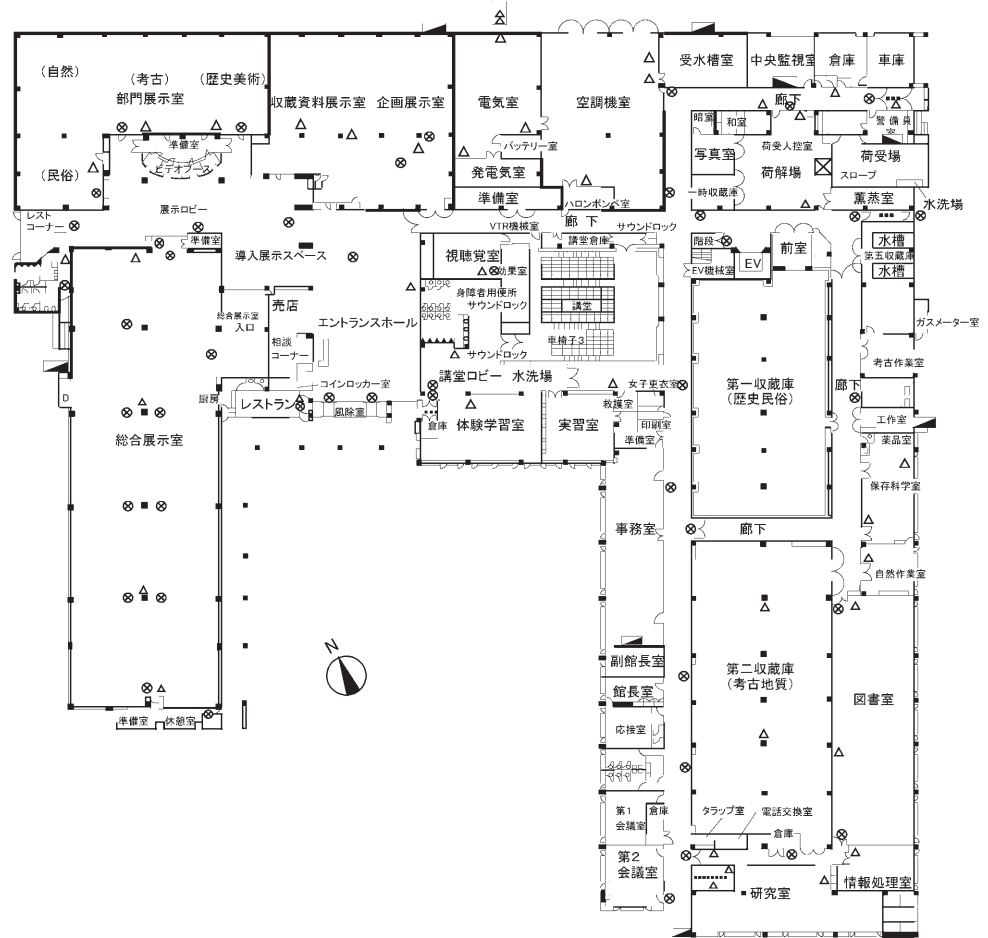
設計者	(株)佐藤武夫設計事務所	外構工事	368,688
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所	その他庁用備品等	201,739
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)	規 模	地上2階
面 積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1 階 9,980.45㎡ 2 階 1,090.99㎡	最高の高さ	20.6m
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500	最高の軒高	13.6m
		地域地区	住居地域 風致地区第1種
		構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
		外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート版 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ (エントランスホール・展示ロビー)
		内部仕上げ	床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40㎜ 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12㎜ 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講 堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12㎜ 壁 杉板厚12㎜ ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12㎜ 本実張
		工 期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

2. 設 備

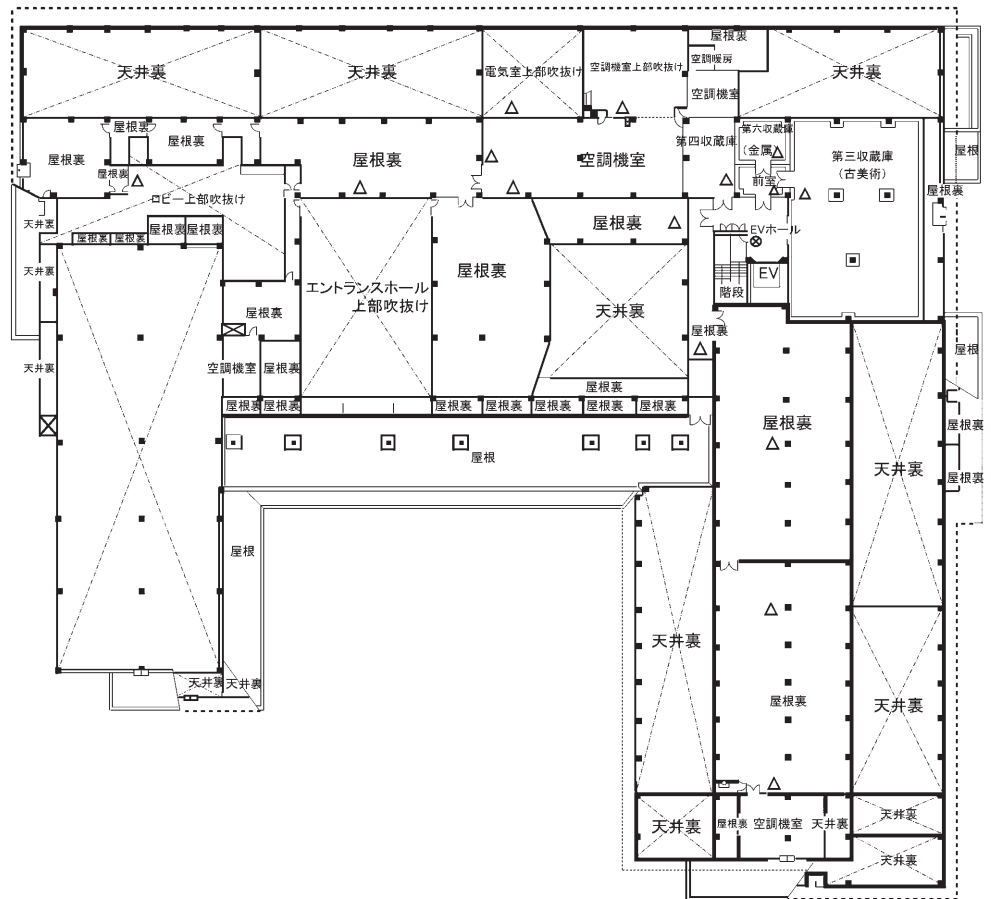
電気設備	1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KVA (冬季用) 400KVA 2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック	2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消火設備の併用、(屋外) 野外消火栓
空調設備	1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコイル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷水発生器(150RT) ×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー(396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット(120RT)	昇降機設備 油圧式エレベーター定格荷重: 3 t 1基 油圧式リフト 定格荷重: 2 t 1基
衛生設備	1. 給 水 市水道 受水槽: 50㎡	融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転
		監視設備 分散形総合監理制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う
		電話設備 電子交換外線3回線 内線64回線
		火災報知設備 受信盤P型1級 60回線(自火報) 33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表示
		防犯設備 電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇所設置し、監視制御システムと併用

3. 平面図・各室一覧

1階平面図



2階平面図



各室面積表

室名	面積 (㎡)	備考	室名	面積 (㎡)	備考
収蔵スペース		2,294.8 (㎡)	応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫 A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫 B	43.6	
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・収蔵資料用
研究スペース		788.3 (㎡)	機械スペース		1,253.1 (㎡)
研究室	238.4		空調機室 1 F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室 2 F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース		2,815.1 (㎡)	ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース		2,507.54 (㎡)
教育普及スペース		693.1 (㎡)	エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワークショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース		719.5 (㎡)	その他	1202.64	
事務室	166.1		計	11071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成7年8月9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成8年10月1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場2台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年1月6日	熱源コントローラー交換工事（～18.3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～18.3.17）
平成19年1月5日	スプリンクラー設備修繕工事（～19.3.23）
平成19年2月1日	1階床張替え補修工事（～19.3.23）
平成19年2月21日	ウォシュレット取付け工事（～19.3.19）
平成21年1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～21.3.24）

Ⅶ 利用案内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内清掃などのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金

一般・大学生260円（210円） 高校生以下は無料

◎企画展 そのつど定めます。

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料

また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）

★展示室以外の入館は無料。

●常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）／8月21日（県民の日）

●企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

●交通案内



◎会津若松駅より約3 km

◎市内バス利用の場合

- ①市内1コース 県立病院前下車徒歩5分
- ②鶴ヶ城経由飯盛山行 鶴ヶ城北口県立博物館前下車徒歩4分
- ③まちなか周遊バス「ハイカラさん」 鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第23号

平成21年11月13日 印刷

平成21年11月13日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市北町大字始字深町67-2

TEL (0242) 32-2366

FAX (0242) 32-2396

<http://aizu-hokuto.com/>

この年報の本文は再生紙を使用しています。